

令和3年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査  
報告書

令和4年8月

日本私立短期大学協会  
就職問題委員会



# 目 次

	頁
調査の概要	1
平成4年度～令和3年度卒業生における就職決定率の推移	3
私立短大卒業生の進路状況	4
私立短大卒業生における就職決定者の状況	5
正規雇用率の推移	6
地域別正規雇用率の推移	7
令和3年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査 集計結果	
1 地域別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数	8
2 分野別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数	10
3 地域別・分野別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数	12
4 地域別の就職以外の進路者数	15
5 分野別の就職以外の進路者数	15
6 地域別・分野別の就職以外の進路者数	16
<b>* 企業・団体、専門職共通</b>	
・企業・団体、専門職共通 就職部署における取り組みについて（意見のまとめ）	19
・ ” （具体的記述内容）	21
<b>* 企業・団体の正規雇用率の推移</b>	41
・企業・団体における地域別雇用形態の状況	42
・企業・団体の前年度と比較して変化のあったもの （意見のまとめ）	43
・ ” （具体的記述内容）	45
・企業・団体の具体的な事例や対応について （意見のまとめ）	61
・ ” （具体的記述内容）	62
<b>* 幼稚園教諭・保育士</b>	
・幼稚園教諭の正規雇用率の推移	73
・幼稚園教諭の地域別雇用形態の状況	74
・保育士の正規雇用率の推移	76
・保育士の地域別雇用形態の状況	77
・幼稚園教諭・保育士の前年度と比較して変化のあったもの （意見のまとめ）	79
・ ” （具体的記述内容）	81
・幼稚園教諭・保育士の具体的な事例や対応について （意見のまとめ）	94
・ ” （具体的記述内容）	96

<b>* 介護福祉士の正規雇用率の推移</b>		<b>113</b>
・介護福祉士の地域別雇用形態の状況		114
・介護福祉士の前年度と比較して変化のあったもの	(意見のまとめ)	116
・	”	(具体的記述内容) 117
・介護福祉士の具体的な事例や対応について	(意見のまとめ)	121
・	”	(具体的記述内容) 122
<b>* 栄養士の正規雇用率の推移</b>		<b>126</b>
・栄養士の地域別雇用形態の状況		127
・栄養士の前年度と比較して変化のあったもの	(意見のまとめ)	129
・	”	(具体的記述内容) 131
・栄養士の具体的な事例や対応について	(意見のまとめ)	138
・	”	(具体的記述内容) 140
<b>* その他の（国家資格・免許を必要とする）専門職の雇用形態の状況</b>		<b>145</b>
・その他の専門職の前年度と比較して変化のあったもの	(意見のまとめ)	146
・	”	(具体的記述内容) 148
・その他の専門職の具体的な事例や対応について	(意見のまとめ)	157
・	”	(具体的記述内容) 158
<b>* 公務員の地域別雇用形態の状況</b>		<b>172</b>
付・調査紙（縮小版）		173
・就職問題委員会委員一覧		

## 調査の概要

### 1) 調査の目的

毎年度、日本私立短期大学協会に加盟の会員短大を対象に卒業後の状況調査を実施することにより、地域別および分野別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数・就職以外の進路者数等について把握し、今後の私立短期大学におけるよりよい就職支援を模索するための基礎資料とする。

なお、短期大学卒業生の雇用形態の状況を把握するため、就職決定者の正規雇用、非正規雇用の具体的人数を調査し、その結果から、近年特に問題視されている労働条件、処遇等に対する喫緊の課題に取り組む資料とする。

また、自県内就職者数を調査することにより、地域に密着した短期大学の状況をより正確に把握するための資料としたい。

### 2) 調査対象

日本私立短期大学協会加盟の286短大のうち、第2部(夜間部)のみ設置の4短大および通信教育課程のみ設置短大1校を除く281短大における第1部(昼間部)学科。

### 3) 調査方法

事務局より、メールにて各短大大学長あて、「令和3年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」について、調査依頼を行い、電子媒体により回答を求めた。

### 4) 調査時期

令和4年4月27日～5月27日

### 5) 集計回答校数

集計回答校数は、281短大中、281短大。(回答率100%)

(参考)	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
調査対象校	484	489	491	488	490
回答校数	454	467	454	458	458
回答率(%)	93.8	95.5	92.5	93.9	93.5
	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
調査対象校	485	484	470	457	442
回答校数	460	449	447	435	414
回答率(%)	94.8	92.8	95.1	95.2	93.7
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
調査対象校	428	405	391	376	366
回答校数	406	402	386	368	360
回答率(%)	95.0	99.3	98.7	97.9	98.4
	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
調査対象校	357	350	342	336	331
回答校数	327	326	333	327	331
回答率(%)	91.6	93.1	97.4	97.3	100.0
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
調査対象校	325	320	314	309	305
回答校数	323	319	313	309	305
回答率(%)	99.4	99.7	99.7	100.0	100.0
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
調査対象校	298	296	291	286	281
回答校数	298	296	291	286	281
回答率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

## 6) 集計件数

就職決定者の各集計件数は、下記の通り。

	企業・団体	公務員	幼稚園教諭	保育士	栄養士	介護福祉士	その他の 専門職
北海道	29	15	12	1	1	5	7
東北	35	9	17	18	6	10	4
関東	67	22	37	37	7	11	19
東京	40	12	13	12	1	8	11
中部	79	23	33	32	9	14	18
近畿	45	13	22	23	6	6	9
大阪	32	5	13	15	5	4	8
中国	30	8	15	15	3	7	8
四国	21	7	7	7	2	5	2
九州	60	14	29	29	9	16	15

## 7) 地域の分類

地域の表記については、本協会の支部の区分による下記 9 ブロックとする。

なお、各地域の当該県は次の通り。

### 北海道

東北 … 青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島

関東 … 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、山梨

### 東京

中部 … 富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重

近畿 … 滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山

### 大阪

中四国 (中国) … 鳥取、岡山、広島、山口 (四国) … 徳島、香川、愛媛、高知

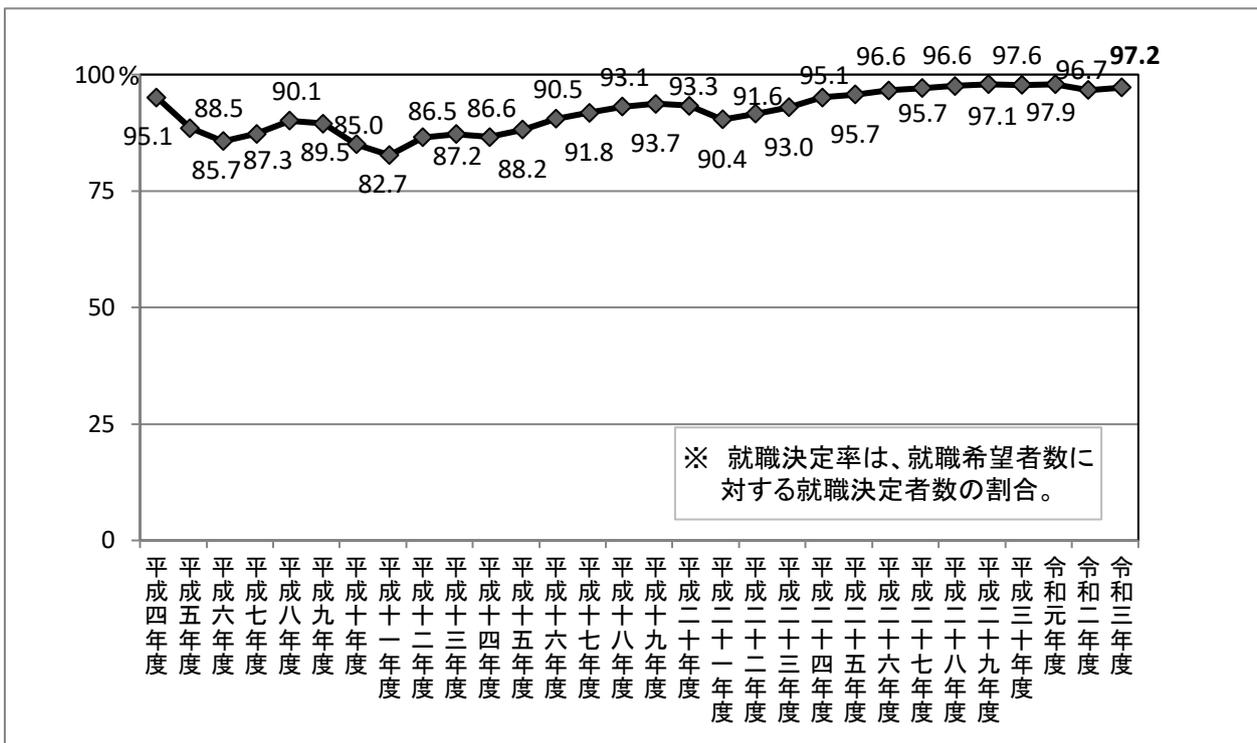
九州 … 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

## 8) 報告書作成にあたって

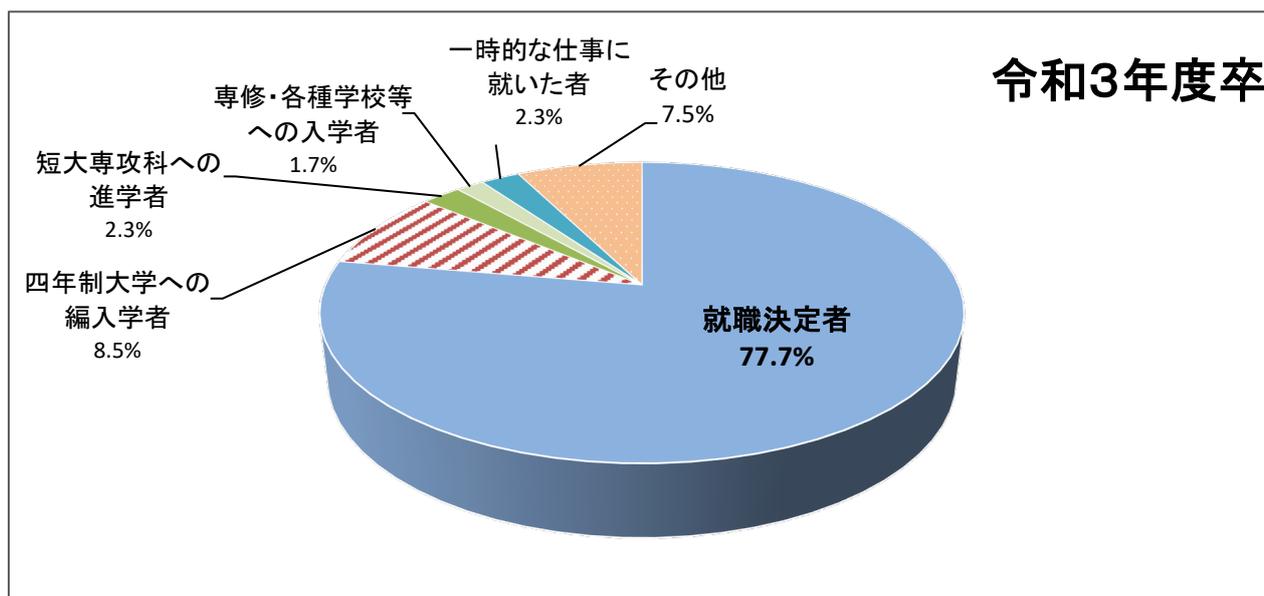
回答のあった調査票1および調査票2の集計について、調査票1は、コンピュータ集計により得られた結果を基に作表した。また、調査票2については、就職問題委員会委員により、各項目ごとに分担して記述内容を一覧にしたうえで、まとめを行った。

## 平成4年度～令和3年度卒業生における就職決定率の推移

当 該 年 度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
	平成5年3月卒	平成6年3月卒	平成7年3月卒	平成8年3月卒	平成9年3月卒
就職決定率	95.1	88.5	85.7	87.3	90.1
当 該 年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
	平成10年3月卒	平成11年3月卒	平成12年3月卒	平成13年3月卒	平成14年3月卒
就職決定率	89.5	85.0	82.7	86.5	87.2
当 該 年 度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	平成15年3月卒	平成16年3月卒	平成17年3月卒	平成18年3月卒	平成19年3月卒
就職決定率	86.6	88.2	90.5	91.8	93.1
当 該 年 度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	平成20年3月卒	平成21年3月卒	平成22年3月卒	平成23年3月卒	平成24年3月卒
就職決定率	93.7	93.3	90.4	91.6	93.0
当 該 年 度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	平成25年3月卒	平成26年3月卒	平成27年3月卒	平成28年3月卒	平成29年3月卒
就職決定率	95.1	95.7	96.6	97.1	97.6
当 該 年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	平成30年3月卒	平成31年3月卒	令和2年3月卒	令和3年3月卒	令和4年3月卒
就職決定率	97.9	97.8	97.9	96.7	97.2



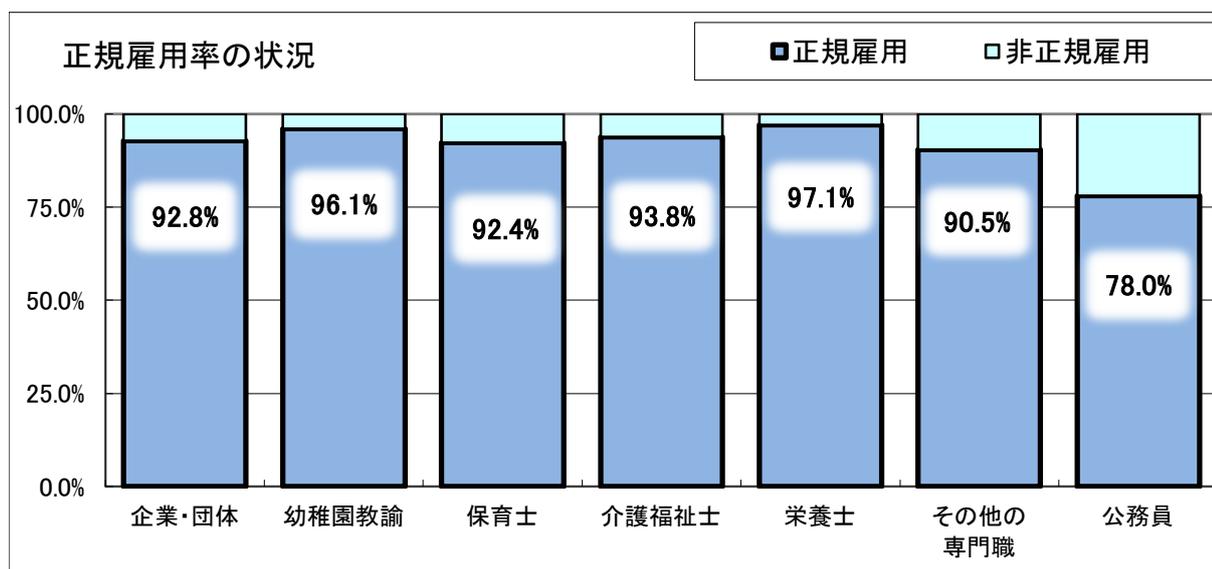
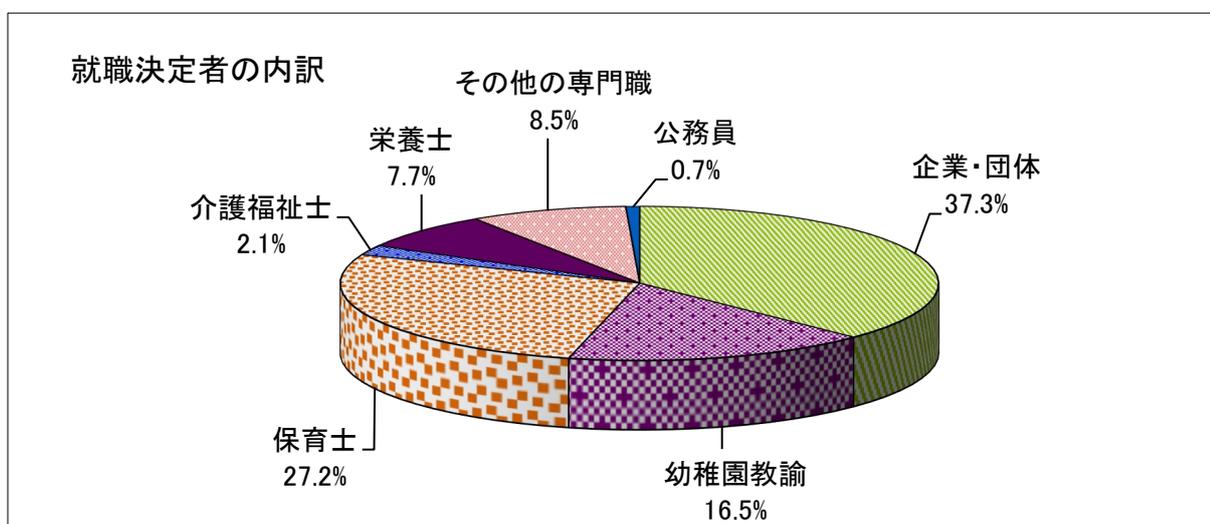
## 私立短大卒業生の進路状況



経年の割合	卒業者数	就職決定者	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他
令和3年度	42,308	32,857	3,578	992	711	987	3,183 (人)
	(100%)	77.7	8.5	2.3	1.7	2.3	7.5 (%)
令和2年度	(100%)	79.4	7.2	1.9	1.3	2.3	7.8
令和元年度	(100%)	82.5	6.1	2.0	1.1	1.7	6.5
平成30年度	(100%)	82.9	5.6	2.1	1.3	1.9	6.3
平成29年度	(100%)	82.8	5.7	2.4	1.2	1.8	6.1
平成28年度	(100%)	81.6	5.8	2.5	1.4	2.1	6.5
平成27年度	(100%)	79.9	6.2	2.8	1.6	2.4	7.1
平成26年度	(100%)	78.9	6.2	2.8	1.5	2.4	8.3
平成25年度	(100%)	76.3	6.7	3.1	1.7	3.0	9.2
平成24年度	(100%)	74.5	7.0	3.1	2.1	3.4	10.0
平成23年度	59,830	42,876	4,144	1,722	1,317	2,558	7,213 (人)
	(100%)	71.7	6.9	2.9	2.2	4.3	12.1 (%)

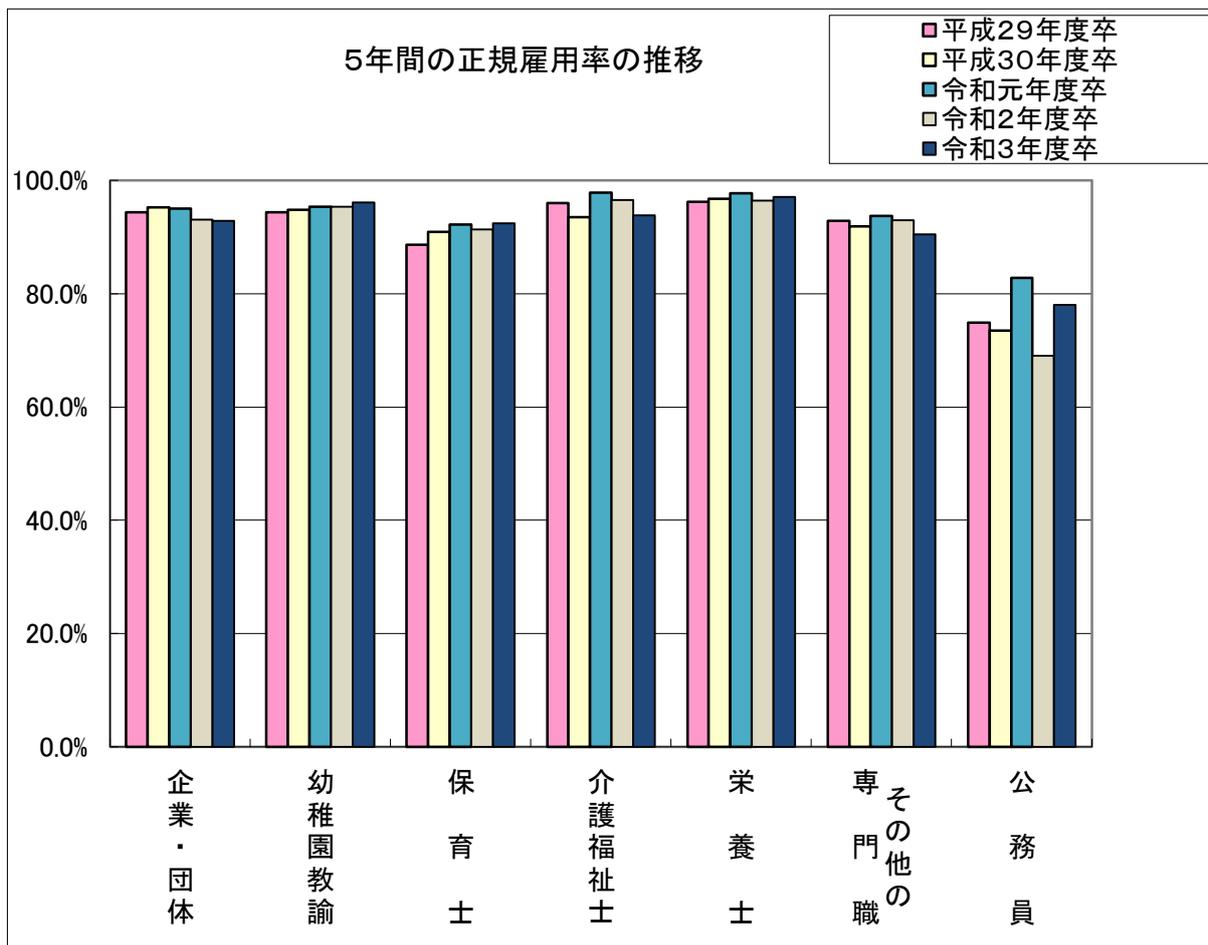
## 私立短大卒業生における就職決定者の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
企業・団体	12270	11383	887	92.8%
幼稚園教諭	5409	5200	209	96.1%
保育士	8939	8256	683	92.4%
介護福祉士	680	638	42	93.8%
栄養士	2515	2441	74	97.1%
その他の専門職	2798	2531	267	90.5%
公務員	246	192	54	78.0%
計	32,857	30,641	2,216	93.3%



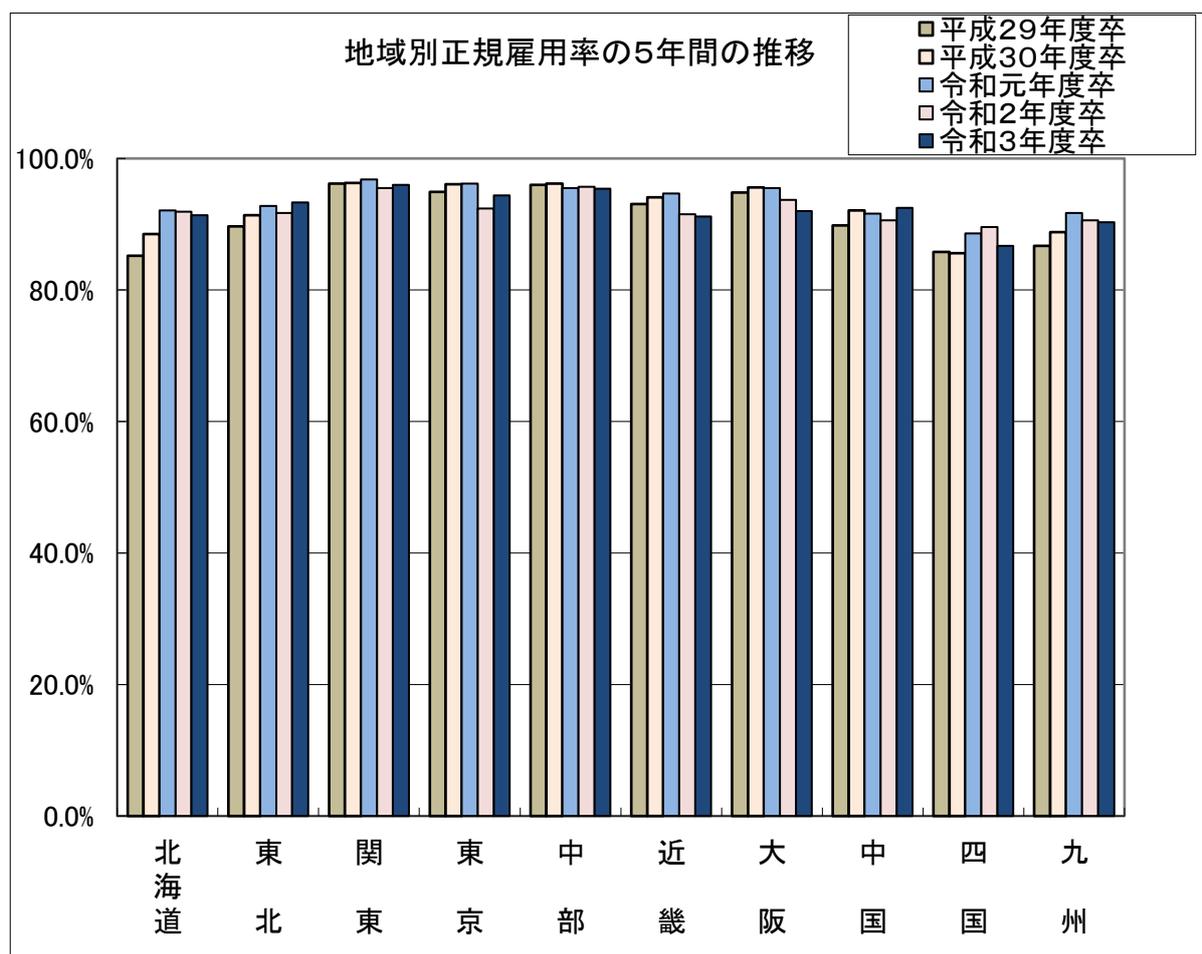
## 正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成29年度卒	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒
企業・団体	94.4%	95.2%	95.0%	93.1%	92.8%
幼稚園教諭	94.4%	94.8%	95.3%	95.3%	96.1%
保育士	88.6%	90.9%	92.2%	91.3%	92.4%
介護福祉士	96.0%	93.5%	97.8%	96.5%	93.8%
栄養士	96.2%	96.7%	97.7%	96.4%	97.1%
その他の 専門職	92.8%	91.9%	93.7%	93.0%	90.5%
公務員	74.9%	73.5%	82.8%	69.0%	78.0%
計	92.7%	93.7%	94.4%	93.1%	93.3%



## 地域別正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成29年度卒	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒
北海道	85.2%	88.5%	92.1%	91.9%	91.4%
東北	89.7%	91.4%	92.8%	91.7%	93.3%
関東	96.2%	96.3%	96.8%	95.5%	96.0%
東京	94.9%	96.1%	96.2%	92.4%	94.4%
中部	96.0%	96.2%	95.5%	95.7%	95.4%
近畿	93.1%	94.1%	94.7%	91.5%	91.2%
大阪	94.8%	95.6%	95.5%	93.7%	92.0%
中国	89.8%	92.1%	91.6%	90.6%	92.5%
四国	85.8%	85.6%	88.6%	89.6%	86.7%
九州	86.7%	88.8%	91.7%	90.6%	90.3%
全国	92.7%	93.7%	94.4%	93.1%	93.3%



## 令和3年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査 集計結果

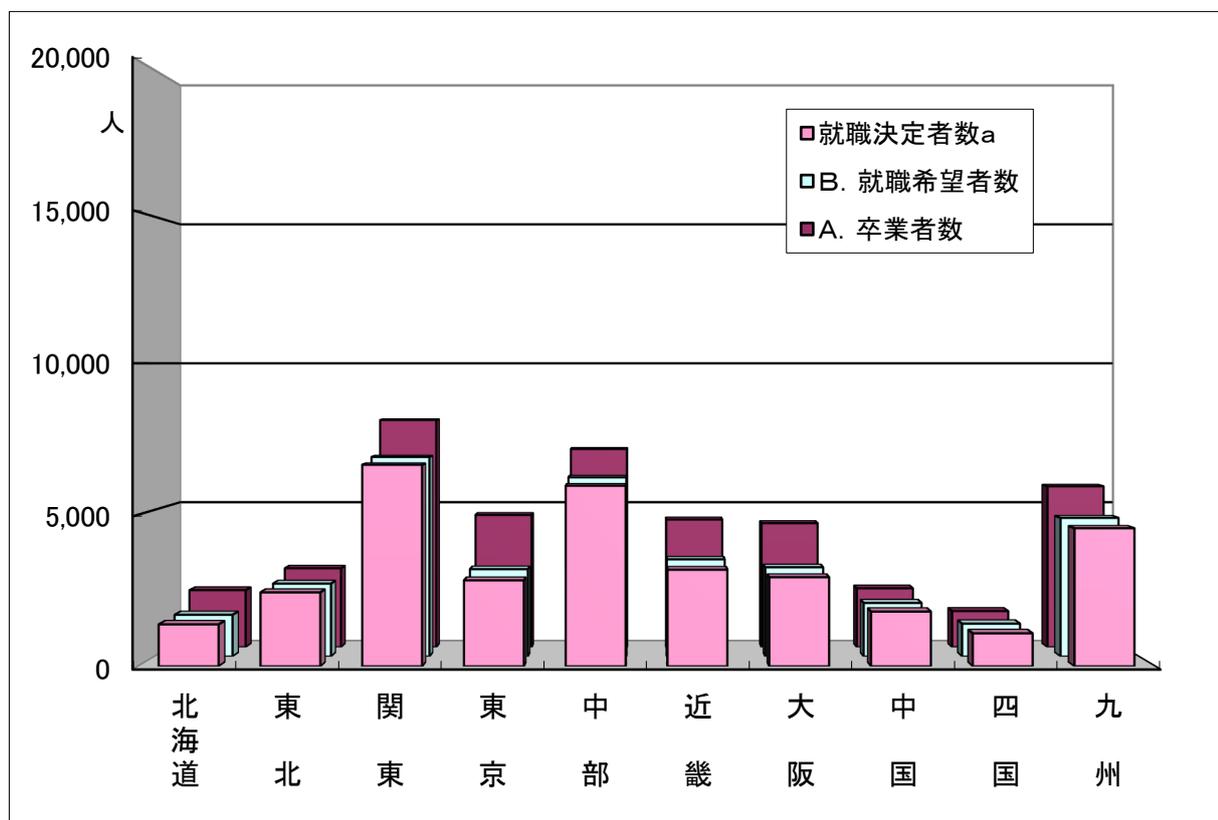
### 1 地域別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数

	卒業生数 A	就職 希望者数 B	就職 決定者数 a	自県内 就職者数 c	就職希望率 B/A (%)	就職決定率 a/B (%)	就職者 の割合 a/A (%)	自県内 就職率 c/a (%)
全 国	42,308	33,820	32,857	24,697	79.9	97.2	77.7	75.2
北海道	2,011	1,421	1,384	1,184	70.7	97.4	68.8	85.5
東 北	2,780	2,485	2,440	1,875	89.4	98.2	87.8	76.8
関 東	8,002	6,804	6,651	4,768	85.0	97.8	83.1	71.7
東 京	4,658	2,976	2,837	1,650	63.9	95.3	60.9	58.2
中 部	6,979	6,110	5,961	4,832	87.5	97.6	85.4	81.1
近 畿	4,497	3,312	3,190	1,985	73.6	96.3	70.9	62.2
大 阪	4,369	3,042	2,940	2,309	69.6	96.6	67.3	78.5
中四国	3,345	2,943	2,897	2,326	88.0	98.4	86.6	80.3
中 国	2,074	1,825	1,808	1,406	88.0	99.1	87.2	77.8
四 国	1,271	1,118	1,089	920	88.0	97.4	85.7	84.5
九 州	5,667	4,727	4,557	3,768	83.4	96.4	80.4	82.7

地域別就職決定者の雇用形態別内訳

	就職 決定者数	正 規 雇用者数	非正規 雇用者数	正 規 雇用率
全 国	32,857	30,641	2,216	93.3%
北 海 道	1,384	1,265	119	91.4%
東 北	2,440	2,277	163	93.3%
関 東	6,651	6,387	264	96.0%
東 京	2,837	2,679	158	94.4%
中 部	5,961	5,688	273	95.4%
近 畿	3,190	2,908	282	91.2%
大 阪	2,940	2,706	234	92.0%
中 四 国	2,897	2,616	281	90.3%
中 国	1,808	1,672	136	92.5%
四 国	1,089	944	145	86.7%
九 州	4,557	4,115	442	90.3%

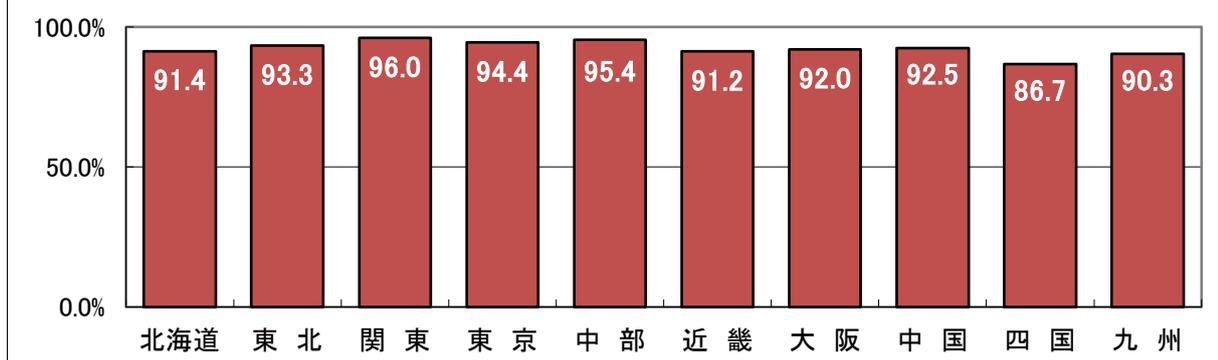
地域別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数



地域別自県内就職率



地域別就職決定者の正規雇用率



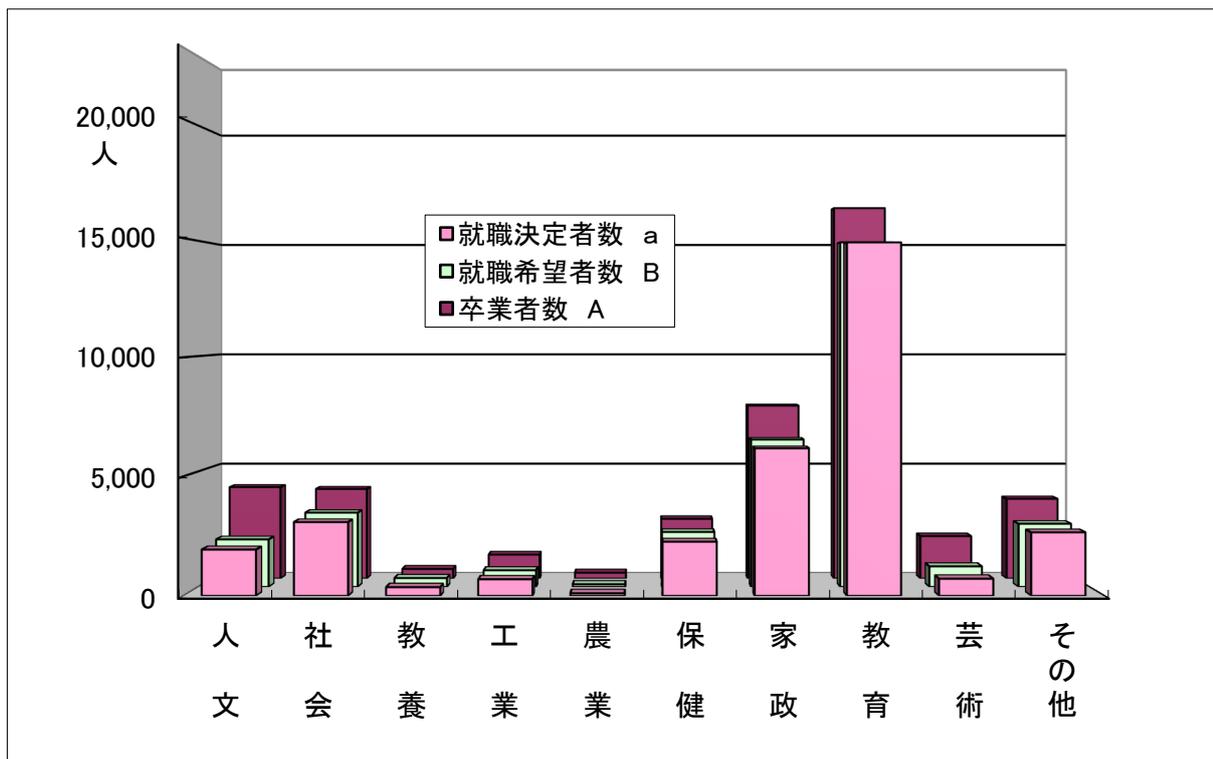
## 2 分野別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数

	卒業者数 A	就職 希望者数 B	就職 決定者数 a	自県内 就職者数 c	就職希望率 B/A (%)	就職決定率 a/B (%)	就職者 の割合 a/A (%)	自県内 就職率 c/a (%)
全国	42,308	33,820	32,857	24,697	79.9	97.2	77.7	75.2
人文	4,091	2,060	1,941	1,237	50.4	94.2	47.4	63.7
社会	4,008	3,219	3,092	2,188	80.3	96.1	77.1	70.8
教養	428	383	364	332	89.5	95.0	85.0	91.2
工業	1,070	719	695	278	67.2	96.7	65.0	40.0
農業	262	111	108	64	42.4	97.3	41.2	59.3
保健	2,674	2,381	2,272	1,657	89.0	95.4	85.0	72.9
家政	7,736	6,386	6,186	4,596	82.5	96.9	80.0	74.3
教育	16,574	14,932	14,817	12,036	90.1	99.2	89.4	81.2
芸術	1,896	890	719	434	46.9	80.8	37.9	60.4
その他	3,569	2,739	2,663	1,875	76.7	97.2	74.6	70.4

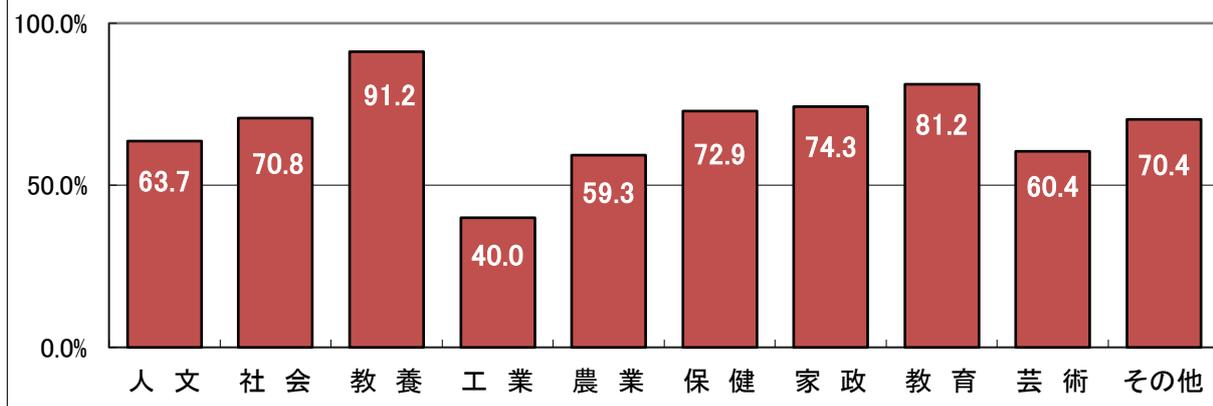
分野別就職決定者の雇用形態別内訳

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規雇用率
全国	32,857	30,641	2,216	93.3%
人文	1,941	1,733	208	89.3%
社会	3,092	2,943	149	95.2%
教養	364	350	14	96.2%
工業	695	693	2	99.7%
農業	108	105	3	97.2%
保健	2,272	2,191	81	96.4%
家政	6,186	5,792	394	93.6%
教育	14,817	13,713	1,104	92.5%
芸術	719	624	95	86.8%
その他	2,663	2,497	166	93.8%

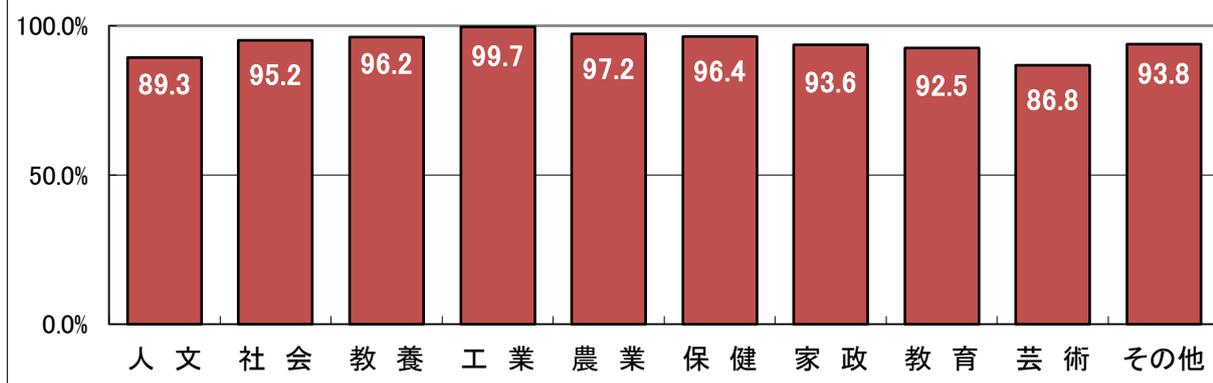
分野別の卒業者数・就職希望者数・就職決定者数



分野別自県内就職率



分野別就職決定者の正規雇用率



### 3 地域別・分野別の卒業生数・就職希望者数・就職決定者数

地域	分野	卒業生数 A	就職希望者数 B	就職決定者数 a	自県内就職者数 c	就職希望率 B/A	就職決定率 a/B	自県内就職率 c/a	就職者の割合 a/A (%)
北海道	人文	421	146	142	109	34.7	97.3	76.8	33.7
	社会	153	146	144	55	95.4	98.6	38.2	94.1
	教養	188	175	163	157	93.1	93.1	96.3	86.7
	農業	160	35	35	30	21.9	100.0	85.7	21.9
	家政	372	319	306	265	85.8	95.9	86.6	82.3
	教育	644	549	547	523	85.2	99.6	95.6	84.9
	その他	73	51	47	45	69.9	92.2	95.7	64.4
	小計	2,011	1,421	1,384	1,184	70.7	97.4	85.5	68.8
東北	人文	38	27	27	16	71.1	100.0	59.3	71.1
	社会	249	205	201	157	82.3	98.0	78.1	80.7
	保健	348	318	304	199	91.4	95.6	65.5	87.4
	家政	532	465	456	346	87.4	98.1	75.9	85.7
	教育	1,128	1,046	1,042	838	92.7	99.6	80.4	92.4
	その他	485	424	410	319	87.4	96.7	77.8	84.5
	小計	2,780	2,485	2,440	1,875	89.4	98.2	76.8	87.8
関東	人文	698	401	373	174	57.4	93.0	46.6	53.4
	社会	850	728	706	402	85.6	97.0	56.9	83.1
	工業	107	104	104	45	97.2	100.0	43.3	97.2
	保健	609	549	542	395	90.1	98.7	72.9	89.0
	家政	747	677	662	465	90.6	97.8	70.2	88.6
	教育	3,772	3,475	3,453	2,756	92.1	99.4	79.8	91.5
	芸術	189	79	51	30	41.8	64.6	58.8	27.0
	その他	1,030	791	760	501	76.8	96.1	65.9	73.8
	小計	8,002	6,804	6,651	4,768	85.0	97.8	71.7	83.1

地域	分野	卒業者数 A	就職希望者数 B	就職決定者数 a	自県内就職者数 c	就職希望率 B/A	就職決定率 a/B	自県内就職率 c/a	就職者の割合 a/A (%)
東京	人文	876	548	517	348	62.6	94.3	67.3	59.0
	社会	436	195	172	77	44.7	88.2	44.8	39.4
	工業	164	21	17	3	12.8	81.0	17.6	10.4
	保健	276	215	201	113	77.9	93.5	56.2	72.8
	家政	1,315	941	911	553	71.6	96.8	60.7	69.3
	教育	1,105	873	854	435	79.0	97.8	50.9	77.3
	芸術	486	183	165	121	37.7	90.2	73.3	34.0
	小計	4,658	2,976	2,837	1,650	63.9	95.3	58.2	60.9
中部	人文	386	309	288	248	80.1	93.2	86.1	74.6
	社会	958	857	849	739	89.5	99.1	87.0	88.6
	教養	98	89	84	73	90.8	94.4	86.9	85.7
	工業	373	309	309	100	82.8	100.0	32.4	82.8
	保健	636	596	537	416	93.7	90.1	77.5	84.4
	家政	1,326	1,123	1,093	862	84.7	97.3	78.9	82.4
	教育	2,551	2,337	2,330	2,045	91.6	99.7	87.8	91.3
	芸術	182	125	113	51	68.7	90.4	45.1	62.1
	その他	469	365	358	298	77.8	98.1	83.2	76.3
	小計	6,979	6,110	5,961	4,832	87.5	97.6	81.1	85.4
近畿	人文	407	199	188	76	48.9	94.5	40.4	46.2
	社会	308	177	170	74	57.5	96.0	43.5	55.2
	工業	228	180	161	73	78.9	89.4	45.3	70.6
	農業	33	32	32	6	97.0	100.0	18.8	97.0
	保健	73	73	67	60	100.0	91.8	89.6	91.8
	家政	775	589	574	340	76.0	97.5	59.2	74.1
	教育	1,709	1,483	1,470	1,080	86.8	99.1	73.5	86.0
	芸術	288	119	76	31	41.3	63.9	40.8	26.4
	その他	676	460	452	245	68.0	98.3	54.2	66.9
	小計	4,497	3,312	3,190	1,985	73.6	96.3	62.2	70.9

地域	分野	卒業者数 A	就職希望者数 B	就職決定者数 a	自県内就職者数 c	就職希望率 B/A	就職決定率 a/B	自県内就職率 c/a	就職者の割合 a/A (%)
大阪	人文	904	199	193	104	22.0	97.0	53.9	21.3
	社会	277	249	248	209	89.9	99.6	84.3	89.5
	保健	378	349	346	267	92.3	99.1	77.2	91.5
	家政	684	586	567	458	85.7	96.8	80.8	82.9
	教育	1,379	1,240	1,234	1,065	89.9	99.5	86.3	89.5
	芸術	424	186	127	64	43.9	68.3	50.4	30.0
	その他	323	233	225	142	72.1	96.6	63.1	69.7
	小計	4,369	3,042	2,940	2,309	69.6	96.6	78.5	67.3
中 四 国	人文	11	9	9	5	81.8	100.0	55.6	81.8
	社会	306	262	253	190	85.6	96.6	75.1	82.7
	工業	60	55	55	39	91.7	100.0	70.9	91.7
	保健	297	240	240	177	80.8	100.0	73.8	80.8
	家政	886	753	728	578	85.0	96.7	79.4	82.2
	教育	1,498	1,419	1,409	1,173	94.7	99.3	83.3	94.1
	芸術	176	104	103	77	59.1	99.0	74.8	58.5
	その他	111	101	100	87	91.0	99.0	87.0	90.1
	小計	3,345	2,943	2,897	2,326	88.0	98.4	80.3	86.6
九 州	人文	350	222	204	157	63.4	91.9	77.0	58.3
	社会	471	400	349	285	84.9	87.3	81.7	74.1
	教養	142	119	117	102	83.8	98.3	87.2	82.4
	工業	138	50	49	18	36.2	98.0	36.7	35.5
	農業	69	44	41	28	63.8	93.2	68.3	59.4
	保健	57	41	35	30	71.9	85.4	85.7	61.4
	家政	1,099	933	889	729	84.9	95.3	82.0	80.9
	教育	2,788	2,510	2,478	2,121	90.0	98.7	85.6	88.9
	芸術	151	94	84	60	62.3	89.4	71.4	55.6
	その他	402	314	311	238	78.1	99.0	76.5	77.4
	小計	5,667	4,727	4,557	3,768	83.4	96.4	82.7	80.4
合計	42,308	33,820	32,857	24,697	79.9	97.2	75.2	77.7	

#### 4 地域別の就職以外の進路者数

	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
全 国	3,578	992	711	987	3,183	9,451
北海道	399	23	25	35	145	627
東 北	69	40	47	36	148	340
関 東	530	115	115	137	454	1,351
東 京	736	269	144	208	464	1,821
中 部	247	138	83	149	401	1,018
近 畿	498	191	84	145	389	1,307
大 阪	626	19	97	130	557	1,429
中四国	97	62	23	24	242	448
九 州	376	135	93	123	383	1,110

#### 5 分野別の就職以外の進路者数

	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
全 国	3,578	992	711	987	3,183	9,451
人 文	1,216	10	146	146	632	2,150
社 会	414	24	90	89	299	916
教 養	17	2	7	6	32	64
工 業	257	41	17	1	59	375
農 業	140	0	3	0	11	154
保 健	14	133	23	23	209	402
家 政	482	67	158	261	582	1,550
教 育	479	403	81	217	577	1,757
芸 術	228	210	110	165	464	1,177
その他	331	102	76	79	318	906

6 地域別・分野別の就職以外の進路者数

地域	分野	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
北海道	人文	209	0	14	3	53	279
	社会	2	0	1	1	5	9
	教養	4	2	2	5	12	25
	農業	116	0	3	0	6	125
	家政	19	0	2	9	36	66
	教育	42	21	3	8	23	97
	その他	7	0	0	9	10	26
	小計	399	23	25	35	145	627
東北	人文	1	1	1	2	6	11
	社会	12	7	9	1	19	48
	保健	1	0	13	2	28	44
	家政	19	9	6	18	24	76
	教育	16	22	10	8	30	86
	その他	20	1	8	5	41	75
	小計	69	40	47	36	148	340
関東	人文	204	0	17	25	79	325
	社会	46	15	12	18	53	144
	工業	1	1	0	0	1	3
	保健	7	26	5	6	23	67
	家政	18	1	19	15	32	85
	教育	76	71	14	33	125	319
	芸術	35	1	30	11	61	138
	その他	143	0	18	29	80	270
	小計	530	115	115	137	454	1,351

地域	分野	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
東京	人文	167	7	31	42	112	359
	社会	162	1	33	23	45	264
	工業	129	0	2	0	16	147
	保健	0	31	1	9	34	75
	家政	170	23	42	68	101	404
	教育	57	114	4	24	52	251
	芸術	51	93	31	42	104	321
	小計	736	269	144	208	464	1,821
中部	人文	26	1	9	2	60	98
	社会	41	1	10	7	50	109
	教養	9	0	0	0	5	14
	工業	18	38	1	0	7	64
	保健	0	23	0	4	72	99
	家政	51	12	26	66	78	233
	教育	56	48	12	52	53	221
	芸術	1	15	15	9	29	69
	その他	45	0	10	9	47	111
	小計	247	138	83	149	401	1,018
近畿	人文	117	0	23	12	67	219
	社会	93	0	9	15	21	138
	工業	41	0	7	0	19	67
	農業	1	0	0	0	0	1
	保健	0	0	0	0	6	6
	家政	85	1	23	22	70	201
	教育	94	22	7	34	82	239
	芸術	13	76	7	41	75	212
	その他	54	92	8	21	49	224
	小計	498	191	84	145	389	1,307

地域	分野	四年制大学への編入学者	短大専攻科への進学者	専修・各種学校等への入学者	一時的な仕事に就いた者	その他	合計
大阪	人文	437	0	39	46	189	711
	社会	11	0	3	2	13	29
	保健	3	6	3	0	20	32
	家政	26	1	8	17	65	117
	教育	44	3	19	21	58	145
	芸術	80	9	18	44	146	297
	その他	25	0	7	0	66	98
	小計	626	19	97	130	557	1,429
中四国	人文	0	0	0	0	2	2
	社会	17	0	7	0	29	53
	工業	0	2	0	1	2	5
	保健	3	31	1	2	20	57
	家政	35	8	8	4	103	158
	教育	18	7	5	9	50	89
	芸術	22	13	2	5	31	73
	その他	2	1	0	3	5	11
	小計	97	62	23	24	242	448
九州	人文	55	1	12	14	64	146
	社会	30	0	6	22	64	122
	教養	4	0	5	1	15	25
	工業	68	0	7	0	14	89
	農業	23	0	0	0	5	28
	保健	0	16	0	0	6	22
	家政	59	12	24	42	73	210
	教育	76	95	7	28	104	310
	芸術	26	3	7	13	18	67
	その他	35	8	25	3	20	91
	小計	376	135	93	123	383	1,110
合計	3,578	992	711	987	3,183	9,451	

## 企業・団体、専門職共通

### 就職部署における令和3年度の取り組みについて(まとめ)

#### 1. コロナ禍における就職支援について

- a 全てオンラインで行った・・・ 3
- b 対面とオンライン両方で行った・・・ 198
- c 全て対面で行った・・・ 83

#### 2. 就職支援をオンラインで行う際に配慮したこと、工夫したことなどについて

上記1の通り、対面とオンライン両方で行う短期大学が多いが、ハイブリッドで実施したり、オンデマンド配信を行ったりするなど、伝える内容によって工夫をしていた。

また、学生のインターネット環境を配慮し、学校に専用のWEBルームを設けている学校もあった。オンラインによる学生の不安や理解度の低さに対応するために、個別に電話で直接話をする機会を創ったり、事後アンケートで個別の反応を確かめたりする等、個々の学生に丁寧に対応している学校が多かった。各短期大学とも、コロナ禍2年目の就職支援ということもあり、支援体制をしっかりと取っていることが窺えた。

#### 3. インターンシップやボランティア活動などを促進するために行った取り組みについて

コロナ禍においても、インターンシップやボランティア活動を促進している学校が多く、それを単位認定している学校もあった。また、学生への参加促進にも積極的に取り組んでいる学校が多く、1年の早期からキャリア教育やガイダンス等でその必要性を説明し、オンラインによる事前説明会やマッチングイベントを実施する等の工夫も多かった。参加にあたっては、感染対策の徹底等、事前に念入りに受け入れ先と打ち合わせする等、コロナ対策を万全に取って臨むようにしていた。但し、一部の学校では感染拡大を恐れて、「実施していない」、「積極的に促進していない」などと回答する学校もあった。

#### 4. 地域創生の観点から、自県内就職率の上昇を目標としている短大において実際に行った取り組み、または検討中の取り組みについて

多くの学校が自治体や法人と連携して自県内就職に力を入れている。主な取り組みとしては下記の通りである。

- ・自治体による就職支援制度（保育士宿舎借り上げ制度など）の周知
- ・自県内の法人を招聘した学内合同就職説明会の実施
- ・インターンシップやボランティア、実習先において、自県内法人を積極的に開拓し、学生に紹介
- ・ゼミ活動において地域創生などをテーマに取り組む
- ・自県内に就職した卒業生や活躍する社員との交流会実施

- ・近隣大学や県内企業と連携した地域大学教育プラットフォームの加入
- ・公立保育士の受験者数を増やすための対策講座の充実
- ・自県内企業と学生との商品・メニュー開発などのコラボレーション

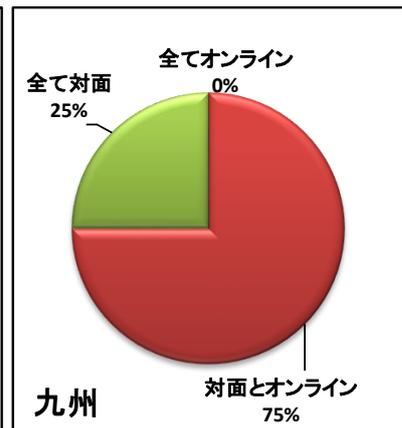
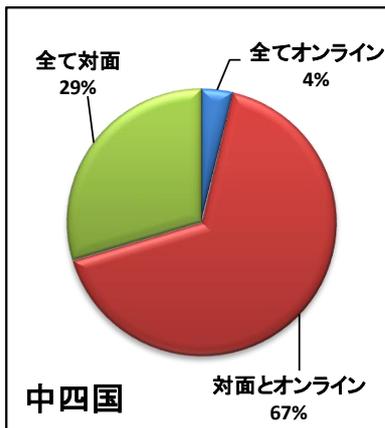
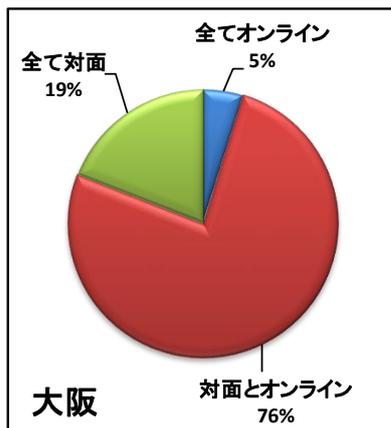
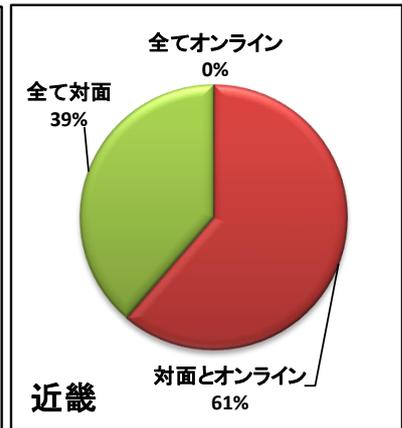
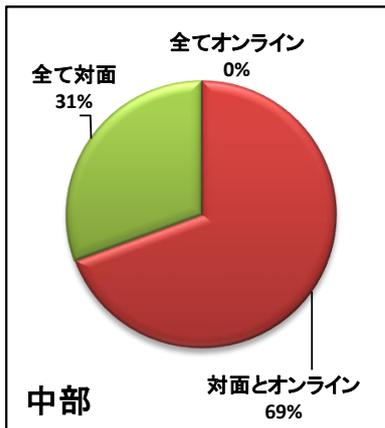
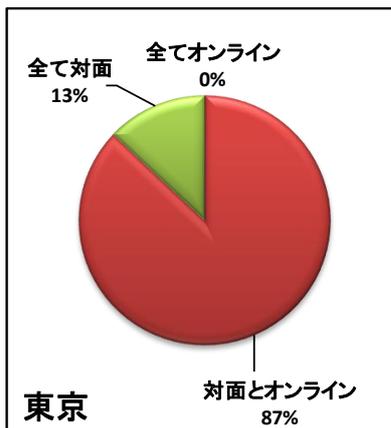
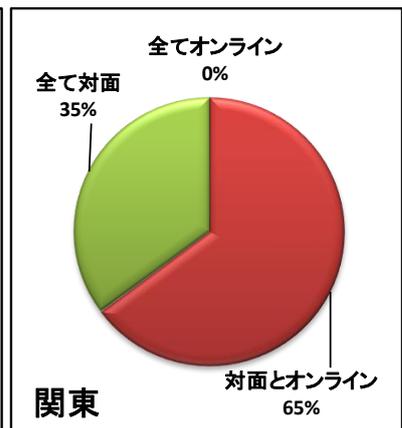
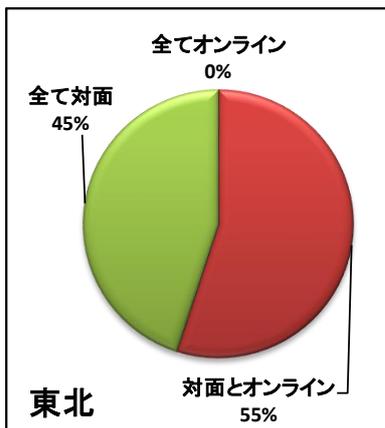
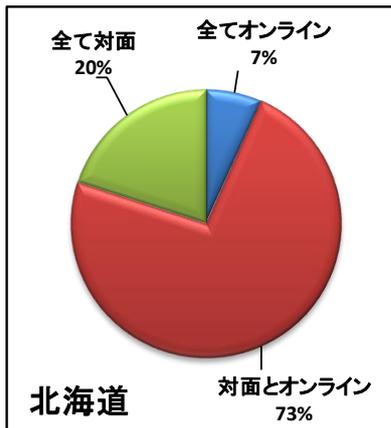
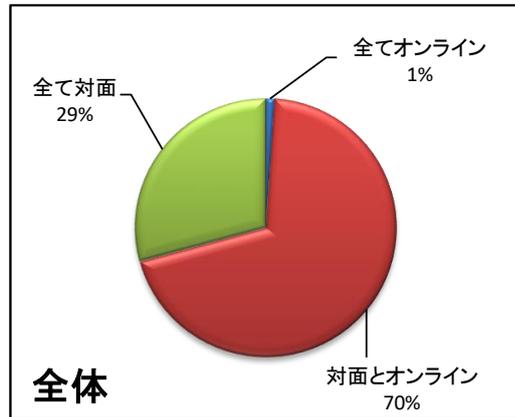
以上であるが、一部では希望就職地は学生の意思を尊重していたり、Uターンの支援を行っていたりして、積極的な取り組みはしていないとの声もあった。

## 企業・団体、専門職共通

就職部署における令和3年度の取り組みについて(具体的記述内容一覧)

### 1. コロナ禍における就職支援

	全て オンライン	対面と オンライン	全て 対面
北海道	1	11	3
東北	0	11	9
関東	0	35	19
東京	0	27	4
中部	0	34	15
近畿	0	19	12
大阪	1	16	4
中国	1	12	5
四国	0	6	3
中四国	1	18	8
九州	0	27	9
全体	3	198	83



## 1. コロナ禍における就職支援

- a 全てオンラインで行った・・・・・・・・ 3
- b 対面とオンライン両方で行った・・・・ 198
- c 全て対面で行った・・・・・・・・・・・・ 83

## 2. 就職支援をオンラインで行う際に配慮したこと、工夫したことなどについて

[北海道]

- 学生が参加しやすいように必修科目後の空きコマを利用した。
- 通信状況や密を避けた。
- 感染拡大対策を行いながら回線、機材、部屋を確保した。
- 学生のオンライン環境を確認したうえで、より本番を意識した雰囲気を作り、オンラインの特性を踏まえた指導を行った。
- 学生の通信環境。オンラインでは話が伝わりにくくなるため、細かいことまで話をした。
- 学生ポータルサイトを利用し、就活情報を一元化し提供した。
- オンデマンド配信も行った。
- オンライン説明会や面接が多くあったので、オンラインに特化した指導を行った。
- ガイダンスや講座は、学生によって対面・非対面それぞれ希望が異なるため、ハイブリッドで行えるものは行った。
- 同内容を複数回行う様にした。

[東北]

- 説明会や面接、ネット環境の確認。
- 企業説明会開催場所の新型コロナ感染予防対策。Zoom 希望面接会場の場所として就職センターを使用した。
- 自宅での参加の場合、周辺に家族の存在を確認してから、話す内容などに配慮した。
- 密な空間にならないよう面談方法と予約枠を調整。換気・飛沫防止ボード、対面後は除菌を徹底。
- 主に Zoom 形式による面接対策だったので、エントリーシートを添付してもらったり、実際に採用側として面接経験ありの教員に協力を要請したりした。
- オンライン機材など環境面の充実。
- 訪問形式ではないため、なるべく園や施設の様子を掴むように指導した。
- ネットワーク環境や表情の伝わり方と聞こえやすさを事前確認するよう支援した。
- オンライン説明会や面接対応として防音の部屋を作成した。
- オンラインの部屋の確保で、説明会や就職試験に対応するように配慮した。
- 自宅でのオンライン面接の受験が難しい学生を対象に、面接専用の相談室や安定したインターネット環境を提供した。
- 学生本人がどちらでも選べるよう、柔軟に対応するよう配慮した。

〔関東〕

- メールなどで個別に連絡をとり、来学した際に対面での就職指導を行った。
- オンラインによる学生面談の実施に際しては、対面指導で学生が得られる効果と比較して不利とならないよう、面談内容に応じて指導方法を調整し、学生の反応を見ながら適切な指導を行えるよう工夫を重ねた。また、オンラインイベント・セミナーの実施においては、昼休みに実施する等、学生が授業に影響なく受講できる機会を増やすよう努めた。
- 校内にオンライン対応できる部屋の拡充。大学HP、メール等による情報提供の機会を増加した。
- 学内合説の際、Zoomを使用した複数日開催と、Zoomのブレイクアウトルームを使用し、1日開催の両方を行った。両方ともメリット及びデメリットあり、学生に対しどれが一番有効な方法であるか等手探りであったが実施できた。
- Zoom等のビデオ会議システムにて双方向型でおこなった。
- 週替わりで半分ずつの対面授業が行われていたため、学生の授業参加状況に合わせて行った。
- 騒音が入らないよう、別室で対応した。ネット環境が自宅にない学生に対して学内で受験できるように対応した。
- 支援者を含め専用ブースを利用するなど、学生のプライバシー保護に努めた。
- 分かり易い内容。
- 合同企業説明会で外部の方をお招きし、オンライン説明会を実施した。
- 通信環境が整っていない学生に対し、学内施設を解放した。
- 対面と違い、空気感などが分かりづらい為、質問を沢山する等コミュニケーションを大切に行った。
- 電話でも対応できるように配慮した。学内サイトにも情報や求人を掲載した。
- 集中力が途切れないよう、問いかけを増やすなど工夫した。パワーポイント資料はわかりやすさを意識した。
- ネット環境。
- 双方向性を担保するためにコメントカード等の提出を求め、それへの対応を対面授業で行った。
- ガイダンスは理解度を把握するために必ず最後にアンケートをつけ、質問などにも丁寧に対応した。
- 学内専用のサイトに求人票などを掲載し、学生に情報提供を行った。
- オンラインとは別に就職活動時期に合わせ、マナー講座などの内容をオンデマンド配信した。
- Zoom活用講座の実施。
- オンラインが苦手な学生に向け、紙媒体も用意した。
- 対面授業時に就職支援を行った。
- オンライン選考の注意点など、本番を想定した練習ができるよう工夫した。
- 事前に資料を配布した。
- 内容をオンデマンド化して、欠席者のフォローや内容定着を目的とした復習用に役立てた。
- 資料を必要とする場合、事前に配付するとともに、講座中でもダウンロードできるように工夫した。
- 学生の通信状況に応じて臨機応変に対応。説明資料の改善（写真などビジュアル面を分かりやすく）。

- 個別相談室を活用し、企業説明会や面接を受けられるよう工夫をした。
- 原則対面とし、感染拡大期にオンラインとした。オンライン実施時にはオンデマンド配信として、繰り返し視聴できるよう配慮した。單元ごとに区切り、動画1本あたりの容量を小さくした。
- 原則対面で行った。県外からの登壇者がいるときはオンラインで対応した。

〔東京〕

- 全体へのガイダンスはオンラインで実施したが、対面にて個別で対応をおこなった。
- 動画（アーカイブ）の配信を行い、繰り返し見られるようにした。
- 集中力を保つため対面よりも実施時間を短くし、対面と組み合わせることで意欲を掻き立てるよう努めた。
- ライブでの実施とオンデマンドの活用。
- 学生への連絡事項の周知を徹底した。また、進路総合センターと専任教員が連携し、学生の就職活動状況を丁寧に把握できるようにし、個別対応を行った。
- オンライン上での面接練習や添削の受け方についてのマニュアルを整備し、学生への周知・徹底を行った。
- 学生の進路選択に役立つ情報提供、活動進捗状況調査などを積極的に行い、学生個々が感じる不安点解消のために個別に返答をするなど「繋がる」ことを意識したサポートに徹した。学生への連絡は原則として電話にて行い、直接話をする事で双方向のコミュニケーションを図るようにした。
- 対面とオンライン（スカイプ）での個別面談の実施。
- ガイダンスを撮影し、欠席者が後日視聴できるように工夫した。
- 基本的には、対面で実施しましたが、面談を電話、オンラインにて対応した。就活に関して焦りを感じている学生が多かったため、一人ひとりに寄り添い、気持ちを和らげるための支援をした。
- オンラインガイダンスでは一方向のやり取りにならないよう、グループワークの時間を設け、就職活動で困っていることなどを学生同士で情報交換させるようにした。
- 面談教室の追加や面談枠の柔軟化、Wi-Fi回線の強化。
- オンライン(チャット)のみで完結せず、対面面談等を織り交ぜ学生の様子を確認した。
- オンラインで情報提供するとともに個別連絡等も行い、きめ細かく相談に応じて、安心して活動できるよう配慮した。
- 対面とは違い学生のわずかな表情の変化に気を付けて支援をした。一方、企業の選考形態もオンライン面接などが多かったため、リアルなWEB面接の雰囲気を感じさせるためあえてオンライン支援をするケースもあった。
- 一方向での配信にならないよう、質問受付方法等を検討した。視聴のみでなく対面同様、実践形式を取り入れた。
- 対面とZoomどちらでも相談は可能とすることで、外出を控えている学生と登校している学生に差が出ないように配慮した。

- リアルタイム配信と対面を同時に実施するガイダンスではどちらの学生に対しても同じ効果になるように工夫した。
- オンライン就活に活かせるマナーについても面談時に留意した。
- 対面、面談共に予約はネット上で出来るようにした。
- 実施時間の長さ。
- 外部の雑音が入らないように配慮して配信をした。また、不参加の学生も後日閲覧できるよう、録画をしてアーカイブ動画として残した。
- 理解度を測るため、講座後のアンケートを充実させた。
- オンライン試験における注意事項のレクチャーの徹底。

〔中部〕

- パワーポイントの資料は事前に印刷して渡すか、学生が自宅で印刷してオンラインの支援を受けるよう指導した。
- 対面での支援と比べ、デメリットが発生しないよう密に連絡を取るよう心掛けた。
- なるべく対面で実施しながらも、状況によってオンラインを併用する等、支援が途切れないう工夫した。
- オンラインが主流の地域や大学等も少なくないようであるが、決してオンラインのみでは十分ではないので、オンラインとする場合でも可能な限り対面併用を意識した。
- 学生の状況等に合わせてリアルタイムやオンデマンドを併用。通信機器や通信環境が整わない学生への対応。
- 基本は対面で行ったが、WEB面接の場合はWEBでの模擬面接を行った。
- 個別の就職相談に関しては、学生の希望に応じてオンライン対応をした。
- ゼミナール担当と連携し、全学生に対しオンラインでの面接練習を行った。
- 新しい機材を購入した。
- ゆっくり時間をとる。相談後の経過を都度確認した。
- チャット機能の活用や質問の選択肢を設けて参加型でセミナーを進行した。
- 時間及び学生の通信状況に配慮した。
- 志望動機などをメール等で事前に提出させ指導をした。面接練習もオンラインで行った。
- オンライン面接の臨場感を高めるために、練習でもスーツを着て画面に映る姿を確認した。
- オンラインは、対面よりも相手に与える「情報」が少ないので、表情や身振り、映り方について重点的に指導した。
- オンライン面接への対応について支援した。
- ガイダンス後の質問対応をスムーズに行えるように配慮した。
- 説明会、選考等がオンラインで開催されるので、オンラインでのマナー等も指導した。
- 音声聞こえているかを挙手機能等で確認する等、顔が見えない分、反応を求めることを注視した。
- 対面よりも疲れを感じやすい人もいる為、オンラインで就職支援をする際は短い時間で設定した。

- 学生を孤立させないよう積極的に関与する。WEB 上での就職支援メニューを増やした。
- 学生の希望に沿った支援が出来るよう、情報を共有した。
- オンラインの長所を生かす工夫として、支援行事のオンデマンド配信を実施。
- 大学キャリアセンター内にオンライン対応出来る個室を設け、就職試験や説明会等学内で個別対応出来るよう工夫した。
- オンラインで参加できなかった学生に対し、後日、視聴できるようオンデマンドでも配信した。
- オンライン（メール）による、エントリーシート添削等にかかる時間の短縮。
- オンライン面接対策の為、通信方法やカメラに向かって会話すること等オンラインに慣れるためにおこなった。
- オンライン面談時等で課題となる就職活動学生の「意志等の伝わり難さ」を解消するために、事前に学生から質問事項等をメールで送ってもらい、的確に面談指導等の対応ができるよう実施した。
- 初心者でも理解できるようなマニュアルの整備。
- 就職課のLINE を活用し、エントリーシートや履歴書の添削を行った。
- 学内就職ガイダンス開催 1 週間前に、当日用いる資料をEメールし、アンケートを開催後Eメールで受け取った。

#### 〔近畿〕

- 個別は学生の希望にあわせメール・ビデオ通話等、柔軟に対応した。全体説明を WEB で行う際は、反応がわかるようチャットを活用した。
- オンライン授業期間中も入構禁止とはしなかったため、原則対面で実施。オンラインは、必要最低限。
- 一度は対面で接しておくこと、会ったこともない人に相談はしにくい。
- 満足度等を確認のため、実施後にアンケート調査を行った。また、欠席者対応として、YouTube にアップするなどの対応を行った。
- 学生との関係性構築のため、初回はできるだけ対面にするなど、オンラインと対面を組み合わせるようにした。
- オンラインの場合も、教室視聴にも対応し、可能な限り多くの学生参加の機会提供を工夫。
- Zoom や Google Meet を使ったオンライン授業において、通信環境が整わない学生のため、教室で受講することも認めるハイフレックス型授業を行った。
- 参加のしやすさや録画機能を活用し、オンライン配信を行った。
- 各家庭のネット環境に配慮。（短大よりタブレットの貸し出し）
- 小規模人数では Zoom、大人数の場合はウェビナーにて実施。
- メールや WEB サービスの活用。Wi-Fi 環境整備やノートパソコンの増強。
- 面接練習等は基本的に対面で行い、学生が希望する場合のみオンラインで行った。その他、オンライン実施に切り替えた進路ガイダンスについては、オンライン用にあらためて資料を作成する等の対応を行った。また、メールや電話での進路相談も積極的に行い、就職活動に遅れが出ないよう個別の学生対応をより丁寧に行った。

- オンデマンド型の場合、短時間でも重要な点がはっきり伝わるよう内容を工夫した。
- 講座では実際のオンライン選考を意識できるよう、またなるべく双方向で対話ができるようにカメラを必ずオンにすることを徹底。選考での印象アップに繋がるよう映り方についても普段から指摘。その結果オンラインにて学内企業説明会を開催した際、企業の方からも好印象とのお声をいただいた。
- 通信速度の担保、WEB 面接環境整備。
- 授業とスケジュールが重なってしまう場合を想定し、イベント終了後にオンデマンド配信を実施した。個人情報漏洩防止のため、遠隔相談内容の録画、録音、撮影、SNS 転載の禁止を学生に促した。
- 通信状況等の環境設定。

#### 〔大阪〕

- 進路ガイダンスをオンデマンド配信し、個別面談は対面を重視した結果、前年より来談数が増加した。
- 企業との接点を減少させないよう、学校独自の企業説明会をオンラインでも開催した。
- 講座を行う際は、できるだけ双方向になるよう、講座の中で問いかけやワーク・クイズ等を行った。
- 来室（対面）での支援を希望しない学生には Zoom を使用して、対応した。
- ガイダンスを YouTube に限定公開して学生がオンデマンドで視聴できるようにした。
- 事前予約で、優良企業に限定した合同企業説明会や個別説明会を実施。オンラインボックスを設置し就活に集中できる環境を整備した。
- 一方的な情報提供にならないように、学生が理解できているかどうか確認することを重視した。また、大学側から学生に積極的に働きかけをおこなった。
- 全てのセミナーを録画して YouTube にアップロードし、オンデマンドで視聴できるようにした他、面接練習や個別相談は Zoom を用いてオンラインでも実施した。
- 参加意欲の向上を目指し、質疑応答を実施した。
- オンライン選考に対応できる機器を持たない学生への機器の貸し出しを実施。
- 強制にならないように自主性を重んじながらも一人一人に合うペースで声掛け（WEB 含む）し、置き去りの学生がでないように配慮した。
- 学生が不安にならないよう、十分に時間を掛けて話を聞いて、困っていることが無いかなど確認をしながらの対応を心掛けた。
- 履歴書、エントリーシート等の文書指導を主に行った。

#### 〔中国〕

- キャリアガイダンスにおいて、学生の集中力に考慮し、実施時間を短縮した。スマホで受講することを想定し資料の文字を大きくし、よりシンプルにした。
- オンライン型のみならず電話型、メール型での支援も実施。また、環境のない学生への貸し出し部屋の利用を実施。

- なるべく短時間で終われるように簡潔な内容に変更した。(例：60分→30分に短縮)
- オンデマンドの視聴期間を短縮することにより学生の視聴を促す。オンライン面接が行われる学生に対しては、背景やアイコンなどの注意点を伝える。
- 本学の学生のみ配信できるように、事前申込をさせ、申込者のみに参加ID、パスワードを配信した。
- 就職専用のオンラインブースを設けた。
- 学生の都合が良い時間帯に出来るだけ調整する事や、事前に相談のポイントをメールで伝えた。
- 就職ガイダンスは動画で多くの学生がいつでも見ることができるよう、Google クラウドを活用して配信した。
- 現状把握をしつつ不安を取り除くよう声かけ。WEB 面接用に学内個室の貸出し、PC 用照明器具の購入等。
- 就職相談予約をオンラインで、相談面談は Google meet を使い、会議コードを日にち時間で統一することを対面授業にて説明会を実施して行った。
- 個別相談のほか、一部企業の学内説明会をオンラインで実施するなどした。

#### 〔四国〕

- 授業を行う部屋の環境整備。
- オンライン面接の簡易マニュアルを作成し、学生に周知した。
- オンライン用個室ブースの設置、キャリアコンサルタントによるオンライン面談の実施。
- コロナ禍でオンラインでの面接試験が増えたので、環境を整え対面での違いの指導に力を入れた。

#### 〔九州〕

- オンライン専用ブースを2台設置し、オンラインでの個別面談や面接練習を実施した。
- 学生および大学の通信環境。
- 学生の通信料に負担をかけないよう、効率良く支援を行う準備をした。
- 学内にWEB面接室を4部屋準備し、家庭にネット環境がなくても使用できるように整備した。
- 系のオンライン対応環境の充実。
- ネット接続状況（環境面）のサポート。
- 説明会等に参加できなかった学生は、録画したものを動画配信することでいつでもどこでも見ることが可能。
- 相互にカメラをオンにし、質問を受け付けるなど双方向でのコミュニケーションを行った。
- 「予約システム」を併用することにより、学生・職員双方の利便性向上に繋がった。
- 期間限定でアーカイブ動画を公開している。
- WEBサイトでの求人情報をはじめとした進路関連情報の提供。WEB面接時のインタビュールームの貸し出し。
- 機器操作が苦手な学生への配慮をした。
- オンラインに関する知識、感覚にかなりの個人差があった。

- Zoomで2教室(密を避けて)および本国で来日していない留学生を同時に接続して、授業やガイダンスをおこなった。授業では、後で視聴できるように、教員が録画をした。また、オンデマンドの視聴教材を作成し、動画配信サイトで、限定公開による授業をおこなった。
- 学生が支援を受ける機会を損失しないよう、休日であってもオンラインでの支援を行った。
- 遠隔面接練習を実施し、受け答えにはタイムラグが生じることを伝えた。就職支援行事に欠席した学生にも補習を行った。
- 学生が不安や不利にならないように、ネット環境と落ち着いて集中できる教室の確保を行った。
- 対面の場合は特に新型コロナウイルス感染予防に留意し、オンラインの場合はQRコードを作成し、学生全員に周知した。
- 画面越しのため、表情を確認しながらいつもより頻繁に理解しているか聞くことをおこなった。
- コロナ禍2年目で、オンラインでの採用活動をする企業等と就職活動をする学生が格段に増え、更なるパソコン機器やネット環境の充実に心掛けた。
- 学生の就労意識、意欲についてネットワーク環境の提供および配慮。
- 企業(保育園)とオンライン説明会を調整(日程調整)。
- オンライン試験や面接等が増加している現状や今後の仕事の変化について考える機会を設けた。

### 3. インターンシップやボランティア活動などを促進するために行った取り組みについて 〔北海道〕

- ガイダンスにてインターンシップの必要性を伝えた。企業からのお知らせを周知した。
- コミュニティ総合学科においては、インターンシップを必須としている。
- 企業側、大学双方の安全性が確保できるよう事前打ち合わせを綿密に行った。
- 学内のポータルサイトでの周知を徹底した。
- ガイダンスでの周知。

#### 〔東北〕

- 大学就職センターホームページ及び掲示周知をした。
- 必修授業の取組で、夏休みの課題としてインターンシップに参加させて授業内で発表をした。
- インターンシップは単位制の科目である。ボランティア活動は感染予防のため、積極的に促進していない。
- 実習病院との兼ね合いがあり、促進はできなかった。
- インターンシップセミナーなどを開催し、学生の参加促進策を講じた。
- 地元企業と希望学生とのセッティング、オンラインのインターンシップの場合、教室やPCの貸し出し。
- メールでの情報提供。
- 基本的なコロナ感染防止の徹底。
- ガイダンスでの周知や掲示を行った。また、コロナ禍での受入状況の確認と自己健康管理を呼びかけた。

- 求人の際にインターンシップの依頼をした。
- コロナ禍の為、積極的な促進を行っていない。

〔関東〕

- インターンシップは行っていない。ボランティア活動については、「ボランティア活動論」の授業でも実施している。
- 就職ガイダンスやイベント・セミナーを通して意識啓発に努め、開催案内の事務室内での掲示やWEBによる情報配信を通じた周知を行うことで、積極的な参加を促した。
- 募集案内等は Teams を使って学生に配布している。
- 学内周知の拡大の他、コロナ禍で現場体験が減少したため、WEB 代替対応等を各団体と調整した。
- 学生の希望業界職種を調査し、就職活動解禁前に個別支援で業界仕事研究の取り組みとして就業体験を促した。保育系のボランティアに参加する際、個々に事前指導を行った。(コロナ感染対策等)
- インターンシップに関するガイダンスを行った。
- インターンシップ及びボランティアは両方ともコロナウイルスの関係で中止した。
- インターンシップ向け学内合同企業説明会をオンデマンドで配信した。
- インターンシップや一部のボランティア活動は単位認定をすることで、学生が取り組む意欲を持てるようにしている。
- インターンシップガイダンスやWEB 合同企業説明会の実施を窓口や掲示で周知。
- 学生ポータルサイトや掲示板等を通じて学生への周知を図った。
- 園や施設からのボランティア情報は授業担当者と共有し学生への働きかけをすると同時にチューターズルーム（進路支援室）に掲示した。
- インターンシップの説明を全学生対象に実施。
- ボランティア希望者に対して、ボランティア先の紹介や担当教職員がボランティア先の開拓を行った。
- ガイダンスでの告知、メールや Teams を使用して、繰り返し案内をした。
- キャリアガイダンスで口頭による告知及びポスターの掲示。
- 1 年次夏期休暇中に授業の一貫としてボランティア実習を必須とした。
- 先輩が就職する園所・施設等の話を聞く動画を一括してアップして、就職やボランティア活動の参考になるようにした。
- インターンシップマッチングフェアというイベントを 6 月に実施し、本学の参加枠を頂いた企業 20 社を対象とした。
- 学内に案内されたインターンシップ案件をホームページに掲載。学内のボランティアセンターを活用。
- 積極的に周知した。
- 令和 3 年度は、コロナ禍の為ボランティア活動は低調だった。
- 参加学生による報告会などを実施し、低学年の学生に就労体験情報を提供した。
- インターンシップ先について個別に案内を行った。
- 本学に届いたインターンシップ等の情報提供。

- オンライン開催のインターンシップ情報提供を行った。
- ボランティア募集のチラシの学内掲示、ボランティア活動を事務局に事前届け出制として学研災・学研賠の付保対象とした。
- 学生から希望があった時点で学校から園へ、受け入れ態勢を確認し、学生に指導した。
- インターンシップの案内ポスターを学生掲示板に掲示したり授業の中で全員に配布したりして希望者を募った。
- 学内 WEB 掲示板で案内した。

#### 〔東京〕

- 小学校や地域活動のボランティアの依頼もあったが、ほとんどが取りやめとなり、十分な活動をおこなえなかった。近隣の学校・施設からの情報を集めたり、教員の協力を得ながらボランティア先の確保に努めたりした。
- 提携している企業のインターンシップの紹介、小中学校へのボランティアの紹介等。
- インターンシップの全体ガイダンスを実施するとともに、WEB 掲示版の活用、学校推薦枠の拡大に努めた。
- 年 4 回のキャリアガイダンス・就活講座を通じて、ナビサイトの一斉登録や、インターンシップの探し方をレクチャー。
- 授業科目として単位付与する形式での実施。公募インターンシップ情報の学内での開示。
- 各社からのインターンシップ実施案内の積極的紹介、就職実績企業等へ本学学生対象のインターンシップ実施を依頼。
- インターンシップに関するガイダンスの実施、学生へのインターンシップ情報の学内メール配信。
- 年度初めにボランティア登録会を実施し、対象者にボランティアの案内を行った。
- 実習が中止になり、現場を知らないことで、消去法の就活になっている学生に対し、卒業生が多く就職をしている園での 1Day インターンシップを実施した。
- インターンシップに関するガイダンスの開催、各ガイダンスでの周知、各スキルアップセミナーの開催。
- 前期(4月)、後期(9月)の就職関連のオリエンテーションを実施し、積極的に行うように促した。
- 就職ガイダンス内で参加を促した。
- 全学年必修授業内でインターンシップ成果発表会を実施した。
- インターンシップの募集時期が早まっている印象があるので、早期に対応するよう心掛けた。
- ガイダンス、個別紹介他。
- インターンシップに関しては、ポータルサイトや担当教員から告知を行った。
- オンラインでのインターンシップ実施。

#### 〔中部〕

- ボランティア活動は全学をあげて支援している。
- キャリア講義における参加促進や学生ポータルでの案内を行った。
- ガイダンスでの参加を促した。

- インターンシップを授業科目として単位化した。
- 就活サイトだけでなく、本学学生の趣向に合った企業のインターンシップをリスト化し、掲示や配信を行った。
- 厚生労働省若年地域連携事業を活用しインターンシップの機会を増やした。
- 就職ガイダンスでインターンシップ活用方法を伝えた。インターンシップ情報掲出。インターンシップに選考がある際は書類添削等を個別で対応。
- 本学では資格取得のため校外実習が義務付けられているが、感染拡大防止のためサークル活動、ボランティア活動、アルバイトは自粛のお願いをしている。
- インターンシップを講義として実施している。また、学内にボランティアの斡旋等を行う施設を設置している。
- インターンシップやボランティア活動などの通知は掲示板に掲示し、必要に応じて学科教員に連絡した。
- 就職ガイダンスにてボランティア募集される団体代表者を招聘してアナウンスした。その際、他のボランティア募集チラシも複数配布した。
- 1年次から必要性について伝えている。業者の就職支援なども取り組むよう促している。
- 学生ポータルサイトを通じ、情報配信を逐次行った。
- 夏休み前に正課外インターンシップに関する任意講座を実施し、企業選びのポイントやマナー等を伝えた。
- コロナ禍のため、そういった活動は控えさせた。
- キャリアデザイン授業等で重要性を説明し、意識づけを図った。
- インターンシップはコロナ対策として中止した。
- ガイダンスでのインターンシップの重要性の案内、メールでの情報発信。
- 入学年次でのガイダンスでインターンシップを経験することのメリットや情報提供を行った。また、対象の学生に対して、メールで情報提供を行った。
- ゼミの担当者から伝えてもらったり、掲示をしたりと多くの学生に周知した。
- 学内システムにより学生へメールでの情報配信を行い、活動参加促進を行った。
- ミスマッチに至らないよう、短大1年次のインターンシップの重要性や採用試験前に見学、訪問するよう指導した。
- キャリアガイダンスでの働きかけや授業内での担当教員との連携を密にしました。また、学生が参加しやすいプログラムも設定した。
- インターンシップへの参加については、その案内を学生に対して、メール等で積極的に配信して情報共有、参加促進ができるよう取り組んだ。
- 業界研究からインターンシップへ誘導。
- 就職ガイダンスでアナウンスし、積極的に参加するよう促した。
- インターンシップの有用性を、学内就職ガイダンスで説明した。
- ボランティア活動は授業でも取り組んでいる。

〔近畿〕

- 掲示板での告知。
- 県が主催するインターンシップ事業をガイダンス内で周知し、先輩学生の様子も伝えて、参加を促進した。
- オンライン授業期間中も入構禁止とはしなかったため、原則対面で実施。オンラインは、必要最低限。
- 全国就活生の情報（インターンシップ参加率など）を周知した。
- 授業との連携。
- 一定の条件を満たせば単位として認定する制度を取り入れている。
- インターンシップやボランティア活動情報を提供する部署の設置と連携の上での情報配信の強化。
- ガイダンスを始める時期を前倒しし、インターンシップに参加することの意義を伝えた。
- 令和2年度はコロナ禍で中止した単位認定型のインターンシップ研修を令和3年度は実施した。
- 初年度キャリア教育の中で、インターンシップの周知を行った。
- キャリア基礎科目の授業を通して、その仕組みや効果についての説明と募集告知を行った。
- インターンシップ説明会の複数回開催。
- コロナ禍の状況でインターンシップやボランティア活動などは促進できなかった。
- 保育現場に絶対ウイルスを持ち込まないために、日ごろから感染対策に気を付けるよう何度も注意を促した。
- おすすめインターンシップ企業一覧を定期的に作成し希望者に配布し活動を促した。
- インターンシップは必修科目化をし、全学生が参加。
- ボランティア活動として学内行事や作業を企画した。
- 学生の希望条件に合った活動先の確保に苦戦し、実施が難しかった。
- インターンシップ説明会においてインターンシップの意義を説明し、学生の認識を高めた。

〔大阪〕

- ボランティア案内等を学内に設置。
- 近隣小学校と連携し、児童で結成された音楽隊の指導や学習支援などのボランティアに学生が参加した。
- 教員と連携し、授業内で説明等を行った。
- ガイダンス等でインターンシップの紹介をした。
- 就職試験を受ける前に、事業所訪問、保育ボランティアを推奨した。県の就学支援資金や施設独自の奨学金の案内および施設の方とも交流を計る取り組み。
- 必修科目であるキャリアデザインの授業と連携し、インターンシップへの参加を促した。
- 事業所と連絡を密にとる。
- コロナ禍でボランティア活動などの積極的な促しは行えなかった。
- 入学時から本学独自のインターンシップ制度（アルバイトで学ぶ企業体験学習）を案内している。1年生に対しては、1年夏期からの企業インターンシップへの参加を就活研修で積極的に促した。

- 事前・事後研修の実施。
- コロナの影響で開催企業が激減したため、例年よりも企業の選択先に幅を持たせ、学生のアルバイト先などにも協力を仰いだ。
- 学生へのメール配信。
- 個人面談や就職相談のうちに、個々にやり方の説明をし、学生が意欲を持てるようにした。
- 教育実習等の学外実習が多く、インターンシップに行く時間的余裕がない為、あまり取組めていない。

#### 〔中国〕

- 就職ガイダンスを実施したり、卒業生からの講演を実施したりした。
- キャリア科目授業内で、インターンシップ・ボランティア活動に向けての講義、各種活動情報の情報発信・周知活動。
- イベント等を告知する際に、オンラインを活用した。
- 夏季休暇直前にインターンシップへの導入を促すガイダンスを実施。ボランティア活動は行きやすい時期にダイジェスト版をオンデマンド配信し、ボランティア活動促進に努める。
- オンラインインターンシップフェアを実施した。
- 学生のニーズを出来るだけ細かくヒアリングして、情報提供時に役立てた。
- インターンシップは、県外企業も含めてオンラインで実施されるものは、学内ポータルを用いて周知を行った。
- 対面でインターンシップ講座を開講し、申込のマナーや参加する意義などの利点を説明して促進した。
- 職場体験は単位認定科目としている。ボランティア活動を特別講義として促進している。
- 外部団体（県内のインターンシップ推進協議会）が実施するインターンシップ説明会への参加を促した。

#### 〔四国〕

- セミナー等の広報活動。
- キャリアガイダンスの一環としてインターンシップセミナーを開催した。
- メール等でインターンシップの周知徹底。
- コロナ禍のため促進するための取り組みはできなかった。

#### 〔九州〕

- 就職支援講座等でのアナウンス。
- 事前説明会、ガイダンス等実施。
- 学科ごとに時間を作っていただき、全体に説明会を実施した。
- 1年次から企業を学内に招聘し、アドバイスを受けながら企業研究を実施した。ボランティアについては地域清掃業務に参加を促し、環境意識の定着を目指した。
- 学内で企業によるインターンシップ説明会を開催した。

- 事前ガイダンスを行い、重要性・注意事項等について説明した。
- 掲示・告知などを学生公式システムだけでなく特設 WEB 掲示板等でも周知、週一の就活準備プログラムでも案内。
- 1Day 仕事体験やインターンシップの活用セミナー、事前研修会の実施。
- インターンシップ、ボランティア活動などの単位化。
- 正課でのインターンシップについては学科主導で実施しているが、コロナの影響下実施時期が全体的に後ろ倒しとなった。ボランティア活動については受入れ施設からの中止が相次ぎ、学生にとっては機会の損失が目立ったが、それでも受入れを行う施設等の情報をいち早く周知した。
- 科目「インターンシップ」内にて、事前・事後の指導や報告書の作成、更に報告会を実施した。
- 学生への伝達回数が増加。
- インターンシップ・キャリア教育として単位制にしている。
- インターンシップ事業を紹介する団体の担当者から学生へ、登録方法の案内やインターンシップへの参加方法の説明をもらった。
- オンラインで実施されるものを学生へ積極的に案内した。
- コロナ感染症の状況を確認し園と個別調整。
- 大学所在地の役場と密に連携し、コロナ禍でも実施可能な独自のプログラムを作成した。

#### 4. 地域創生の観点から、自県内就職率の上昇を目標としている短大において実際に行った取り組み、または検討中の取り組みについて

〔北海道〕

- 自治体による就職支援制度の周知（保育士宿舎借り上げ制度など）。地元企業による合同企業説明会の周知。
- 地元の中小企業の団体主催の企業説明会を行った。
- 市内企業の合同説明会に参加した。
- 管内の企業による学内合同説明会を開催予定（令和4年度）。

〔東北〕

- 県の女子就活・定着サポーターズのゲスト講話を実施。
- 県内の幼稚園、保育園の学内説明会を毎年、継続して実施している（対面：コロナ前はブース形式、ここ2年はスクール形式）。
- 地元地域の就職についてはサポートしているが、関東圏の就職については、基本的に自己開拓としている。また、就職に関する講話については、地元地域の園や施設に依頼している。
- 将来就職に繋がる実習先の確保。
- 県内出身者が多く、県内就職志向が高いため、求人情報収集支援に重点をおいている。
- 地元企業との情報交換会に参加や求人依頼を送付。学内説明会は地元の IT 企業や小売企業、県内勤務が可能な企業に依頼。
- 個人面談を通じて、地元病院（実習病院）への受験を促している。

- 地元 ICT 企業などの有望業種の開拓と連携を図った。
- 学内の卒業生による就職ガイダンスの開催。
- 県内保育関係施設合同説明会、インターンシップ、保育関係施設見学ツアー、卒業生講話を行った。
- 採用未内定者を対象として、学内での企業採用説明会を5月、6月、7月、11月、12月に行った。
- 市内に限定し幼稚園・認定こども園・保育所・施設の合同セミナーを行った。(感染対策をして2日間前後半の4クール)
- 県内の企業の就職を各科就職員会にも依頼をして行っている。
- 県の大学生等県内定着促進事業を活用し地元企業で活躍する社員との交流会を実施。地元企業を主とした学内企業説明会を開催。
- 県内企業求人を中心に掲示による周知を行った。

#### 〔関東〕

- 保育科の学生に対しては県の保育士就学資金の借り入れを推奨している。保育士資格取得後5年間県内の保育施設に勤務すれば全額返済免除が受けられる。
- 本学は、例年、県内就職を希望する学生が多いことから、特に、県内就職率の上昇を目的とした取り組みは行っていない。令和3年度においても約9割が県内就職。
- 卒業生による就職活動体験談を実施。
- 地域企業を学内に呼んでの合同説明会や個別説明会を実施した。
- 元々地元密着の指導を行っているため、特に令和3年度に特徴的な取り組みは企画していない。
- 県内の合同企業説明会に積極的に参加するように、就職ガイダンスや説明会等で、参加を促した。
- 県内の企業を集い、学内合同企業説明会の開催を行った。
- WEB 就職説明会を県内企業(病院・施設等)中心に呼び、卒業予定者に向けて説明を行った。
- 地域企業によるミニ学内合同企業説明会を対面でおこなった。
- 県内中小企業家同友会の企業との合同企業説明会の実施を検討している。
- 県内機関と連携し、学生への情報提供の強化に努めた。
- 県の教育プラットフォームに加入し、県内企業や近隣大学と連携し就職率上昇を図っている。
- ゼミ活動にて、地域創生や海外への支援などテーマを決めて取り組んでいる。
- 県内企業との提携。
- 県内で実習をし、就職につなげている。
- 3に触れたことと合わせて、希望する地元の園所・施設が来学し、相談ブースを用意するなどした。
- 地元企業と大学の交流会などに積極的に参加し、学内説明会の招聘などを行った。今後は地元企業だけの説明会を実施したい。
- 県内の保育園や幼稚園、施設による説明会を行い、意識を高めた。
- そもそも地元志向が強く、県内での就職率が高い。学外授業で、県内の保育施設の見学なども実施している。
- 県内で就業する卒業生を学内に招き、キャリアについて在学生と話し合うイベントを実施した。
- 地元の求人は積極的に学生へアナウンスした。

- 県内の企業による採用説明会を昼休みの時間に設定する事により多くの学生が参加できるよう取り組んだ。
- 県内、市内の保育士へのサポート制度などのガイダンスを実施した。
- 留学生の就職先として県内企業を勧めたが中々受け入れてもらえなかった。
- 県内の保育施設による説明会を実施した。

〔東京〕

- 区と連携をして区立小学校・幼稚園・保育園のボランティアおこなっている。
- 自県内で就職をしている卒業生を招き、在学生に向けてガイダンス・講演を実施している。
- インターンシップやボランティア活動は、地域の施設を紹介している。

〔中部〕

- 県内への求人情報について、学生への積極的な案内。
- 自県で行われる合同説明会等への参加促し及び県の就職支援施設主催イベントの利用促進。
- 自県内企業への職場見学会の開催。
- 本学主催企業合同説明会や学内セミナーでは、県内企業を中心に参加を依頼。学生の県内企業への理解を深める機会を設けた。
- 進路未決定の学生に対し、電話でのヒアリングを実施している。また、教員と連携し進路未決定の学生に対しヒアリングを合わせて実施している。
- 自県内就職率の上昇に関しては、保育士の公務員試験受験者数を増やすため、公務員模試等を導入して促進している。
- 地元の企業や保育園、幼稚園を招き、企業研究セミナーを実施した。
- 大学所在地周辺の企業(施設)に声をかけた学内就職説明会(動画・オンライン)等の実施、自県内の企業見学会開催計画中。
- 県内の保育所・幼稚園の職員や園長を招き、出張講義や学生との交流をはかり、地元の保育職への認知をはかった。
- 実習施設や就職先は自県優先ですすすめている。
- 県内企業を中心に、学内企業説明会の積極的な受け入れを行った。
- もともと自県内で就職する学生がほとんどだが、地元企業や自治体との産学連携活動は継続的に実施している。
- 特に県内就職率の向上は目標としていない。
- 地元地域に特化したセミナー等の案内。
- 学生の希望を聞きながら出身県(地元)への求人依頼を行った。また、学生の出身県の園からの情報等(園のボランティア募集やイベントの案内)を対象学生にメールで提供した。
- 地元の良さを理解してもらうために、企業・行政・私立園・協議会・福祉団体等へ就職した卒業生にガイダンス等で話してもらう。

- 短大 1 年次からキャリア教育、キャリア指導を取り入れ就職に対しての意識付けを早期より実施し、本学独自の「地元企業セミナー」を催し地元企業の認知度向上に向け工夫している。
- 新卒応援ハローワークや地元の就職支援企業との連携を強化している。
- 学内での説明会への地元企業の優先的な招待。
- 地元企業と学生とのコラボレーションで食品の製造開発・販売を実施し、地域貢献する企業像を体感できるような取組を行った。また、地元農業や小売業の発展へ貢献するメニューを企業と共に考案する取組を行った。
- 県内求人情報を県内 4 地区に層別し、ゼミ教員経由でその地区の学生に展開した。
- 県内出身の学生が多い。

#### 〔近畿〕

- 地元企業の学内企業説明会誘致。
- 他大学と行政など地域と連携した事業への参画。学内での県内企業・保育所等の説明会開催。県内の就職情報の積極的な配信。
- ジョブパーク等と連携し登録会、地元企業合同説明会を学内実施。
- 県内の中小企業を中心とした学内合同企業説明会を令和 4 年度に実施。
- UIJ ターン情報提供の強化、就職支援締結の都道府県の前向きな検討など。
- 県内の就職を希望する学生のためのキャリア支援イベントを開催した。
- 初年度キャリア教育の中で、県内福祉情報ポータルサイトの活用やインターンシップについて周知活動を行った。
- 学生支援室に市の情報コーナーを設置。阪神間からの求人を優先的に掲示。
- 県内企業の説明会参加促進。
- 募集が少数であり求人を探しづらい事務職志望者が多いため、おすすめの求人情報を得たら速やかに学生へ紹介し機会を逃さないよう取り組んだ。
- 県内求人強化。県内企業訪問の強化。
- 県内出身地での就職説明会（フェア）への積極的参加の呼びかけや学内就職フェアの実施等。
- 近隣地域の事業所・団体に対し本学への理解を深めて貰うため交流会等へ参加し、求人等を依頼している。
- 県の経営者協会が主催するインターンシップを学院内に紹介し、就労経験の機会を促した。
- 県内の企業、施設等の就職フェアや説明会に積極的に参加するように促した。
- 県内企業のフロントランナー等を招きセミナーを開催。（県の労働局委託事業）

#### 〔大阪〕

- 地元の実習先病院に関する案内等を学内に設置。
- 地域の就職フェアへの参加を促し、また、地域の法人、株式会社等の人事担当者との交流を行い、学生に情報提供をした。学生と相談しできるだけ地元の実習先で行なった。
- 特に保育園等に関しては、補助金を導入している市を学生に紹介した。

- 1 回生から学生の就職面談を行い、自県内の求人情報の収集や提供、求人開拓を本人の希望を聞きながら行っている。各種就職フェア（説明会）への参加を促している。
- ハローワーク、L0 活プロジェクトの活用。
- 具体的な求人リストの回付。
- ジョブステーションやハローワークと連携しセミナー開催や施設見学、利用体験などに取り組んでいる。
- 公立受験を促したり、卒業生が勤めている園などを紹介したりして、なるべく学校とつながりのある園への就職を勧めた。

#### 〔中国〕

- 就職希望地は本人の自由にしている。意図的な県内誘導はしない。
- 県内企業等の個別学内説明会の実施、県内就職イベントの教職員の参加。
- 本学は出身県にUターンをすることを目的としている。
- 元企業とのセミナーや授業での連携強化、インターンシップ先を地元企業の割合を増す。
- 学内における県内就職説明会を対面開催する計画から WEB に切り替えた。WEB では資料掲載期間を3か月設けて自宅から閲覧できるように在学生コンテンツに掲載した。
- 県内事業所の求人情報を積極的かつ重点的に周知している。
- 地域の施設や事業所等を活用した実習。
- 県内企業合同説明会への呼びかけと就職支援講義の実施。

#### 〔四国〕

- 県内企業で構成した企業セミナーの実施。

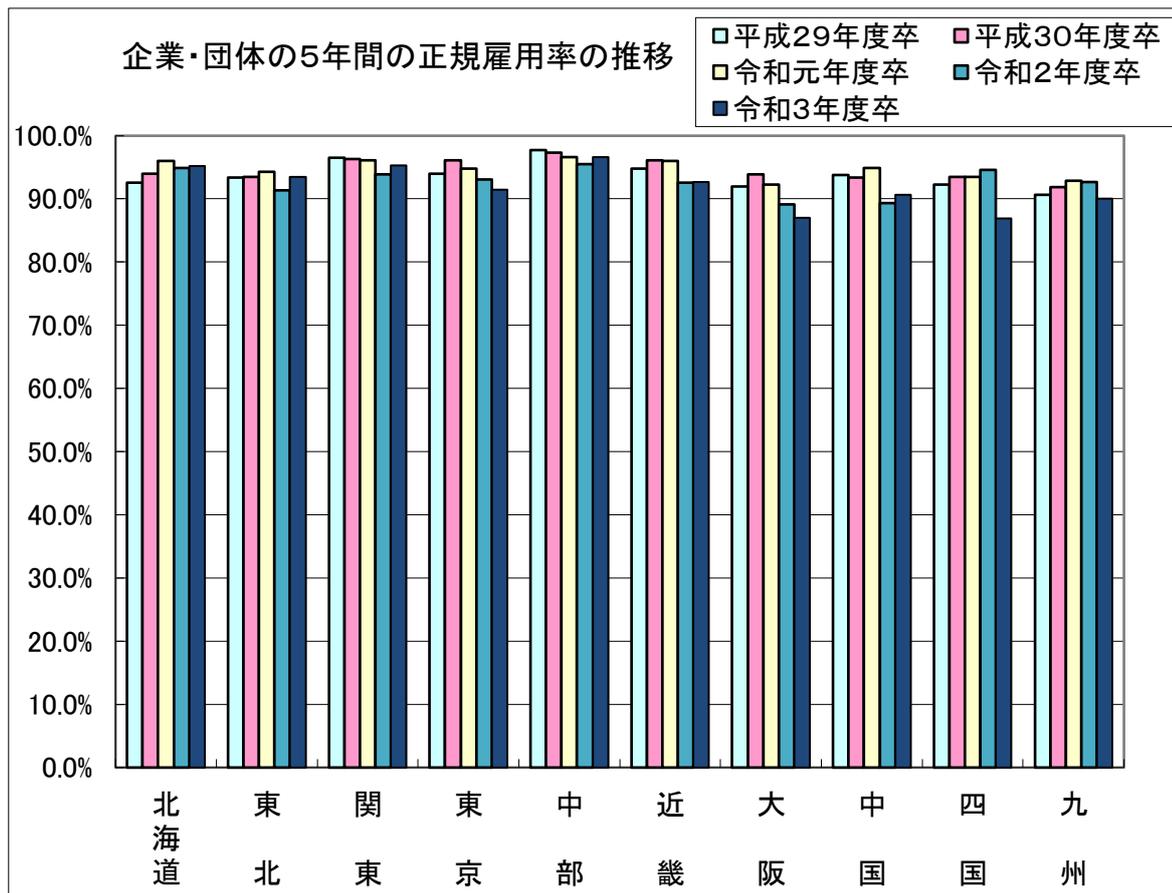
#### 〔九州〕

- 市との連携。
- 幼保系合同説明会等へ職員が引率。
- 自治体との連携による地域インターンシップ推進協議会参加。
- 地場企業、幼稚園保育園等の説明会への積極的参加の呼びかけ。
- 地元企業による説明会の実施。
- 市の助成金を活用し、市内に本社を置く企業様を中心に「学内合同企業説明会」を開催した。当該事業は令和4年度も継続予定。
- 地元企業に依頼して、オンラインセミナーやWEB見学会などを実施して頂いた。
- 県が主催する、企業を紹介するイベントに学生を授業の一環として参加させた。
- 行政との共同イベントなど。
- 県内就職をすれば返還が免除となる就職資金貸付制度があり、これを利用する学生が多く、県内就職率がより高まった。

- 県内の一部地域に特化した保育施設による学内での説明会を企画した。2月開催の予定であったがコロナにより延期となったが、学生の進路に対して有用の機会との認識のもと、令和4年5月に実施した。
- 令和3年度内に、初めて市役所と合同で、本学内で保育園等の方々による就職フェアを行った。
- 本学生の殆どが県内就職者。
- 地元企業の人事担当者を招いて就職支援ガイダンス「業界研究」を実施。(2回実施・4社に参加してもらった)
- 地元企業を招聘しての学内での企業研究セミナーを継続的に実施。
- 地方自治体との連携強化のために情報共有を密に行っている。
- 園見学及び体験実習(一人数園実施)。
- 地元企業の説明会や、卒業生の講話等、学内でもイベントを実施した。

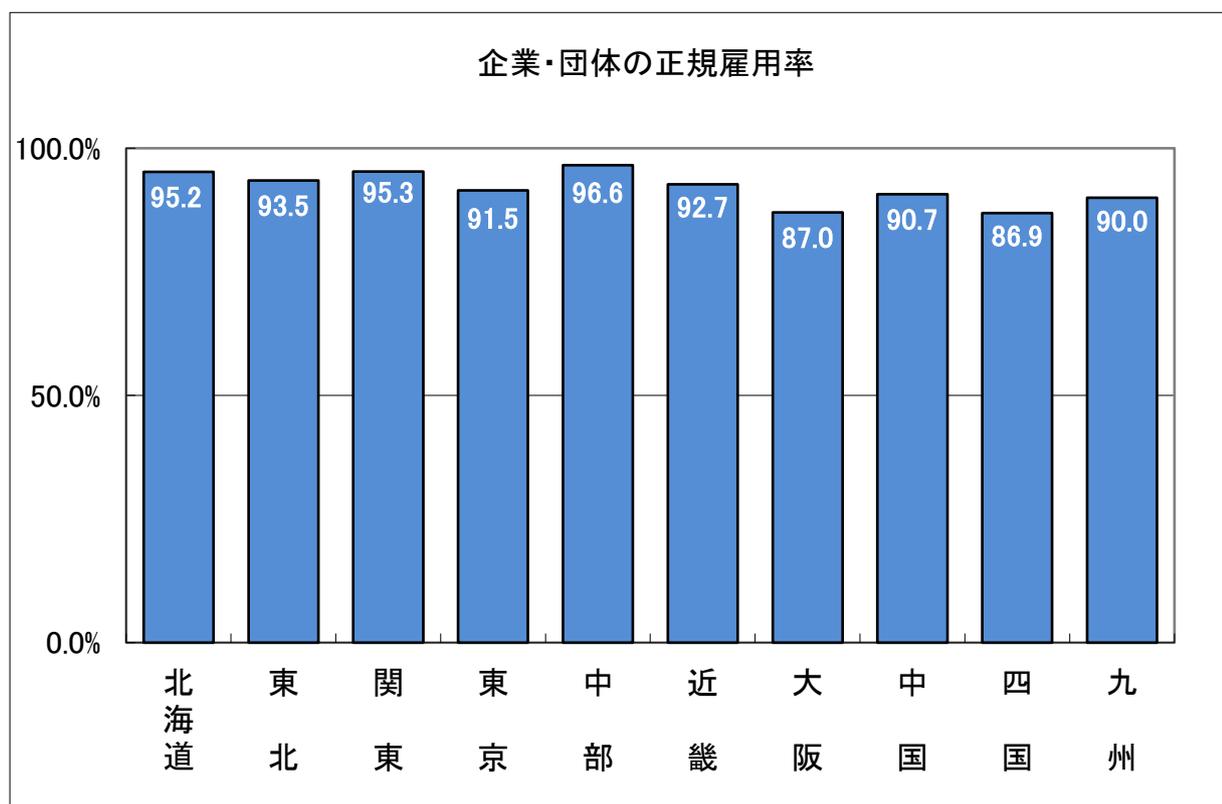
## 企業・団体の正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成29年度卒	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒
北海道	92.6%	94.0%	96.0%	94.9%	95.2%
東北	93.4%	93.5%	94.3%	91.4%	93.5%
関東	96.5%	96.3%	96.1%	93.9%	95.3%
東京	94.0%	96.1%	94.8%	93.1%	91.5%
中部	97.7%	97.3%	96.6%	95.5%	96.6%
近畿	94.8%	96.1%	96.0%	92.6%	92.7%
大阪	92.0%	93.9%	92.3%	89.1%	87.0%
中国	93.8%	93.4%	94.9%	89.3%	90.7%
四国	92.3%	93.5%	93.5%	94.6%	86.9%
九州	90.7%	91.9%	92.9%	92.7%	90.0%
全国	94.4%	95.2%	95.0%	93.1%	92.8%



## 令和3年度企業・団体における地域別雇用形態の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	12,270	11,383	887	92.8%
北海道	610	581	29	95.2%
東 北	647	605	42	93.5%
関 東	2,201	2,097	104	95.3%
東 京	1,440	1,318	122	91.5%
中 部	2,353	2,272	81	96.6%
近 畿	1,399	1,297	102	92.7%
大 阪	1,170	1,018	152	87.0%
中 国	557	505	52	90.7%
四 国	457	397	60	86.9%
九 州	1,436	1,293	143	90.0%



## 企業・団体の令和3年度の就職・採用活動について 前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(まとめ)

### ①学生の就労意識、意欲について

記述のあった短期大学は 115 校であった。コロナ禍による就職への危機意識や先輩が苦勞している姿から自主的に早期から動いた学生と、就職活動に関しての意識や意欲が低くなかなか動かない学生との二極化が顕著に現れた。また就職活動の先延ばしや、やりたい業界・職種の求人が無いという理由から進学を選ぶ学生も増加した。

内定後は内定取消等の危惧から夏休み以降も就職活動を継続する学生も現れた。憧れだけでなく、長期スパンで働くことをイメージし、自身の価値観やワークライフバランスを考えた職業選択をする学生が増加した。

### ②求人件数・求人内容について

記述のあった短期大学は 128 校であった。昨年度に続いて航空・観光・ブライダル・美容部員・デザイン関連業種の求人がほぼ無い中、IT 企業や地元企業で求人増の傾向が見られた。紙媒体の求人は減ったものの、ナビサイトの掲載求人が多くあり問題は無いようである。また、アルバイト先での正規雇用の求人に応募してアルバイト先を就職先と結びつけるケースも多くなった。特筆すべきは「一般事務職の求人が減少した」との回答が多かったことである。

大学生と比較すると、インターシップ・早期選考を受ける機会が少ないことが不安や焦りを煽っているという特徴がある。企業側は、良い学生がいれば採用する・早めに採用活動を始めて早めに終わらせる傾向にある。

### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

記述のあった短期大学は 31 校であった。初任給の基本給が上がった企業もあったとの回答が多かった。事務職・SE 職を希望する学生が、テレワークが出来るか否かも企業選びの基準となったことは、コロナ禍ならではの働き方改革の好影響と見受けられる。一方、非正規求人の増加、留学生の求人低下が進んだようである。

### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例

記述のあった短期大学は 52 校であった。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、想定しなかった好事例も生まれた。

オンライン選考が増えたため学業との両立ができた・オンライン就活は現地に行かなくて済み、交通費等の費用面でのメリットがあった・体調不良で参加できない際の日程変更が容易になったなどが挙げられた。また、ミスマッチ解消策として、企業が説明会で若手座談会を設けるなどの工夫も多く見られた。

## ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

記述のあった短期大学は46校であった。一層進む採用スケジュールの早期化に苦慮する短期大学が多く、感染対策には企業によってばらつきが見られた。

一部の企業では、学内説明会への出展をお断りしても再々希望の連絡がある・学校推薦が急遽中止になった・WEB環境が整っていない企業との情報交換がしづらい・採用時期が例年より遅かったため学生の就活時期と合わず、学生が採用試験を受けることができなかつたなどの事例が報告された。

また、依然として、面接でプライベートに関する質問があった・留学生の就職に際し保証人を必要とする・合否の結果連絡が企業から説明された日程の範囲内で来ないといった、今後対策が必要となるケースがあったことは残念である。

## 企業・団体の令和3年度の就職・採用活動について 前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(具体的記述内容一覧)

### ①学生の就労意識、意欲について

〔北海道〕

- 新型コロナの影響で授業がズレ込んだりして就活が思うようにできず、卒業ギリギリまで動かなかった学生がいた。
- 一般企業への就職者比率は 8.6%で前年と変化はないが、令和元年度と比較すると-5.5ポイントと大きな低下となっている。特に小売業への就職者が減少している。
- ある職種以外は正職員を希望した。
- 向上した。
- 就職に対する意識の二極化。
- 就職活動が長引くにつれ、モチベーションを継続させることが難しかった。
- コロナ禍の影響もあり、就職活動を早期から行う学生が増加した。
- 就労意欲の高低に二極化。

〔東北〕

- 資格を活かした職への意識が高く、一般企業を希望する学生は少なかった。
- 就職意欲が強かった。
- オンラインによる就職活動の誘導は他の学生の温度感が伝わりにくく、意識・意欲は低いままだった。
- 病院以外での就職を目指す学生が出て来ている。
- 定員割れが続いているためか、学生の就労意識や勉学意識が低下している。
- より安定性を重視する学生が増えたように感じる。
- 二極化が明確になり、早い学生は 4 月内定で、遅い学生は 9 月以降に活動し、年内に決まらず 3 月内定に至った学生もいる。
- 前年度よりも、就職活動のスタート時期が遅い学生が多く見受けられた。

〔関東〕

- 令和 2 年度の採用状況および令和 3 年度の採用の見通し等の情報を受け、例年よりも早い段階で活動を始める学生が増加した。また、複数内定を保持する学生はこれまであまり多くはなかったが、内定取り消し等を危惧し、夏休み以降も就職活動を継続する学生が見受けられた。
- コロナ禍の就活にも少しずつ慣れ、それに合わせた対応ができるようになってきた。
- 学生の夏休み期間(8月～9月)に行動制限があったが、意欲低下は見られなかった。
- 早くからキャリアセンターを利用する学生が増えたが、一度も利用しない学生もおり、学生の就労意識の差を大きく感じた。
- 目立つ変化はなかった。
- 意識は高いように感じた。

- 新型コロナウイルス感染症に伴う今後の就職状況を鑑み、学生には早期から活動するようにした。学生は意欲的に取り組んだと思う。
- コロナ禍で求人数が少ないこと、前年度の学生の姿を見て早めに活動を始めている学生が多い。就職できるか不安を抱える学生も比例して増加した。
- オンラインの就活にもだいぶ慣れ、柔軟に対応できてきていた。1年間、授業がほとんどオンラインだったため、ガクチカが書けない学生が見られた。
- 例年通り、意欲的に活動し就職率100%を達成した。
- インターンシップからの選考が前年度よりも活発化しているのか、早期内定者とそうではない学生との二極化が更に強まった。
- 企業に就職する学生はほとんどいない。
- 就職を希望していても就活を始動しない、意識・意欲の低い学生もいた。
- 就労意欲は依然高く、さらに資格を活かした職に就く者の割合が増えた。
- コロナの影響を受けることを事前に把握しているため、就活に対する意識は、さらに高まっているように感じる。
- コロナ禍の影響により、入学時点の学生同士のコミュニケーション不足から他学年と比較し意識、意欲の低下が見られた。
- 意識、意欲については、二極化が顕著と思われる。
- 前年の春頃は動きが止まっていたためか、令和3年は動き出しが早かった。

[東京]

- 例年通り、他大学の一般的な就職活動の開始時期よりも遅い傾向にある。就労意欲の低さを感じる。
- 傾向に大きな変化はない。就労意識や意欲は多少あっても就活意識や意欲へはつながらなかつたり、就活への苦手意識などを持ったりする場合もある。
- コロナが長引く中、卒業後は就職をしなければならないという危機意識が生まれ、若干就職率が向上した。
- 専門職以外への就職希望者はほとんどいない状況。
- コロナ感染症の影響による採用枠の現象等により希望する業界職種への就職を叶えられない学生が多く、就職意欲が低下傾向にあると感じた。
- 令和2年度はオンラインの会社説明会がほとんどであったが、令和3年度は対面実施された企業もあり、学生はオンラインよりは就職に対する意欲は高まったと感じる。
- 雇用形態へのこだわりがやや希薄であった。
- 保育士、介護福祉士への関心が強くなっているように感じる。
- 就職に向けての取り組みは昨年より早かった。アルバイト等の経験が少ない学生も多く働く就業観がどれだけ身につけているか疑問。
- 就労意識・意欲は低いと思う。自室で授業動画を聞く日々なので、学生同士の情報交換が無いことが要因と考える。
- 就職への意識の低下。大学への編入を希望する学生が増加した。

〔中部〕

- 多くの学生は積極的に就活に取り組んだ。一方で一部の学生は長期化した。
- 親元から通勤できる「地元志向」が、より強くなった傾向を感じた。
- 就労意識・意欲は高いが、一方で進学を希望する学生の割合が増加している。
- 正規採用を目指さず、非正規やアルバイトとしての働き方を選択する人が増えた。
- 意欲の高い学生と低い学生がはっきり分かれた。
- 県外への就職希望者がいなかった。
- コロナ禍であるがゆえ就職が厳しいと感じており、専門職を目指す学生が多い。
- 講義のオンライン化により、学生間の情報交換の場が減り、結果としてモチベーションの維持が難しくなっていると感じている。また、県外就職を希望する学生が例年より減ったと感じている。
- 早期に就活する学生とそうでない学生の二極化が更に広がった。
- 年々、意識、意欲、低下気味の傾向、コスパ重視。
- 学生にもよるため一概には言えないが、時流に乗って動けない学生が多く、年を越しても進路が決定していない学生が多かった。
- 2021年度卒業の学生については、例年よりも意欲が高い感触があった。
- 1年次よりインターンシップに参加して積極的に就活に取り組んでいる学生と、2年生になっても殆ど活動できていない学生とで二極化している。
- 大きな変化はありませんでしたが、一昨年同様活動する学生と活動を進められない学生の差が大きくなっているように感じている。
- 令和2年度と比較して、進学希望が増えた。
- 就労意識については大きな変化はない。意欲については、就活のスタート時点では、オンラインの説明会などに少し戸惑いがあったようだが、すぐに慣れ積極的に参加していた。対面の説明会より参加しやすかった。資格を活かした就職希望者が大多数いた。
- インターンシップ、合同企業説明会へ参加する学生が増加するなど、就労意識、意欲の向上が見受けられた。
- 早めに動く学生となかなか動かない学生との間が広がってきている模様。
- 採用活動の早期において、業界研究・企業研究を積極的に進める学生が増加した。積極的な意欲のある学生は「入社したい企業・業界」が明確である傾向が表れた。

〔近畿〕

- コロナ禍を理由に就職活動をしない学生は減ったが、専門学校など就職以外の進路選択をする学生は増加した。
- オンラインから対面授業へ戻り、2年生は就職活動の両立が上手くできず、コロナ禍での心身の健康状態も影響して就職活動が長引く学生が多かった。1年生はコロナ禍でできる経験があまりなかったため、インターンシップに意欲的に参加していた。
- コロナを言い訳にする者も存在した。
- 幅広く業界職種をみようとする学生数の増加により、早期の就職活動開始者増えた。

- 就労意識、意欲低下の傾向がみられた。
- 就職状況は昨年度よりわずかに好転しておりますが、大きな変化はなかった。
- コロナ禍による求人件数の減少や採用選考基準の難化により、就活を逃避する学生が増加した。
- 「コロナ禍で自分が活動できないのは仕方ない」と考えており焦燥感の薄い学生が多い。  
一方で、意欲的な学生も一部おり二極化が目立つ。
- 意欲的に就職活動に参加していた。
- やや低下し、就職活動等の動きが遅かった。
- 少し低下していたように感じた。活動を始めてはみたものの、上手くいかない事が少しでもあると早々に次の行動に移らない学生がいた。
- 大卒と比較してインターンシップ、早期選考を受ける機会が少ないことが、不安や焦りを煽っている傾向がある。
- 意欲は低いと感じた。
- 前年度より、早い時期から活動を開始していた。

#### 〔大阪〕

- コロナ禍の影響を受けて、就労に危機意識を持つ学生。
- 少し求人数が増えたこともあり、観光業界にチャレンジする学生が前年度に比べて増加した。
- 昨年同様、コロナ禍で学生が希望するサービス業、航空・ホテル旅行業界の求人がほぼなかったため、学生の就職意欲が低下している。
- 業界によって求人減少など厳しい状況もあったが、就職を希望する、ほぼ全ての学生が進路を決めて卒業することができた。
- 就職より進学（編入学）希望者が増加した。
- 今の憧れだけでなく長期スパンで働くのをイメージし、自身の価値観やワークライフバランスを考え職業選択する学生の割合が増した。
- 資格を活かした専門職の仕事への意識があり、一般企業への関心は少なかった。
- 全体的に就労意欲は低下している、将来への先行き不安や不透明感。

#### 〔中国〕

- 進学・就職を希望しない学生の比率が増えていることから、就労意識の低い学生層が増加していることが読み取れる。
- 養成校であるので最初は一応ほぼ全員が専門職を希望して入学してくる。学業途中の休学などにより免許資格が取得出来なかった者がやむを得ず一般職に就職する。
- コロナ禍で就活イベントの減少及びオンライン授業などの影響から、就活意識の高まりに歯止めがかかっていた。
- 先輩がコロナ禍で苦戦している姿を見ていたため、危機意識を持ち早めに動く学生が多かった。
- 前年度と変わらず個人差が大きい。
- 就労意識、意欲の強い者とそうで無い者の二極化が進んでいる。
- コロナ禍での不安もあり就労意識は高いが、焦りや不安が先行し、具体的なイメージに乏しい。

- 就職活動へ積極的な学生とそうでない学生の二極化がうかがえる。
- 新たな就職先より、アルバイト先での正規雇用の求人に応募をして、アルバイト先を就職先と結びつけるケースが多くなった。
- コロナ禍による危機感から活動が早期化した。

#### 〔四国〕

- 二極化が進んでいる。
- コロナ禍でのみ学生生活を過ごし、実習の延期や中止などを経験したこともあり、早めに自ら行動しなければいけないという意識は強かった。
- 説明会や見学への参加を積極的に行った。

#### 〔九州〕

- 専門職（芸術・デザイン系）以外への就職意欲が高かった。
- 学生の就労意識、意欲の二極化。
- 就労意識が高く、優良企業への希望も多かった。
- 学科により学生の就労意欲に差がある。
- 就活意欲に関しては二極化・長期化の傾向が顕著でした。オンラインを活用し1日に複数社受験する学生もいれば、コロナ禍を理由に活動減となり長期化、というように二極化となった。
- 観光業や航空関係の採用がない中、進学をして勉強をしてから就職活動をするという学生が多く見られた。
- 学生各個人の就職活動の孤立によって、周りの動向が見えず活動意欲の減退が見られた。一方、意識の高い学生は早期から活動を行っていた。
- 意識・意欲については、前年度と変わらないが個人差はあった。
- 意欲というか、コロナ禍での就職活動なので気持ちの面で焦っている学生が多く、そういった面から例年より活動的であった。
- 医療事務よりも一般企業就職希望者の割合が多かった為、早い時期から積極的に活動する学生が多かった。
- コロナ禍での進路決定という面に関しては、入学時点からその認識を深め、早期から意欲的に取り組んでいた学生が多く見られた。
- オンラインでの企業説明会や面接に少なからず慣れを感じる。
- 民間企業においては採用選考が早く、WEB面接などの対応に苦慮した。
- コロナ禍であっても、例年通り頑張っていた。
- コロナ禍での就活の方法に慣れてきたこともあり、令和2年度の早期化から一転、コロナ禍前のスローペースに逆戻りした感があった。また、一定の業界に固執するのではなく、幅広く、かつ、早めに方向転換をする学生も増えた。また、県内就職を希望する学生が増えた。
- 社会の変化に伴い、女性も働き続けることが求められることは理解しているものの、当事者意識を持ってない学生も多い。

## ②求人件数・求人内容について

〔北海道〕

- 航空、観光関連業種の求人がほぼ無かった。
- 一般企業は求人全体の比率、件数ともに前年度との変化は見られないが、令和元年度と比較すると比率で3.1ポイント低下、件数で52件減少している。
- 例年並み。
- 前年に比べ微減、一般求人の求人人数の減少がみられた。
- 近郊の地元企業求人が若干増加した。
- 求人件数は短大全体で約18%増加。コロナ禍で途絶えていた企業・団体からの求人が戻ってきた。
- 求人件数は減少。
- 求人件数はここ数年常に右肩下がりである。

〔東北〕

- 分野によって、増減の変動はあったが、就職活動には影響がなかった。
- 減少している。
- 前年比約93%と、まだまだ地方はコロナ禍の影響が残っている。
- 全体的に求人は減少。特に地元の事務職求人が大きく減少した。
- 地元の企業の求人が減少している。
- ほぼ横ばい。
- 県内求人60件（53件）、県外求人77件（78件）となり、わずかであるが県内求人が昨年を上回った。
- 求人件数は地元の求人が全体的に減少している。いい学生がいれば採用するという企業が多くなり、学生自ら活動する事が必要になる。

〔関東〕

- 一般事務の求人が減少した。
- デザイン系の求人が減少している。
- 求人件数は、前年比128%となりコロナ禍前の状況に回復した。
- 求人件数が減少した。
- 求人数は増えたが、戻っていない。
- コロナ前に比べ、就労意識は高くなり、活動的になった。その反面、活動しない学生との差が大きくなった。
- 求人受付件数は約50件減少した。特に卸商・小売業においては大きな減少が見られた。
- エアライン業界は殆どなく、ブライダル業界も大幅に求人が減少した。その分病院や事務職等の求人は増えたため、全体的な求人数の変化は特にない。
- 求人件数や内容は大きな変化はない。ただ、全体的に早めに採用したい、早めに採用を終えるという企業が増えた印象。また目線も高まっている印象。

- 求人件数は全体で前年度より 1 割減少。業種は輸送と流通（特に外食・給食等）が 2 割減少。建設、サービスは前年並み。
- IT 系の求人が増えた。ホテル、観光系の求人は昨年度同様少ない。
- 求人件数が若干増加。
- 求人件数が減少した。
- 令和 2 年度よりは増加したが、コロナ以前と比較すると依然減少している。
- 業界によっては、職種ごとに求人が減ったりしている企業もあり（旅行業界など）、アパレルなどは、少しずつ増えつつある。
- 本学学生が多く希望をする職種の求人数が激減した。
- 求人件数は減少した。
- コロナ禍前と比べてもほぼ横ばいで推移している。
- 一般企業の求人件数は減少した。（前年度比 38%）

〔東京〕

- 特に飲食店・アパレル関係の職種の求人が減ってしまった。
- 業種によって求人件数は減っている。
- 介護職/IT 関連職は増加している。
- 件数に関して著しい増減はないが、各企業の採用予定数について、若干少なめの人数設定であったようにも感じる。
- 求人数の一部減少。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い職種（例：事務職等）によっては求人数が減少傾向にあった。
- 短大生を募集対象としない企業が増えた。
- 求人件数は減少した。
- コロナ感染症の緩和により前年度よりはわずかだが求人数の回復傾向が見られた。
- 求人件数が増加した。
- 紙媒体の求人数は減少傾向。
- 変わらない（食物・臨検）。但し時期がまだ不安定なことも（臨検）。
- アパレル等の販売職の求人が減少した。
- 化粧品・ブライダル業界の求人件数が激減した。

〔中部〕

- 少し減少した。
- 求人件数については、減少傾向が見受けられた。
- 学校に届く求人は減ったと感じている。事務職求人も減少している。
- 求人件数は微増。
- 県内求人が若干増えた。
- ホテル関係が 11 月くらいより増え始めた。（コロナ感染拡大が落ち着いたから？）

- 令和2年度と同様であるが、企業に関しては宿泊・観光関連企業の求人数が減少していた。
- 件数自体は例年と変わらない印象であった。しかし、求人内容(職種)において事務系職種が減り、学生とのミスマッチが生じていると感じている。
- 求人件数は特に変化がなかったが、事務職の求人は激減した。
- やや減少した。
- 若干減少。
- 観光・ホテル業等の特定業種を除いて、コロナ禍以前と大きな差異はないように感じられる。
- コロナ禍の前年までは個人病院から医療事務の求人募集が本学へ直接提出されていたが、コロナ禍を境に提出されなくなってしまった。
- コロナ禍で業績に影響を受けている業種(旅行、宿泊、日用品以外の小売り等)からの求人は依然厳しい状況。
- 求人件数は、前年度と比較してやや減少した。
- 令和3年卒業:8,047件 令和2年卒業:8,798件 メーカー、商社、流通、情報通信、サービス等幅広く減少している。
- 求人件数は減少したが、求人内容については特に変化はない。
- 求人件数は全体的に減少した(特に事務系)。
- 一般企業の短大卒宛ての求人が減少し、会社説明会のWEB案内が増加した。
- 観光業を中心に求人が減少した。
- 前年比81%と70社程減少。

[近畿]

- 観光業界などの求人数が少しずつコロナ禍以前に戻り始めた。
- 求人数微増。しかしサービス職は回復せず。
- 本学の学生が希望する、接客販売などの求人件数の減少傾向が継続している。
- 小売業・観光業に求人件数・募集人数の減は見られたが、他は特になし。
- 求人件数に多少の減少があった。
- 大学に届いた求人数は昨年度より減少しましたが、大きな影響はなかったと思う。ただ、事務職の求人が少ない印象。
- コロナ禍の影響を受ける業界のみならず、相対的に短大生採用枠の減少が感じられた。
- 求人件数が減少(特に接客関係)。
- 令和2年度と大きな変化はないが、事務職求人が減少した。
- 少し増えた。
- 少し減少した。

[大阪]

- 求人件数は微減ながら、学生が希望する業種の求人割合が少し回復している。
- 求人件数は減少した。
- 求人件数例年通り。多くの学生の希望しているエンタメ業界の求人数が増えた。

- 実感ではあるが、観光業界の求人が増加したように感じた。
- 上記業界と一般職（事務職）も求人数が減少した。
- アパレル、観光業界からの求人、一般事務職の求人が特に減少したが、専門職など資格を活かした求人は例年通りだった。
- 企業の求人が少なかった。
- ブライダル業界や、アパレル販売職・美容部員の求人数が減少した。
- 数は若干減。
- 事務職の新卒採用、化粧品会社のBA職が著しく減少した。
- 一般企業からの求人件数は減少した。
- 大きく変化はないが、卒業後に募集時と待遇が違くと相談を受ける事があった。

#### 〔中国〕

- 大学求人においては、建築で増、販売、サービス業で減。
- 観光・アパレル系企業の求人は減少傾向にあった。
- 前年度に続き、1割程度減少した。履歴書やエントリーシートをオンラインで提出するように指定をする企業が増えた。
- 前年度より微減。
- 求人件数は、昨年より約20%減少した。
- 減少傾向にある。マイナビやリクナビなどの就活サイトから申し込む形式が増えたことも少なからず影響がある。
- 栄養士、臨床検査技師等専門職に大きな変化はないが事務、販売系が減少した。
- 求人件数は、25%程度減少した。
- 求人数が10%減少した。特に民間企業関係の求人のみ減少した。
- 本学宛てに寄せられる求人件数が減少しましたが、コロナ禍の影響以外に、もともと専門職課程の学科であることも影響していると考えられる。
- 持ち直してきた。県内の短大卒就職率は、R2 95.0% → R3 98.1%。

#### 〔四国〕

- 減少傾向。
- 職種に関係なく、微減している。
- 求人件数が減っている。
- 概ね前年度と同数である。
- 求人件数は、約16%減少した。企業からの求人は、HPや就職サイトからエントリーするものが多くなり、大学へ直接送られてくる求人は減少傾向にある。

#### 〔九州〕

- 求人件数の減少。
- コミュニケーション職の求人が減った。

- 給与等の内訳がより詳細表記となった。
- 年々減少傾向にある。観光業界の求人は増加傾向である。
- 紙ベースでの求人の減少。
- 減少した（特にホテル、アパレル、飲食等）。
- 昨年度に比べて求人件数が更に減少。
- 求人件数はやや減少した。大学生同様の早期化した就職活動スケジュールのため、総合職採用が増加した。
- 一般企業については令和3年度も前年度と比較して減少傾向が続いている。ただし、年度末の企業との情報懇談会では、次年度は積極的な採用を考えている企業が増えている。
- 求人件数、求人人数ともに新型コロナ以前に戻りつつあると思う。
- 200件程求人減となった。求人内容については特に変更は見られなかった。
- 観光業や航空関係、アパレル関係の採用なし。IT関連の求人数が増えた。
- 一般企業系は約30%減少したが、元々就職ナビ活用が多いため大きな影響はなかった。
- 求人件数は、前年度と比較すると約20%減少している。
- 件数自体は前年度とほぼ同様であったが、製造、小売り等の求人は増加した傾向が見られたものの、航空・運輸、宿泊・観光がやや減少した。
- 求人件数が少し減少した。
- コロナ禍の為なのか、求人数は減少した。特に大都市圏からの求人。
- 件数、内容ともに、前年度からの増減や変化は無かった。
- コロナの影響を受けた業種に関しては求人がなく、進路変更を余儀なくされるケースもあった。

### ③雇用形態、処遇(含・給与状況)等について

〔北海道〕

- 正規採用の求人が増加傾向にある。
- 正規雇用比率が若干低下した。
- 初任給が増額改善された企業が数社あった。

〔東北〕

- 処遇改善は良好である。
- 大きな変更はなし。一部コロナ禍でも売上を伸ばした企業で短大基本給が上がったところもあった。

〔関東〕

- 一部基本給を上げた企業もありましたが、全体としては大きな変化はなかった。
- 事務職の求人が減り、総合職が増えた。
- 新型コロナウイルス感染症の影響から、雇用形態が制限されることがあった。

- 雇用形態は変わらず正社員での入社が多い。事務職やSE職を希望する学生はテレワークができるか否かも企業を選ぶポイントにしていたように思う。
- 販売職については、以前は地域限定職等の求人が多かったが、近年は総合職としての採用がほとんどである。
- 基本給が上がった企業があった。
- 増加傾向にあった求人はコロナ禍の影響を受けた。正規雇用求人は特に少なく、一般事務にあっては非常に狭き門である印象。

#### 〔東京〕

- 特に感じられる変化はない。短大生を想定した一般職的な採用については、信用金庫などでは縮小や廃止など傾向の変化もやや見て取れる。
- 処遇改善がみられる企業が多く見られた（栄養士）。

#### 〔中部〕

- 初任給を引き上げる企業が複数あった。
- 新卒学生の求人が積極的であった。
- 対面が増え、WEBとの使い分けをされるケースが説明会、選考ともにみられた。
- 医療事務職において、地元クリニック（開業医）の基本給向上（他業種と比べ著しく低いクリニックには本学より相談した）。

#### 〔近畿〕

- 中途採用のみが多い。
- 契約社員の雇用形態はほぼなくなり、女性社員が長く働ける制度を積極的に導入する企業が増加した。

#### 〔大阪〕

- 非正規の求人が多くなったように思う。
- 一般職の求人は人材会社の正社員または無期雇用型の派遣社員に変化している。
- 年間休日が増えてきている（100日を切る求人はわずか）。
- 対面接客（BA、エステシャン）では契約社員の期間を設置する会社が他業種に比べ非常に多く学生の不安材料。

#### 〔中国〕

- 栄養士関連で給与の見直しで条件が良くなかったものがあった。

#### 〔九州〕

- 留学生の求人絶対数が減少し、一昨年に続き就職活動が難しかった。
- 一部の企業においては、給与の見直しがあり増加傾向にある。

- 少しではあるが正規での採用が増えている。県外(特に福岡)との待遇面においては差がある。
- 職種によっては待遇等に違いはあるが、目立った変更や動きはあまり感じられなかった。
- 特段処遇が向上したという認識はない。
- 大きな変化は見られなかったが、働き方改革を踏まえ事業所ごとに努力をされていることが窺えた。

#### ④雇用者側の対応で改善された(よくなった)と感じた事例

〔北海道〕

- オンラインでの対応が増え、現地に行かなくても就活が出来るようになった。
- WEB 面接、就職試験を実施してくれた。
- コロナ禍における WEB 面談等の対応に慣れが出てきた。(準備等スムーズに行える様になった)

〔東北〕

- 勤務地で悩む学生が多い中、令和3年度は地域別説明会や地域別採用が見られる。
- 最終面接以外は、感染を考慮してオンラインで対応してくれる企業が増加した。
- 平日に説明会を実施する病院が減少した。
- 内定承諾の提出期限を、学生が要望する時期まで延期してくれる企業が複数あった。

〔関東〕

- 圧迫面接。
- コロナ禍もあり、学生の事情に配慮した対応(日程変更やオンライン対応)が増えた。
- WEB 面接等で臨機応変に対応していただいたため、スムーズにできた。
- 説明会では「若手社員の座談会」といった時間を設ける企業が増えているように感じた。  
ミスマッチ防止につながると思われる。
- WEB 説明会、WEB 面接の対応。
- 会社説明会がオンラインか対面参加か学生の希望で選択できるものが少し増えた。
- WEB 説明会や WEB 面接などが増えたため、交通費や参加による授業欠席などの学生の負担が軽くなっていると感じた。
- 多くの企業では、コロナ禍の影響により面接等をオンライン変更するなど柔軟に応じてくれた。
- 県外企業の一次選考(筆記・適性・面接)はWEBでの対応が多かった。

〔東京〕

- コロナ禍もあり、体調不良等で選考参加が叶わなかった場合の再日程が設定されているなど。
- オンライン選考が中心になったことで就職活動の学業への負荷(授業欠席等が減少)が軽減された。
- オンライン選考の待遇が採用側の慣れもあってか改善された。
- 証明書等の提出についての猶予。また、ネットからの入力で可能という企業もあった。

○最終面接以外、オンラインでの面接を採用している企業が多くなった。学生は、交通費等、費用面でとても助かっていると思う。

#### 〔中部〕

- 内々定のあと、学生の相談に対し柔軟に対応してくれる企業が増えた。
- 会社見学や説明会、選考などを、学生の都合に合わせて柔軟に対応してもらえるケースも増えた。
- WEB 対応（説明会、面接、グループディスカッション）がスムーズになった。
- 学内でのガイダンスへの積極的な協力。
- 学内説明会の参加に意欲的で、参加学生が少数でも説明機会が得られることに意義を感じた。
- 給与面が若干上昇した。
- 学生の状況に合わせ、対面と WEB 両方で対応して頂いた。
- オンラインでの説明会が増えたように感じた。
- 引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった令和3年度は、企業・団体等の採用活動で WEB を利用した選考が設けられるなど、学生に配慮した対応が見受けられた。
- 企業側が採用活動計画を立てるにあたり、本学の学生が授業、試験、研修等で採用試験に参加できない日を除いてもらった対応例あり。
- 処遇改善があった。

#### 〔近畿〕

- WEB を活用する企業が増加してきた。
- オンライン併用が通常化したため、授業欠席せずに済むことが増えた。
- オンライン選考の導入でコロナ禍でも早期対応が可能となった。また遠隔地でも対応し易くなった。

#### 〔大阪〕

- あらゆる面で対応が柔軟であった。
- オンライン対応などがスムーズに行われるようになったこと・その機会が増えたこと・個別の状況に応じて対応して下さったこと。
- 授業出席優先への配慮はほとんどの企業に応じていただけるようになった。

#### 〔中国〕

- オンラインでの対応が増加した点。試験日程を弾力的に対応していただけた点。
- オンライン面接は助かっている。
- シフト勤務の早出の開始時期を少し遅くする。※仕事に慣れてから
- 正規雇用求人が一般的となった。

〔四国〕

○多くの企業がオンラインでの説明会を実施してくれた。

〔九州〕

- オンライン選考がスムーズになり、学生も対応できるようになった。
- オンライン選考の増加。
- 給与の見直し。
- WEB面接が多くなったので、交通費等の学生負担が軽減。
- 説明会や面接のWEB開催や選考の土日開催など、学生に配慮した選考形態が増加したように感じる。
- オンラインでの面接を採用している企業は感染対策ができ、交通費の負担も減らせるので良いと感じた。
- オンライン会議ツールを上手に活用できるようになったと感じる。
- 合同企業説明会及び単独企業説明会共々、夜間のオンラインでの説明会が多くなり、学生が就活をしやすい環境になった。
- 企業側から学生に対し、積極的に情報を発信しようとしていることが感じられる。

⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

〔北海道〕

○一部の企業でZoomやTeams、Webex以外のアプリを用いるケースが稀にあり、接続が難しい場面があった。

〔東北〕

- 面接や試験をリモートで対応しない分野もあるため、学生が就職活動の日程調整に苦慮していた。
- 感染拡大エリアからの訪問や対面説明会希望への対応。
- 東北の企業が、コロナウイルス感染拡大のため学生の地元志向が強まったため、対応が横柄気味であった。
- 現在お断りしている学内での説明会を希望してくる。
- 求人があっても中小企業、処遇の悪いところには行きたがらない。

〔関東〕

- WEB環境が整っていない企業との情報交換が難しい時があった。
- 実習を受け入れているのに就職につながらないという意見があった。
- 施設はコロナ感染対策が厳しく実習や見学が出来ない場合が多かった。
- 求人票の記載と実際の勤務の違い。

- 内定承諾の回答期限前に、内定者が定員数に達したという理由で、内定承諾を回答していなかった学生が4月採用から8月採用に異動させられた。
- 栄養士免許の登録が3月中ではないと採用できないと言われ、対応に苦慮した。
- 音楽・マスコミ業界は、採用見込みがたたないとの理由から、学生の就職活動に大きな影響があった。
- 留学生の就職に対して日本人の保証人をつけなければならなかった企業があった。

#### 〔東京〕

- 短大生にとっては、一層進む採用選考スケジュールの早期化にはやや苦慮。
- 承諾書期限が年々短くなっている。
- 対面、オンライン共に選考がある場合、学生指導もそれぞれに行う必要があった。

#### 〔中部〕

- 未だに面接で就職とは関係のないプライバシーについて問う企業があり、個別に対応した。
- 内々定のあと、入社するかどうかを早急に決めるよう企業から迫られた。
- 毎年のことではあるが、採用試験の結果について「合否に関わらず連絡する」「1週間以内に連絡する」を守らない企業が少なくない。
- 申し合わせルールと比べ内定時期が早い企業があり、承諾を急がされる学生からの相談があった。
- 採用活動が早期化している点は、今後の指導面での課題になると感じている。
- 四大生・短大生の採用区分がなくなり、大学3年生と同時期での就活スタートとなっているため、短大1年生の就活開始が早まっている。
- 一昨年に引き続き内定承諾の提出については早期に求められることが多かった。
- 上記の状況下において、令和3年度後期(9月以降)の就職活動では、採用活動のWEB利用が進む中で、就職活動に出遅れた学生に対しては従来の支援に加えてWEB対応に係る支援を強化した。
- 学内推薦に向けて、会社説明会の準備をしていたが、急遽採用中止となってしまった。
- ある企業から内定を獲得することが例年より難しくなったため、今までの学生に対する面接指導等を強化した結果、学生の希望を叶えることができた事例あり。

#### 〔近畿〕

- 中小企業において、引き続き厳選採用が継続している。
- 内定後すぐに内定もしくは入社承諾書の提出を義務付けて拘束しようとする傾向が強まっている。
- 学生の地元の就職先の紹介先が少ない点。
- インターンシップ導入企業が増えた一方、短大生が参加できる機会が少ない。
- コロナ禍で対面の説明会を申し入れられお断りした。
- 説明会や面接等の就職活動が平日の日中が多く、授業欠席が増えている。

〔大阪〕

- 在学中に出産した子持ちの学生に対して、採用しないケースがほとんどと感じる。
- 一律的な健康診断書の提出を求めたり、無用な個人情報取得、青少年雇用情報の提供に難色を示したりした事例。また、残業代を払わないのが当たり前だという業界があった。

〔中国〕

- 一部オンライン対応が叶わず、県外への選考の機会が減った点。
- 早期内定に伴う書類提出（承諾書・誓約書）の早期化。
- コロナ禍で現地での面接を希望されるケースはある。

〔四国〕

- 新人研修をそれまでの自社（本社）から外部委託へ急に変更になり、学生が不安を募らせ、結果として辞退となった。

〔九州〕

- 業務時間外のオンライン選考実施。（学生の通信機器借用）
- 内定承諾書を出した後に、「内定辞退は絶対できません」と連絡があった。事前に学生へ説明すべきであると思う。
- 採用試験のレベルが高くなった。コロナワクチン接種義務への対応。（医療事務）
- 会社説明会、採用面接をオンラインで実施される企業様が増えたものと認識している。
- 企業側で感染対策にばらつきがある。
- 途中での採用活動中止という事例は当年度見られなかった。
- 採用時期が例年より遅い企業があり、志望していた学生の就活時期に間に合わず進路変更するケースがあった。

## 企業・団体の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(まとめ)

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

記述があった短期大学は70校であった。特に記述の多かったのは、求人数の減少で上げられた航空業・旅行業・ブライダル業・アパレル業・外食産業であった。多くの短期大学で将来の再就職を見据え関連会社や、同じ接客業への進路変更、指導を行っている。

また、希望の進路を見込めない学生が、大学や専門学校へ編入学するといった傾向も見受けられる。さらに留学生の正規求人が減りその対応を迫られた短期大学も散見された。

### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・ 89
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・ 12
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・ 125
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

### ⑧新型コロナウイルスの影響により、インターンシップの参加や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

記述があった短期大学は38校40件であった。このうち33件はインターンシップ(実習含む)に関するもので、中止、延期、期間の短縮、オンラインへの変更などであった。学校の対応策としてはインターンシップ先の変更、日数変更などの学内ルールを変更して対応や実習ができなかった場合履修取消扱いなどの短期大学があった。

また、採用関連では7件の記述があり、内訳は内定取り消し3件、採用試験途中で試験が中止2件、条件変更が2件であった。取り消しや試験の中止があった場合、引き続き就職支援を行っている。条件変更の2件についてはいずれも内定辞退に至り、その後就職支援を行っている。

### ⑨その他(コロナ禍での就職・採用活動における大きな変化)

記述があった短期大学は68校であった。このうち7割近くは就職活動のオンライン化・WEB使用についての記述であった。オンライン就活の良い面としては、時間的制約が少なくなり授業への負担軽減や交通費の負担の軽減、受験機会の拡大などをあげている短期大学が多かった。また、課題、対応については設備の整備や指導の不徹底などが挙げられている。

また、採用活動の早期化、採用数の減少、コロナ禍による行事等の無さからくる自己肯定感の低い学生が多くなった、等の意見が上がっている。

## 企業・団体の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(具体的記述内容一覧)

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例 とその対応について

〔北海道〕

- 道外での就職希望だったが現地に行けず、今年度の就職は諦めてしまった。
- 5月に実施した進路志望調査での一般企業志望者比率は23.7%であったが、実際の一般企業就職者は11.3%と大幅に減少している。資格・免許を活かした専門職就職者比率は増加している。
- 航空や観光業界を希望する学生は、思うような就活が行えなかったため、接客など考え方の近い業種やさらにその先の将来、転職を考えたときに活かせる職種を一緒に検討した。
- ここ数年、航空関連や宿泊・旅行関連の企業での採用数が激減しており、志望する業種を受けられない学生も見受けられる。

〔東北〕

- コロナ禍による進路変更等の事例はなかった。
- グランドスタッフ⇒空港保安警備、関東圏ホテル⇒仙台や地元宿泊・サービス業。
- 首都圏(空港関係)希望の学生が1社不合格後、希望の求人がなく最終的に卒業間際に地元企業に就職した。

〔関東〕

- デザイン系の業種から進路変更する際、面談を行い、その学生の特徴を活かせる業種の推薦や履歴書の添削等。
- 自身の興味や価値観に基づいて進路変更をした学生はいますが、対応に苦慮した事例はない。
- 主に飲食・アパレルからの業種・職種からの進路変更が多い。
- エアラインコース、ブライダルコースの学生はホテル業界に進む傾向にあった。進学をする学生も前年度に比べ増えた。
- 航空関連を志望していた学生は、変更を余儀なくされていた。その他のサービス業など、個別にフォローにあたった。
- エアラインの採用がなくなり、希望者に対して別の業種への就職を指導した。エアライン業界への就職を希望する者は採用が再開する時期を考え、4年制大学に編入し、就職時期を遅らせる方法をとった。進学にあたり、専攻教員が進学先と連絡を取りながら指導を行った。
- エアライン関係を希望した学生は採用をしていない企業が多かったため、同じサービス業の中で企業を探すサポートをした。
- 進学希望(大学編入、専門学校等)が増えた。
- 家計急変のため編入学希望から就職希望になった学生が複数発生した。個別相談をベースに支援し、メーカーなどの事務職として就職が決定した。

- 観光関連、飲食関連、食品販売などの分野で求人が減少により多職種への変更が生じている。
- 音楽・マスコミ業界やアパレル・観光業への就業を希望した学生の中には他業種への就業先を見つけた。

#### 〔東京〕

- 大学への編入学の希望が激増。編入できなかった学生が、急遽就職に進路を切り替える事例あり。履歴書の作成や求人紹介を実施。
- 学生の希望と、その業界や企業側の採用有無等にアンマッチがあった場合には、セカンドキャリアでの可能性も伝えるなど、長いキャリアで考えられるようアドバイスをし、まずはいずれかの仕事についてキャリアをスタートするよう支援した。
- 航空関係希望者は、同業界やグループ会社へ職種を変更し、再チャレンジできるような機会も念頭に置き就職活動を進めるよう指導した。
- コロナ感染症の影響による採用枠の現象等により希望する業界職種への就職を叶えられない学生が多く、まずは正社員としての就職を目指し、経済状況が回復し次第短大で身につけた専門性を活かした新たな就職活動をするよう指導し、社会への第一歩を後押しする支援に力を入れた。
- 外食を希望していたが、コロナ禍の下変更し、栄養士職についた学生がいた。又、社員食堂を希望する学生は更に枠が狭くなり就業先志望を変更した。
- 希望業界へ新卒採用がない状況下のもと、4年制大学への編入希望者が増加。

#### 〔中部〕

- 旅行業、アパレル業界の就職希望者は進路を変更し、大学に編入した者もいた。
- 宿泊サービスやブライダル、事務職は求人が少なく、そのような職種を目指していた学生は変更や視野を広げるような対応をせざるをえなくなった。
- 県外への就職を諦め、県内で就職した学生もいた。
- 卒業後留学を希望している学生もいたが、実現への道筋が立たず、結果として進路が決定しないまま卒業した事例があった。
- 実習が延期され、実習をこなす前に就職活動を始めることで保育の職種や業界が選べず、就職活動が遅くなってしまい、一般企業へ変更した。キャリアカウンセリングと求人紹介を担当教員および保護者と連携して情報共有して支援にあたった。
- 就職相談の回数を増やし、視野を広げるよう対応した。
- 新型コロナウイルスの影響による進路変更や業種・職種の変更事例はない。
- 編入学希望者が増加。受験失敗後に就職活動を始める学生もおり、11月頃から面談対応を増やした。
- 内定後、雇用形態の変更や住居変更を伴う勤務地指定があり、学生が辞退したケースが2例あった。
- 観光業界を希望する学生や留学生の就職が苦戦した。面談回数を増やし、他の業界、業種の求人も紹介する中で選択の幅を広げるように努めた。
- アパレル販売職求人の減少に伴う事務業務への変更指導。

- 昨年同様にエアライン・ホテル・観光系を志望する学生も多くいたが、求人そのものがほぼなくなり、他業種に変更する事となった。
- 目指していた企業からの求人がなかったため、専攻科等への進学を選択肢として指導した結果、本学専攻科進学に変更した学生が存在した。今年度も本学専攻科在学学生として就職指導を行っている。

#### 〔近畿〕

- キャリアアップを見越しての職種業界選択を勧めた。
- 接客販売などの求人がほとんどないため、製造職に転向した。
- コロナ禍を理由に就職活動をしない学生は減ったが、専門学校など就職以外の進路選択をする学生は増加した。
- ファッションビジネスコースの学生がアパレル販売職の就職を諦め、他の業界の販売職への変更を余儀なくされた。
- アパレル希望から他業種へ変更。
- ホテルや観光、ブライダルなどやや募集が減っている業界志望者に関しては別のサービス業を紹介し視野を広げるようフォロー。
- 令和2年度に比べ、接客、サービス業の募集が回復傾向にあった為、特に大きな問題なし。
- アパレル関係を希望していたが、エントリー先の採用試験が全て中止となった。最終的に進路を変更し、専門学校へ進学した。

#### 〔大阪〕

- 国内就職を希望する留学生が卒業までに職に就けず、在留資格変更手続きを支援した他、進学予定の学生には任期付の就労先を紹介した。
- 留学希望生が、コロナの影響で留学をとりやめ、国内の進学に変更した。
- 航空会社を志望していた学生が販売職に変更した。また、ホテルを志望していた学生が進路変更し、編入学をしたケースが複数あった。
- アパレル、観光業界からの求人が減少したことで進路変更をした学生は多かったが、他業種の接客や販売、サービス職で学びを活かす進路を選択した。
- アパレル販売職への就職で、希望ブランドの正社員採用がなかった学生は、アルバイトからの正社員登用を選んだ。
- 運輸関係、観光産業の募集減により幅広い業界を目指すよう促した。
- 専門学校への進学や、自校への再入学といった例があった。
- 進学者数の増加。
- 2回生の春頃までは企業への就職も考えていたが、実習なども経験し、資格を活かした専門職へと変更し、就職した。

〔中国〕

- アパレル、ブライダル関係、販売職の求人が減少する中、医療事務の資格取得を促して、事務職への就職が増えた。
- 進路変更や業種・職種変更は見られなかったが、県外就職希望から県内就職希望に切り替える学生がいた。

〔九州〕

- 留学生の正規雇用求人が減少し、特定活動での在留者が増加した。
- 経済的問題による、進学(編入)希望から就職希望への変更増。
- 観光業界希望者については、全て変更となった。人と接する仕事としてサービス業を選択する人もいた。第2希望を中心に斡旋した。(観光が第1希望)
- もともとの学生自身の希望ではなかったが、本人同意のもと、コロナ禍でも強い業界、企業への就職斡旋を行った。
- 新型コロナの影響で、関東・関西を希望する学生が少ない。保護者の反対も多いようである。
- 航空関係を志望している学生が後に再就職するためにホテル業やサービス業でサービスを学び実績を積むという傾向が多く見られた。
- 昨年もそうだったが、語学を中心に学んでいた学生が観光業、旅行業を希望していたが、その分野はまだ求人数が開封しておらず、変更を余儀なくされた。数回面談を重ね、希望分野を聞き取り、最終的には事務系の就職となった。
- 対面を主とした従来と変わらない就職活動ができていた。雇用に関わるトラブルも特になかった。
- 当年度においては、コロナを直接的な要因とする進路変更はなかった。
- 希望する企業に内定が頂けなかった学生も、諦めることなく、職種を変更せず、他社を受験する者が多く見受けられた。
- 旅行業や航空業において採用がないという学生は、広く接客業をみていた。
- 本学英語科の学生は航空業界やホテル・サービス業を希望する学生、また、県外就職希望の学生が多い。しかし、前年度のOGの就職活動の様子を見ており、冷静にコロナ禍での業界の現状や採用の見通しを見据え、結果、金融業等や他の業界へ就職した。
- 運輸系はほとんど採用が見送られたため、他の「人と接する仕事」を検討し他業種の「人と接する仕事」に就いた。

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・ 89
- b 最終面接まで全てオンライン・・ 12
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・ 125
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

(両方、一部オンライン実施、把握していない、初期選考のみオンライン等)

⑧新型コロナウイルスの影響により、インターンシップの参加や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

〔北海道〕

○内容：インターンシップの受入れ先に苦慮した。

〔東北〕

○内容：6月に内々定、10月内定式直前に行われたグループディスカッション後内々定取り消しとなった。(コロナの影響かは不明)

対応策：気持ちを切り替えすぐに就職活動再開するよう支援、別企業から内定を獲得した。

○内容：病院や老人ホーム等のインターンシップはほぼ断られ、可能だったのは病院1件、老人ホームは2件のみだった。

対応策：保育園、幼稚園に切り替えたケースが多い。

〔関東〕

○内容：インターンシップについては、コロナの感染状況で辞退が相次いだ。

対応策：時期の変更や中止を余儀なくされた。

○内容：県市町村などの公共機関でインターンシップが実施されなかった。

対応策：受け入れ可能な企業に切り替えたことで、インターンシップを希望する全員の実施ができた。

○内容：学校を通したインターンシップで、感染者が一番多い時期に、安心安全な実習をできないとのことで、企業に断られた。

対応策：他のインターンシップ先を学内で探した。

○内容：書店のインターンシップを毎年受け入れて頂いていたが、不特定多数のお客様の接客をするため、実施しないという事で断られた。

対応策：図書館司書の資格を活かした仕事ということだったので、他の書店や図書館のアルバイトを勧めた。

○内容：インターンシップ受け入れ許可後に蔓延防止期間という理由で中止となった。(市役所等)

対応策：学内で代替セミナーを受講させ単位を与えた。

○内容：まん延防止等重点措置などの発令によりインターンシップ受け入れが困難になった企業が複数あった。

対応策：受入れが可能な企業に変更したり、学生自ら企業探しを行ったりした。

〔東京〕

○内容：市区町村実施の公務員インターンシップの中止。

対応策：各市区町村と連携を取り、再開され次第、学生が参加できるように案内を実施する。

○内容：インターンシップの受入れ先企業の確保が困難で実施ができない。

対応策：学内活動やアルバイトなどを通じて学生時代に頑張った経験を創出するよう指導。

○内 容：インターンシップは、官公庁では実施されなかった。

対応策：他の行先に割り振った。

#### 〔中部〕

○内 容：インターンシップの参加を見送られた企業があった。

対応策：別の企業のインターンシップに参加した。

○内 容：講義としてインターンシップ科目を設定している。学生と企業のマッチングまで行ったが、コロナ禍のため中止となった。

対応策：就活サイトを経由して、オンライン実施のインターンシップに申込みよう促した。

○内 容：新型コロナウイルス感染症の影響で業績が悪化し、内定取消された。(取消した企業は、他県にあり、全てラインのみのやりとり)

対応策：地元のハローワークに相談し、その事業者があるハローワークから指導が入り、内定取消が取消されて、別職種で採用された。

○内 容①：12月末に人事担当者より住居変更を伴う勤務地配属先(当初は県内勤務予定)の知らせが入る。

対応策①：家族内で相談し、1月初旬に辞退した。新たに就職活動を行い3月初旬に進路決定した。

内 容②：10月末に、人事担当者よりグループ会社への配属・職種転換・給与変更の話となる。

対応策②：家族内で相談し、辞退し新たに就職活動を行う。ただし、10月・11月と車校も通いあわただしい日々となるが、何とか進路決定した。

○内 容：インターンシップ受入施設より、インターンシップ開催期日の変更を求められた。

対応策：日程変更を受け入れ、対応。

○内 容：インターンシップの対面での実施や予定された日数が実施できないというケースがあった。

対応策：オンラインでの実施や、日程を短縮しての実施となった。

○内 容：インターンシップ予定期間がまん延防止等重点措置期間内となり延期。

対応策：期間明けに再度実施を検討。

○内 容：緊急事態宣言発出により、インターンシップが直前で中止・途中で打ち切り、オンラインへの変更があった。

対応策：オンラインに変更できた事例もあるが、対応できない事例はそのまま中止となった。

○内 容：企業の採用活動が選考の途中で中止となった事例がある。

対応策：学生に対して、(選考途中となっていた企業の)同業他社等の情報を提供して、その企業への応募を指導した。

#### 〔近畿〕

○内 容：インターンシップ先で、陽性者が発生したことによる日程の変更。

対応策：開始前に発生したため、当該学生の日程を変更した。

○内 容：コロナ陽性、濃厚接触等のため実習を見送られるケースがあった。

対応策：他の実習先に振り返る、学内実習に切り替えるなど。

- 内 容：蔓延防止等重点措置や緊急事態宣言により、中止や延期となったインターンシップがあった。  
対応策：事業所によっては、オンラインになった場合があった。また、少数ではあるが、中止もあった。
- 内 容：当初はインターンシップ受入可能な状態から希望学生をマッチングし準備を進めていたが、感染拡大により急遽中止となった。  
対応策：直前であったためリカバリーができなかった。
- 内 容：インターンシップについて、まん延防止等重点措置期間にあたり、一部企業は中止となった。  
対応策：対象学生の履修を取り消して、不合格の扱いにならないよう処理。
- 内 容：2月に2週間インターンシップ参加の課題が出ていたが実質インターンシップを実施する企業が減っていることと期間も短期な企業が多く受け入れてもらうことが困難だった。(特に医療事務として病院関係)  
対応策：参加期間を短く調整するなどルールを緩和、学生の希望業種・職種に近い別の受け入れ可能な企業を案内。
- 内 容：主に医療事務関係の就労体験の実施を考えたが、医療現場では受け入れは難しいとの回答があった。

#### 〔大阪〕

- 内 容：春休み、インターンシップ提携先企業よりコロナの影響を受けて急きょ実習中止の連絡があった。  
対応策：提携先企業より、インターンシップ参加予定だった学生に対して短期のアルバイト募集提案があった。(実際にアルバイトを実施)
- 内 容：3月に内定取り消しがあった。  
対応策：再就職に向けてフォローした。

#### 〔中国〕

- 内 容：選考途中で、中止となった事例。
- 内 容①：インターンシップ中止。  
対応策①：中止せず期間変更で実施してもらえるよう直接交渉した。
- 内 容②：インターンシップ短縮。  
対応策②：実施を最優先としたため、期間短縮も可とした。

#### 〔九州〕

- 内 容：企業の対面型インターンシップ中止増。  
対応策：別の開催企業を探す、オンライン開催分への参加。
- 内 容：インターンシップの受け入れは、希望者の半分以上が断られた。  
対応策：断られた所へは、日帰り見学に変えて対応した。

- 内 容：インターンシップの受け入れ。  
対応策：企業の変更、日程の変更。
- 内 容：インターンシップや実習等でPCR 検査を要求する会社が多かった。  
対応策：要望に応じた。
- 内 容：単位化されているインターンシップで、「まん延防止等重点措置」が適応されたことにより、中止となった企業が多数あった。  
対応策：インターンシップ実施はかなわなかったが、科目の取り扱いは「失格」とせず、履修取り消しとした。
- 内 容：第一志望のインターンシップ先が参加前に中止となった。  
対応策：インターンシップ先を変更して参加した。

### ⑨その他（コロナ禍での就職・採用活動における大きな変化）

〔北海道〕

- オンライン説明会が増えた。
- 企業のオンライン説明会が増加したことで、学生一人あたりの参加企業件数が増加した。
- コロナ前と比較し対面機会が減少し、WEB での説明会等に切り替わる事が増えた。

〔東北〕

- オンライン面談と対面の組み合わせにより学生が授業に合わせて効率的な就職準備ができるようになった。
- 全国的に、急性期病院における採用予定数が年々減少している。
- 実習の遅れなどの影響を受け、就職活動が遅れ気味であった。
- 合同説明会・面接会等が予約制になったことで参加する学生がかなり減少した。
- 企業説明会においてオンライン又は対面といった方式や対応時間が選択できることから、より積極的な就職活動が出来るようになったと感じた。
- 地元求人減少と SNS での就職活動が増えて、就職活動したような状況になっているが、実際に活動すると全く出来ていない現実がある。
- 就職・採用活動のオンライン化が加速した。

〔関東〕

- 説明会や初期選考においてはオンラインが当たり前になった。（企業側も学生も慣れてきている様子）
- WEB 使用の説明会が増え、学内で受けることが多くなり、学生が授業を休むことが少なくなった。
- オンライン面接が増加したので、ネット環境等、オンライン面接ならではの留意事項を伝えた。
- 求人受付件数が減少したことに伴い、就職先の選択肢も少なくなった。
- 施設の多くがセミナーをオンラインで実施、見学の回数も減った。企業の面接は最終面接のみ対面だった。

- コロナ禍 2 年目ということで、企業も前年の例を参考にして修正・改善をしていたように思うので、特に問題なかった。
- ホテル・航空業界などのサービス業および小売業販売職（アパレル等）の求人減少。
- 説明会や面接のオンライン化が進み、学生の負担軽減へと繋がった。
- オンライン会社説明会・面接が増加した。

#### 〔東京〕

- 企業の採用活動の早期化が加速している。例年比 1 か月ほど前倒しのスケジュールで進める企業も目立っている。
- 学生の、例えば医療業過や IT 業界への見方。オンライン定着による、面接での選考ポイントの変化など。
- 昨年に引き続き、説明会や 1 次面接をオンラインで実施する企業が増えたと感じた。
- 学生生活の中で、行事の中止、遠隔授業の影響を受けて、「体験をする」機会が少なくなったことで、自己肯定感の低い学生が多くなったように感じた。
- 特段大きな変化はなかったが、選考の早期化や対面での選考が少しずつ増えてきている。
- オンラインでの説明会や選考が増え、授業等で時間に制限がある短大生にとっては時間的な余裕が増えたように思う。
- インターンシップ、採用活動ともにオンライン実施が急増した。
- コロナ禍の影響を受けてという点では、長く働ける会社を選ぶか、もしくはキャリアを積み転職できる場所かという視点で選ぶ学生が多くなった。
- 学生同士の情報交換が無いため、就職の情報が届きにくくなっており、就職活動に向けた準備がかなり遅くなった。

#### 〔中部〕

- 説明会・選考会のオンライン化。地方学生にとっては首都圏の企業へ出向く際の時間・交通費の負担が減った。
- インターンシップの WEB が増えており、体験できる機会が減った。
- 令和 2 年度の状況と同様の状況で推移した。
- 説明会やエントリーに WEB を利用して採用活動をするところが増えてきている。
- オンライン面接が増えたことにより、遠方への就職の幅が広がった。
- コロナ禍 2 年目は、就職活動において対面式ガイダンスも復活し、with コロナの流れになりつつあった。
- 採用活動がコロナ禍以前よりも早期化している感触がある。
- 企業・団体の WEB 対応体制が整えられ、WEB 対面を併用するハイブリッド型の活動が増加した。
- 学生も WEB に慣れてきていることもあり、就職・採用選考において WEB のメリットを生かし、定着してきている。
- オンラインでのインターンシップ、説明会、面接が増えました。学生同士の情報交換が少なくなったように感じる。

○最終面接のみが対面で実施されるケースが多かったため、オンライン環境に慣れている学生にとっては、対面での対策に苦慮するケースが多く見受けられた。

#### 〔近畿〕

- 説明会はオンライン・オンデマンドで定着しつつある。
- 昨年に引き続き企業の採用活動においてオンライン説明、オンライン面接を採用する企業が増えている認識。
- 実習が延期されたことにより、就職活動に取り組む時間が縮小された。
- コロナ禍による採用数の減少から募集を四大生にシフトさせ、短大生採用枠の相対的な減少が見受けられた。また、全体として採用選考基準の難化が進んだ。
- 就職希望の学生は、活動しても、なかなか内定を頂けなかった。
- コロナ禍以前からであればオンライン先行の大幅な増加。昨年と比較するとそれらが円滑化したが、大きな変化はなし。
- WEB 対応増加、学内でも WEB 就活支援体制をより強固なものにする。
- 施設等の見学の際、説明のみになるケースが多かった。
- 大きな変化はないが、一次選考に動画選考を導入している企業が増えた。
- アパレル関係・事務系・オフィス系の求人が激減したと感じる。

#### 〔大阪〕

- コロナ禍の採用活動において、会社説明会等ではオンラインと対面の併用が一般的になっている。
- オンライン選考が当たり前になり、オンライン選考に対応できるスキルと環境が必要になったこと。
- サービス・販売業の募集減。
- 働く場所、時間を軸にネームバリューの企業選択からワークライフバランスを考えた企業選びへ。

#### 〔中国〕

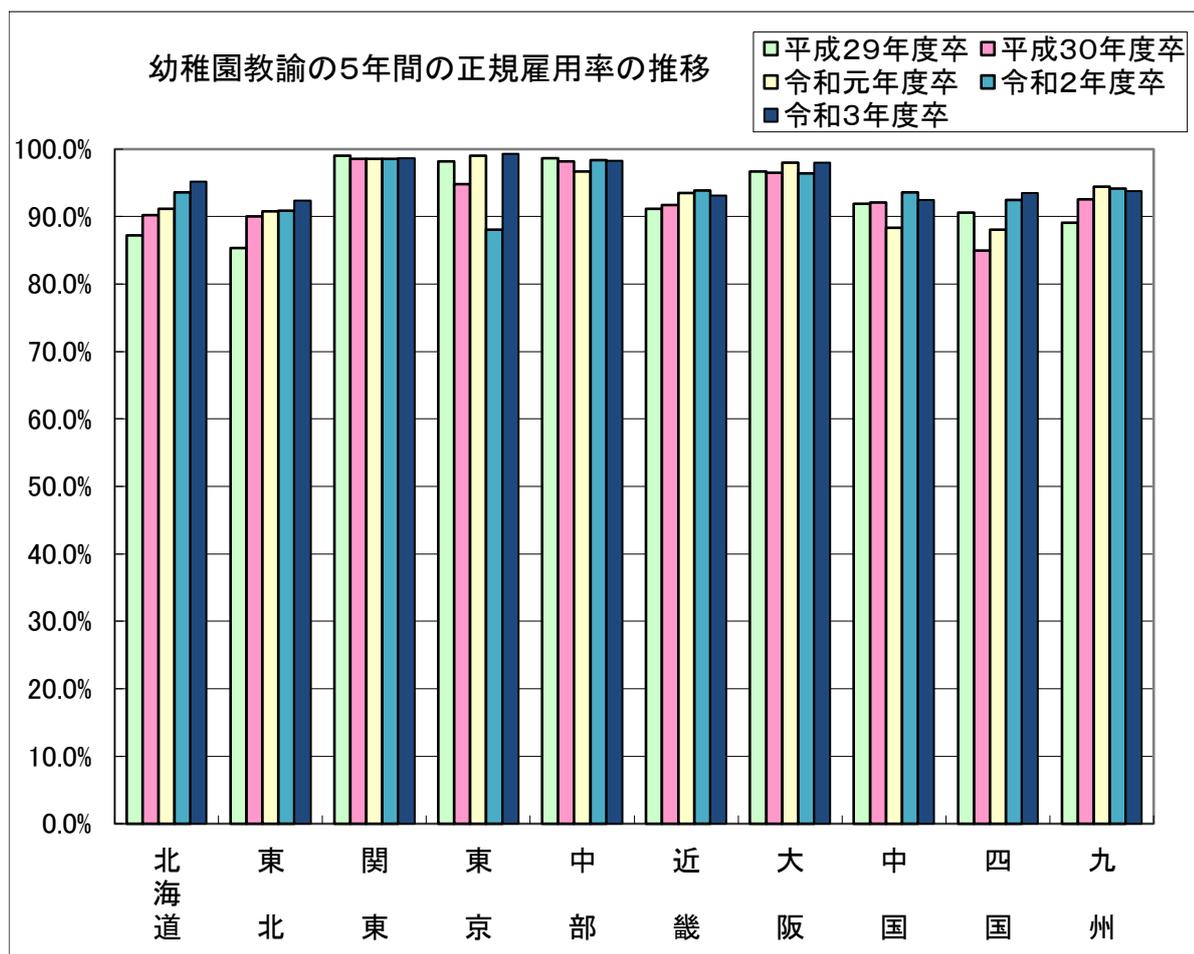
- インターンシップからの早期選考(10月～)の導入が増加している。
- 実習先の要望もしくは学校のルールによる自宅待機期間と採用試験が重なり、調整に苦慮した。
- オンライン説明会及びオンライン面接が増加した。
- オンライン面接、説明会が増える。またマイナビやリクナビなどの就活サイトを利用する企業が増えた。
- オンライン (WEB) による説明会・面接を実施する企業が増えたためか、スケジュール連絡が直前にあるなどの企業が増えた。
- ほとんど地元の就職希望先となった。都市部への就職希望が難しくなった様子が見られる。
- 説明会など確実にオンライン形式が増えてきた。
- 対面形式の説明会の中止等により、就職活動が中々進まない学生がいた。オンラインでの企業説明会への参加は敷居が高い面がある。

〔九州〕

- 求人件数の減少と、コロナ感染予防対策による学内説明会・相談会の実施ができない状況が続いている。
- オンラインでの説明会や面接が増えたため、学生も学校も慣れず、パソコンや場所の確保等に苦慮した。
- 企業の採用活動がオンラインへ移行したことにより、授業の合間を利用して「WEB 説明会等」へ参加することができる学生が増えた。
- オンライン（説明会、面接等）への対応に苦慮した
- ワンデーオンラインインターンシップが定着化した。
- WEB の浸透。
- 学生達は、オンラインツールについて特段の苦手感もなく素直に受け入れ活用するようになっていた。

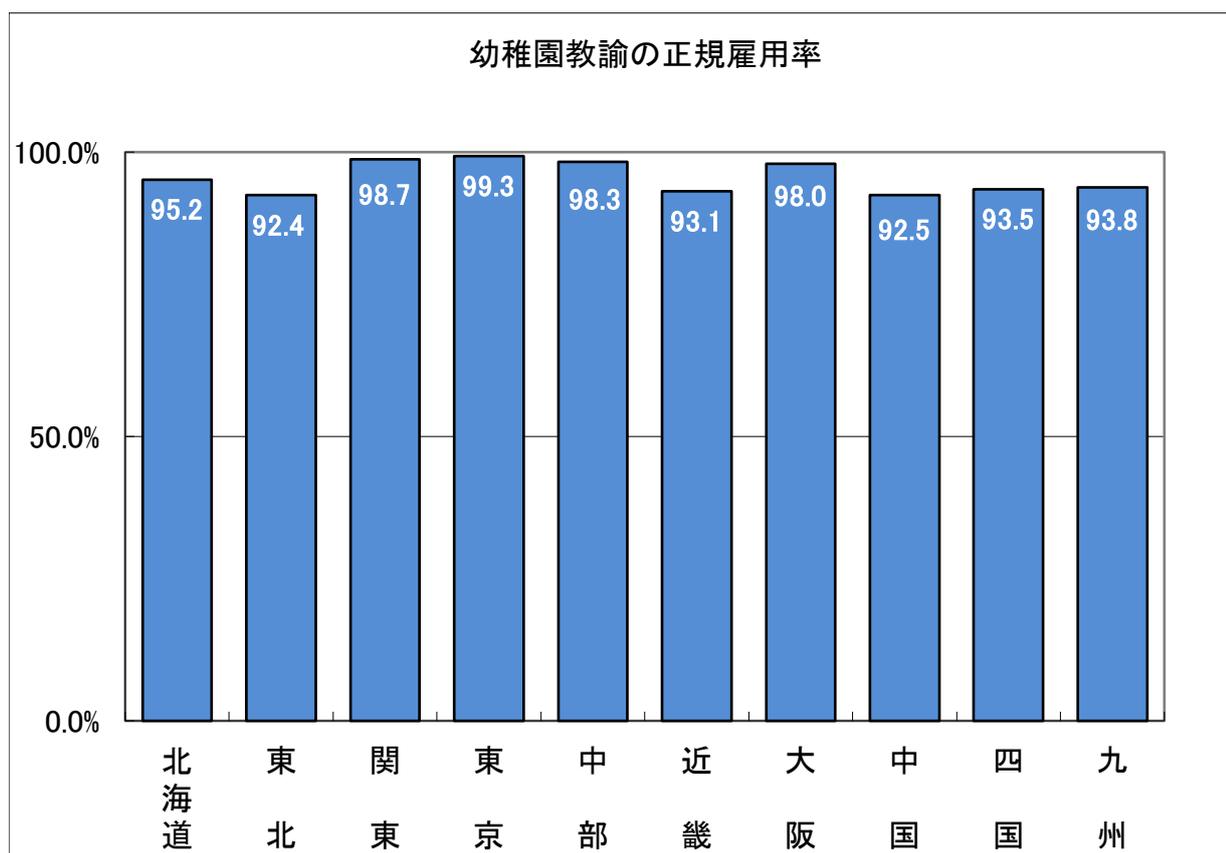
## 幼稚園教諭の正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成29年度卒	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒
北海道	87.2%	90.2%	91.2%	93.6%	95.2%
東北	85.3%	90.0%	90.8%	90.9%	92.4%
関東	99.0%	98.6%	98.6%	98.6%	98.7%
東京	98.2%	94.8%	99.0%	88.1%	99.3%
中部	98.7%	98.2%	96.7%	98.4%	98.3%
近畿	91.2%	91.7%	93.5%	93.9%	93.1%
大阪	96.7%	96.5%	98.0%	96.4%	98.0%
中国	91.9%	92.1%	88.3%	93.6%	92.5%
四国	90.6%	85.0%	88.1%	92.5%	93.5%
九州	89.1%	92.6%	94.4%	94.2%	93.8%
全国	94.4%	94.8%	95.3%	95.3%	96.1%



令和3年度幼稚園教諭の地域別雇用形態の状況（1）

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	5,409	5,200	209	96.1%
北海道	248	236	12	95.2%
東 北	450	416	34	92.4%
関 東	1,262	1,245	17	98.7%
東 京	293	291	2	99.3%
中 部	899	884	15	98.3%
近 畿	596	555	41	93.1%
大 阪	449	440	9	98.0%
中 国	255	236	19	92.5%
四 国	107	100	7	93.5%
九 州	850	797	53	93.8%

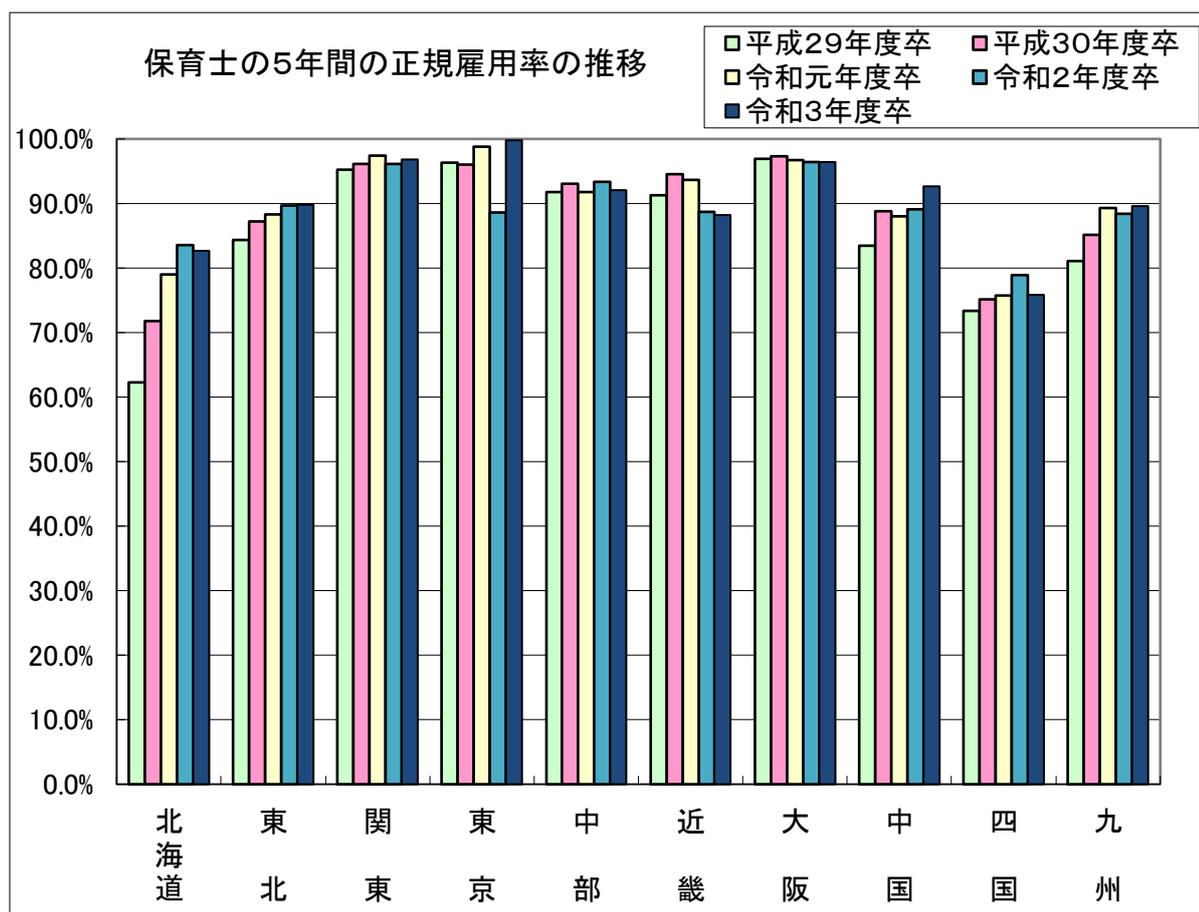


令和3年度幼稚園教諭の地域別雇用形態の状況（2）

	就職 決定者	公立			私立		
		公立計	正規 雇用者	非正規 雇用者	私立計	正規 雇用者	非正規 雇用者
全 国	5,409	214	140	74	5,195	5,060	135
	100.0%	<b>4.0%</b>	2.6%	1.4%	<b>96.0%</b>	93.5%	2.5%
		100.0%	65.4%	34.6%	100.0%	97.4%	2.6%
北海道	248	9	8	1	239	228	11
	100.0%	<b>3.6%</b>	3.2%	0.4%	<b>96.4%</b>	91.9%	4.4%
		100.0%	88.9%	11.1%	100.0%	95.4%	4.6%
東 北	450	13	12	1	437	404	33
	100.0%	<b>2.9%</b>	2.7%	0.2%	<b>97.1%</b>	89.8%	7.3%
		100.0%	92.3%	7.7%	100.0%	92.4%	7.6%
関 東	1,262	16	13	3	1,246	1,232	14
	100.0%	<b>1.3%</b>	1.0%	0.2%	<b>98.7%</b>	97.6%	1.1%
		100.0%	81.3%	18.8%	100.0%	98.9%	1.1%
東 京	293	2	2	0	291	289	2
	100.0%	<b>0.7%</b>	0.7%	0.0%	<b>99.3%</b>	98.6%	0.7%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	99.3%	0.7%
中 部	899	37	31	6	862	853	9
	100.0%	<b>4.1%</b>	3.4%	0.7%	<b>95.9%</b>	94.9%	1.0%
		100.0%	83.8%	16.2%	100.0%	99.0%	1.0%
近 畿	596	63	32	31	533	523	10
	100.0%	<b>10.6%</b>	5.4%	5.2%	<b>89.4%</b>	87.8%	1.7%
		100.0%	50.8%	49.2%	100.0%	98.1%	1.9%
大 阪	449	10	8	2	439	432	7
	100.0%	<b>2.2%</b>	1.8%	0.4%	<b>97.8%</b>	96.2%	1.6%
		100.0%	80.0%	20.0%	100.0%	98.4%	1.6%
中 国	255	5	1	4	250	235	15
	100.0%	<b>2.0%</b>	0.4%	1.6%	<b>98.0%</b>	92.2%	5.9%
		100.0%	20.0%	80.0%	100.0%	94.0%	6.0%
四 国	107	13	8	5	94	92	2
	100.0%	<b>12.1%</b>	7.5%	4.7%	<b>87.9%</b>	86.0%	1.9%
		100.0%	61.5%	38.5%	100.0%	97.9%	2.1%
九 州	850	46	25	21	804	772	32
	100.0%	<b>5.4%</b>	2.9%	2.5%	<b>94.6%</b>	90.8%	3.8%
		100.0%	54.3%	45.7%	100.0%	96.0%	4.0%

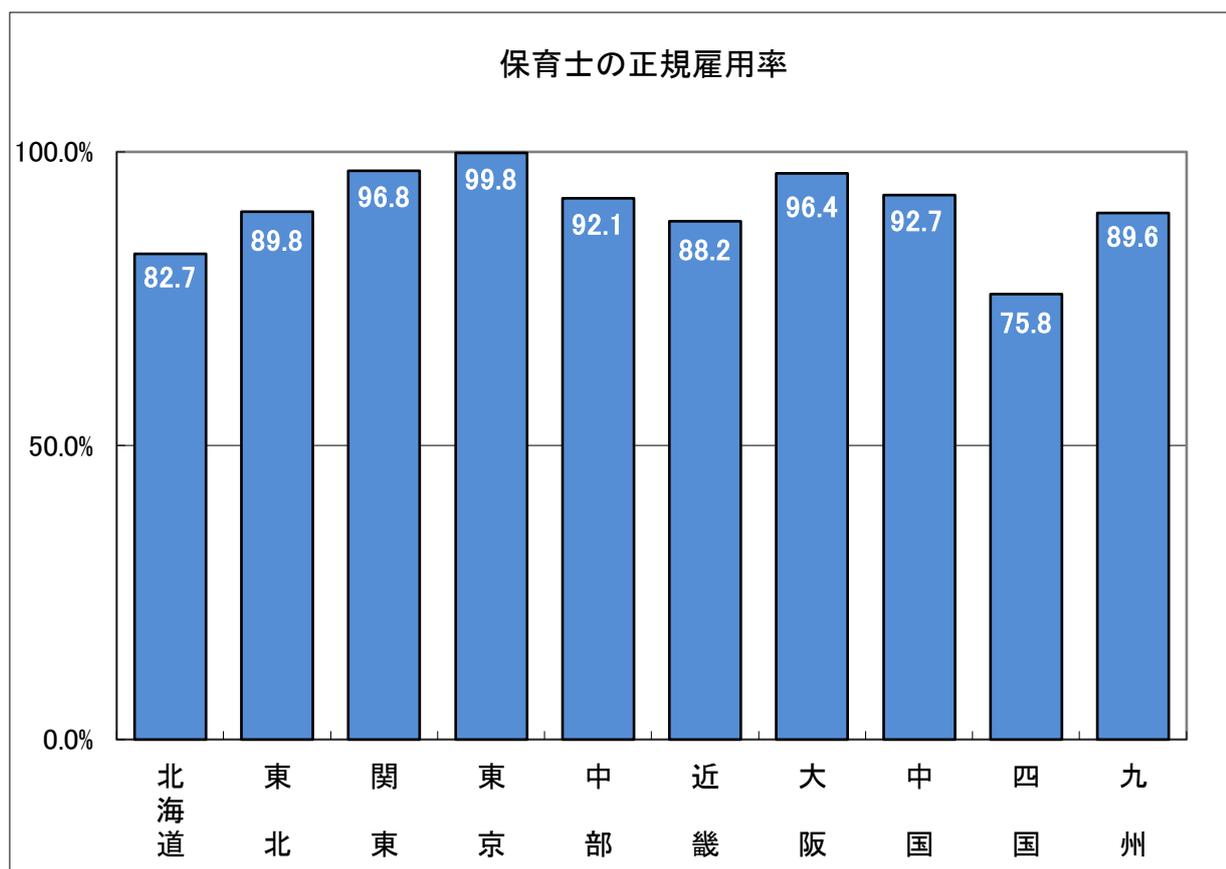
## 保育士の正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成29年度卒	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒
北海道	62.3%	71.8%	79.0%	83.6%	82.7%
東北	84.3%	87.2%	88.3%	89.7%	89.8%
関東	95.2%	96.1%	97.4%	96.1%	96.8%
東京	96.3%	96.0%	98.8%	88.6%	99.8%
中部	91.8%	93.1%	91.8%	93.4%	92.1%
近畿	91.3%	94.5%	93.7%	88.7%	88.2%
大阪	96.9%	97.3%	96.7%	96.4%	96.4%
中国	83.5%	88.8%	88.0%	89.1%	92.7%
四国	73.4%	75.1%	75.7%	78.9%	75.8%
九州	81.1%	85.1%	89.3%	88.4%	89.6%
全国	88.6%	90.9%	92.2%	91.3%	92.4%



令和3年度保育士の地域別雇用形態の状況（1）

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	8,939	8,256	683	92.4%
北海道	295	244	51	82.7%
東 北	696	625	71	89.8%
関 東	2,155	2,087	68	96.8%
東 京	514	513	1	99.8%
中 部	1,235	1,138	97	92.1%
近 畿	849	749	100	88.2%
大 阪	783	755	28	96.4%
中 国	659	611	48	92.7%
四 国	265	201	64	75.8%
九 州	1,488	1,333	155	89.6%



令和3年度保育士の地域別雇用形態の状況（2）

	就職 決定者	公立			私立		
		公立計	正規 雇用者	非正規 雇用者	私立計	正規 雇用者	非正規 雇用者
全 国	8,939	948	733	215	7,991	7,523	468
	100.0%	10.6%	8.2%	2.4%	89.4%	84.2%	5.2%
		100.0%	77.3%	22.7%	100.0%	94.1%	5.9%
北海道	295	28	28	0	267	216	51
	100.0%	9.5%	9.5%	0.0%	90.5%	73.2%	17.3%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	80.9%	19.1%
東 北	696	58	48	10	638	577	61
	100.0%	8.3%	6.9%	1.4%	91.7%	82.9%	8.8%
		100.0%	82.8%	17.2%	100.0%	90.4%	9.6%
関 東	2,155	175	142	33	1,980	1,945	35
	100.0%	8.1%	6.6%	1.5%	91.9%	90.3%	1.6%
		100.0%	81.1%	18.9%	100.0%	98.2%	1.8%
東 京	514	49	49	0	465	464	1
	100.0%	9.5%	9.5%	0.0%	90.5%	90.3%	0.2%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	99.8%	0.2%
中 部	1,235	378	303	75	857	835	22
	100.0%	30.6%	24.5%	6.1%	69.4%	67.6%	1.8%
		100.0%	80.2%	19.8%	100.0%	97.4%	2.6%
近 畿	849	78	53	25	771	696	75
	100.0%	9.2%	6.2%	2.9%	90.8%	82.0%	8.8%
		100.0%	67.9%	32.1%	100.0%	90.3%	9.7%
大 阪	783	33	24	9	750	731	19
	100.0%	4.2%	3.1%	1.1%	95.8%	93.4%	2.4%
		100.0%	72.7%	27.3%	100.0%	97.5%	2.5%
中 国	659	46	25	21	613	586	27
	100.0%	7.0%	3.8%	3.2%	93.0%	88.9%	4.1%
		100.0%	54.3%	45.7%	100.0%	95.6%	4.4%
四 国	265	47	26	21	218	175	43
	100.0%	17.7%	9.8%	7.9%	82.3%	66.0%	16.2%
		100.0%	55.3%	44.7%	100.0%	80.3%	19.7%
九 州	1,488	56	35	21	1,432	1,298	134
	100.0%	3.8%	2.4%	1.4%	96.2%	87.2%	9.0%
		100.0%	62.5%	37.5%	100.0%	90.6%	9.4%

## 幼稚園教諭・保育士の令和3年度の就職・採用活動について 前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(まとめ)

### ①学生の就労意識、意欲について

昨年に比べ就労意識・意欲が高まったとの回答が最も多く、その理由としては、対面授業が増え学生同士の情報交換が増えたこと。また、前年の状況を踏まえ教員・職員が的確な指導を行ったことがあげられていた。就職活動についても、事前に情報収集を行い、園見学をしてから決める学生が増えたとの回答も見受けられた。

一方、コロナ禍で実習時期の遅れやオンライン見学会等、不安や焦りを抱える学生が多く、意識の低下につながったとの回答や意識の高い学生と低い学生がはっきりと別れ、二極化傾向との回答も数件見られた。

就職先については、実習の遅れにより就職先の選択に十分な時間が取れず、実習先に就職を決めた学生が増えたとの回答や実習等の経験不足から進学・編入を選択した学生が増えたとの回答も上がっていた。

### ②求人件数・求人内容について

求人数に関しては、地域や各養成校によってもばらつきがあり、増えた又は微増との回答と減った又は微減との回答がほぼ同数であった。求人数が増えたとの回答の中で、県外からの求人や首都圏からの企業型保育園の求人が増えたとの回答例が多く見られた。

求人数が減った又は微減との回答の中では、20%~25%減ったとの回答も複数あり、減った内容としては保育園からの求人数が減ったとの回答が多く、エリアとしては地元からの求人数が減り、首都圏や都市部からの求人が増えている状況が窺えた。募集の時期としては、全国的に早期化傾向で、随時募集している園も増えている。

### ③雇用形態、処遇(含・給与状況)等について

雇用形態については、正規雇用が増えた、または微増と回答した養成校が非常に多く、減ったとの回答は1校に留まった。給与については、処遇改善手当の影響でほとんどの養成校が増えたと回答している。全国的に保育園の影響で幼稚園の給与も改善に向かっている。

また、改善が進む中、首都圏と地方など、地域格差がより広がっている傾向が見られる。その他の改善された内容としては、初年度は担任を外す幼稚園が増えた、残業が減ったなど幼稚園教諭・保育士の職場定着に向けて時代に合った改善も少しずつ進みだしている。

#### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

改善された内容としては、採用試験のスケジュールに関して、コロナによる実習の遅れなど学生の事情を考慮し柔軟に対応してくれたとの回答が最も多く、求人情報や採用試験のオンライン化など、感染拡大を考慮した対応も全国的に進んでいる。

また、採用試験の内容も簡略化され、1次面接のみの園やピアノ等の実技試験を行わない園も増えている。幼保連携型こども園において、幼稚園教諭・保育士のどちらか一方だけの資格でも採用してもらえたとの回答も寄せられていた。新卒対応として、入職前研修について期間の短縮化や新卒を一人担任に付けないなど学生の状況を考慮した対応も進んでいる。

昨今顕著化している人手不足を解消するため、住宅手当を考慮した市町村が増えた、借り上げアパートを持っている法人や会社が増えたなど、広範囲から人材を集めようとする動きが全国的に広まっている。

#### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

園見学時や実習中の勧誘、その場での採用試験実施など、採用側の強引な対応例が多く報告されていた。学生に直接複数回電話をする例や中には園長が自宅まで勧誘に来た例も報告されていた。採用活動については、早期化の傾向が強く、園、施設からの電話対応に追われたとの事例もいくつか報告されていた。

また、履歴書を提出した後で採用がないと言われた例や採用試験当日に退職予定者が残ることになり断られた例、内定辞退者が出たため一旦不合格とした学生を再度雇用した例など、採用側の一方的都合による理不尽な対応もまだまだ続いている。

## 幼稚園教諭・保育士の令和3年度の就職・採用活動について 前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(具体的記述内容一覧)

### ①学生の就労意識、意欲について

〔北海道〕

- 卒業判定が出るまで就活できない学生が複数いた。
- 学外実習の遅れから就職に不安を抱く学生もいたが、実習終了直後から意欲的に就職活動を行い、短期間で多くの学生が内定を得ている。就職先選択の時間が十分確保出来ていない影響か、実習先への就職者が保育科全体の46%で前年より5ポイント上昇した。
- 全員が正職員を希望した。
- 向上した。

〔東北〕

- 専門職としての就労意識は高い。就職者全員、資格、免許を活かした就職で、県内就職者が増えた。
- 例年より全体的に学生の就労意識が低く、就職活動の遅れが見られた。
- 地元就職希望者が多く、就労意識は高い。
- 就職意欲が強かった。
- 保育士・幼稚園教諭免許を両方、あるいはどちらか一方を取得しない(取得できない)学生が複数名いた。
- 合格に時間と手間が掛かる公務員試験などの難関試験にチャレンジする学生が皆無に近く、安易に就職を考えている。
- 高まっている。
- 社会的に弱い立場の子ども達のために施設等への就職を希望する学生が増えた。
- 首都圏への就職希望者が前年度減少したが、少し持ち直す。(保護者の反対、コロナ感染症への不安等のため)
- 福利厚生をかなり重視して園を選ぶ傾向がみられた。

〔関東〕

- 各種実習に参加できていないこと、説明会等がオンラインで行われることで実際の現場を見る機会に乏しかったことにより不安を抱える学生がほとんどであったが、就職したいという意識は高かった。就職率は100%を達成できた。
- コロナ禍の就活にも少しずつ慣れ、それに合わせた対応ができるようになってきた。
- オンラインによる授業が多くなったため、学生個々の情報をつかむことが困難な状況にあり、結果的に就労意識・意欲等が低かったように思える。
- コロナウイルス感染症の拡大で実習が延期になったことにより、就職活動の開始が遅れた。
- 就職を見据えて実習に臨む学生が多くいたように感じられた。

- 前年度はコロナ禍の影響もあり、他都県への就職希望者は殆どいなかった。しかし、令和 3 年度では他県への就職も希望する学生が増え、少しずつ従来の傾向に戻りつつあると感じられる。
- 前年は、就活時期が遅れたが、3 年度は以前同様だった。
- 例年通り、意欲的に活動し就職率 100%を達成した。
- 確実な就職先を選択し、皆安全志向だった。
- 幼稚園希望の学生の減少、保育士希望は増加。
- 自分で動けることが多かったので意欲は高くなったと感じる。
- 「就職を希望しない」学生が増加傾向にあり、就労意欲が低下しているようである。当該年度の学生においては、コロナウイルスの影響により、実習が学内演習に変更、見学・説明会等のオンライン化、ボランティアなどの保育・教育現場での機会が少なく、授業もオンデマンド、オンラインで行われ、学生によってはあるが、保育者として働くことへの不安を抱えてしまう学生が多かったように感じる。
- 昨年より意識が高く、事前にリストアップし、園見学をして慎重に決めた例が多く見られた。
- 就労意欲は依然高く、さらに資格を活かした職に就く者の割合が増えた。
- 就職希望者がやや減少した。その分、4 年制への編入希望者が増えた。
- コロナの影響を受けることを事前に把握しているため、就活に対する意識は、さらに高まっているように感じる。
- ここ数年は年々幼稚園より保育園の割合が増大する傾向であったが、当該年度は前年度に比べ幼稚園が増大し、保育園が減少した。

#### 〔東京〕

- 早めに活動を開始する学生と、遅い学生の差があった。コロナ禍だからと言って、例年よりも活動の時期が早まった感はなかった。
- 社会にできるためのキャリア支援を段階的に行っていたため、就労意識、意欲に対する変化はなかったが、就活に焦りを感じている学生がいた。
- 登校の機会が少なく、就職ガイダンスの開催が困難な状況の中、自ら積極的、意欲的に取り組む学生の姿が見られた。
- コロナ禍の影響もあり、実習等の現場経験が不足していると感じている学生もいたため、就職ではなく進学を選択する学生が前年度より増加した。
- 安定を求めて就職への意欲が強くなった印象がある。就活を始める時期も、早まっているように感じる。

#### 〔中部〕

- ボランティアや見学などが十分にできず、結果的に実習園を就職先に選ぶ学生も多かった。
- 保育士になりたいという目的意識が高い。
- 意欲の高い学生と低い学生がはっきり分かれた。
- 複数の園を見学し、受験先を決定する学生が前年度と比較すると多くなり、より自分自身にあった園を受験しようとする意欲を感じられた。
- 低下気味。

- 非正規、準正社員、主担任を持たないなど、負担の少ない雇用形態を選ぶ学生が増えた。
- 保育職への就労意欲は高い。
- 令和2年度に引き続き、就職意識は高くなっている。
- 合同説明会に参加する学生が増えたことから、就労意識・意欲ともに高くなっていると感じた。資格を活かした就職希望者が大多数いた。
- コロナ禍で例年にない動きをしていたので不安を感じていたようだ。
- 授業等、対面での活動が増えたことにより、学生同士の意見交換の機会が増えた。その結果、就職活動が活発になった。
- コロナ禍で、全ての実習に行けていない中での就職活動に不安があったようである。

#### 〔近畿〕

- 実習の延期があり、実習がある学科については学生の就活が遅かった。
- 早めに決めたいという学生が多い傾向。
- やや低下し、就職活動等の動きが遅かった。
- 実習時期が変更になり、就職活動の開始時期が遅れた。

#### 〔大阪〕

- 就労意識はあったが、意欲が伴わなかった。就職活動を開始するまでに時間がかかる学生が多く見られた。
- 就職を希望する、ほぼ全ての学生が進路を決めて卒業することができた。
- 放課後デイサービスへの就職希望者が増加。(就業時間が10:00～18:00と短い・少人数で新規事業者が多いのでお局様が少ないイメージ・ダイレクトな支援ができる・給料よい)
- 学校に来て友達と情報を交換し合う機会が少なくなってしまったので、就職活動に意欲を持つ時期がバラバラで、遅くなってしまう学生も見られた。
- 四大生の就職活動はやや早くなっている。

#### 〔中国〕

- 学内演習の代替措置となった実習もあった中、施設実習は実施できたためか、施設希望の学生が急増した。
- 自分の専門を活かした職に就く傾向が強い。
- 意欲というより、意識づけに長期休みにインターンシップを計画したが、コロナ禍で時期を遅らせることになったり、意欲とのバランスがうまく取れなかったりした。まん延防止措置が終わったときには授業が始まり、その兼ね合いが難しく、複数の検討が難しかった。
- 幼稚園希望(認定こども園含む)の学生が前年度と比較して増加した。また、就職活動に対する意欲も前年度より増加傾向にあり、早期に多くの学生が就職を決める結果となった。

#### 〔四国〕

- 二極化が進み、少数ではあるが、就労イメージがつかみにくい学生も見受けられた。

- コロナ禍でのみ学生生活を過ごし、実習の延期や中止などを経験したこともあり、早めに自ら行動しなければいけないという意識は強かった。
- コロナ禍で県外へ見学に行けない状況もあったが、ホームページや WEB 説明会に参加するなど状況に応じて意欲的に活動できた。

#### 〔九州〕

- 幼稚園や保育園に就職することに自信がなく、小規模園を選択する学生が増加。
- 幼稚園・保育士を希望する学生は就労意欲が高い傾向がある。
- コロナ禍でこども達とふれあう機会が少なかったため、卒業後の能力に不安を感じる学生がいた。
- 実習前の行動制限により思うように就活（園見学）ができなかったことにより、全体的にのんびりしてしまい、活動が後ろ倒しとなった。
- 前年度は県内志向が例年になく高く、ほぼ県内（地元）就職となったが、当年度においてはやや都市圏を目指す学生も改めて見えてきた。With コロナという在り方を学生なりに受け止めた結果かと考えられる。
- 近年の学生は、園の保育・教育内容、勤務体制（仕事量等）、職場環境だけではなく、更に、給与等の雇用条件面も重視して就職先を選択する傾向がある。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で施設見学を躊躇したり、学外実習が学内実習に変更になった学生がいたりしたため、就職に不安があると相談する学生もいた。

## ②求人件数・求人内容について

#### 〔北海道〕

- 保育士の求人が増加。認定こども園、幼稚園、保育士とも保育教諭（両方の資格をもつ者）を条件とする求人が増加。
- 例年並み。
- 求人件数は微減。
- 総求人数に大きな変化はないが、幼稚園求人数は令和 2 年度の 70%程度にとどまった。
- 多くの園が、募集期間を延長されていた。

#### 〔東北〕

- 県外からの求人件数が多いが、地元就職の求人内容も良くなっている。
- 小規模保育を希望する学生が多かった。
- 令和 2 年から約 100 件求人数の減少。幼稚園・認定こども園等の求人数に変化はないが、保育園（所）からの求人が減少した。
- ほぼ横ばい。
- 求人件数はほぼ横ばい（930 件前後）、求人内容も変わりなし。
- 県内求人 132 件（149 件）、県外求人 295 件（298 件）と、いずれも昨年を下回った。
- 求人数は変化なし。今まで少なかった西日本の求人が微増した。

- 地元の求人減少が見られた。
- 保育士求人は、前年比約 10%増加となった。

〔関東〕

- 県内外共に減少した。
- 首都圏から企業（保育士採用）の求人件数が増加した。
- 求人件数は増加した。
- 昨年に比べ求人数が 1.25 倍増。
- 求人受付件数は約 182 件増加した。特に保育園からの求人票件数については社会福祉法人及び株式会社ともに大きな増加が見られた。
- 学生数を上回る求人があった。内容に変化はなかった。
- 保育所・幼稚園・施設とも求人件数が増加した。
- 保育園の求人は増加、幼稚園・こども園は昨年並み。求人内容は特に変化なし。
- 求人件数は、ほぼ前年並み。幼稚園、認定こども園の求人は昨年より早まった。
- 求人件数が若干増加。
- 求人件数も横ばいだった。
- 待機児童問題が落ち着き、さらにテレワークなど働き方の変化が園児募集に影響したこともあり、県内求人は微減した。
- 前年度と比較して幼稚園は増加、保育園は減少した。
- 求人件数はわずかに減少。
- コロナ禍前と比べてもほぼ横ばいで推移している。
- 求人件数はやや減少した。（前年度比 95%）

〔東京都〕

- 求人件数は減少したが、現場での声は、保育士や教員不足の施設、園が多いように感じた。
- 求人件数は前年から増加した。（21 卒：921 件→22 卒：1,193 件）
- 引き続き求人件数は多い状況。
- 求人件数が増加した。

〔中部〕

- 約 2 割求人件数が減少した。
- 求人件数は横ばい。
- 保育者募集において、県内でも地域による差が大きい。
- 引き続き求人数は多数で、大変ありがたい状況。学生がいらないためお断りしなければならないのが心苦しい。
- 少子化や定年後の再雇用制度導入により、新卒者の求人が減少傾向の企業がある。
- 受付期間・試験日を特に設けず、「随時応募可能」とする園が多くなった。
- やや減少した。

- 地元からの求人に変化はないが、遠方からの求人は増加した。
- 件数の変化は特になし。求人先として放課後デイサービス事業が増えた。
- 求人件数：前年比▲25%、求人内容：特記なし。

#### 〔近畿〕

- 幼稚園、こども園、保育園の求人が若干減少した。
- 逆に、例年より求人件数が増えた。（特に関東圏の求人が増加）
- 県外からの求人が増加傾向だった。
- 求人件数は増加傾向。試験日を事前に設定しない「随時試験」が非常に多くなった。試験内容が減る一方である。
- 地域によって求人数や求人時期の差が大きくなった。
- 地方の保育関係が微増。（地域によっては、保育者の確保が難しいとの申し出があった）
- 少し減少した。

#### 〔大阪〕

- 求人数がやや減少した。
- 求人件数は例年通り、内容は給与内訳、休日日数、就労時間等がはっきりと明記されている求人が増えた。
- 今まで、縁のなかった地域の法人からも求人が届くようになった。
- 保育士の処遇改善に伴い給与面、家賃補助額が向上してきた。また、求人件数は例年通りであった。
- 就職フェアなどの取り組みが積極的に実施されたことや求人件数は多くなった。

#### 〔中国〕

- 前年度比で大学求人件数は減少。
- 求人件数は、前年度と同様に減少したが、1割以下の減少にとどまった。
- 件数は微減である。
- 減少傾向にある。マイナビやリクナビなどの就活サイトから申し込む形式が増えたことも少なからず影響がある。
- 求人件数は、25%程度減少した。
- やや減少した。

#### 〔四国〕

- 概ね前年度と同数である。
- 求人件数はほとんど変化なし。内容については随時募集が増え、試験日が設定されていないことが多くなった。

#### 〔九州〕

- 紙ベースでの求人の減少。

- 微減となった。
- 昨年度に比べて求人件数は変わらないが、例年に比べに減少。
- 人手不足の傾向が続いており、幼稚園・保育園は引き続き求人件数も増えている。
- 求人件数、求人人数は新型コロナ前の状況に戻りつつあると思う。特に、幼稚園教諭については早期化している印象を受ける。
- 前年に比べて増加した。
- 求人件数は、前年度と比較すると20%減少している。
- 昨年同様求人は多数あった。
- 県内の保育者のニーズは例年と変化なく高い状況であった。
- こども園の新設が落ち着いたためか昨年度より県内求人がわずかに減少した。
- 昨年に比べると減少した。
- 求人件数に関して、県内外の企業主導型保育園の求人が増えた。
- 前年度よりは減少したが、元々多く求人をもっていたので影響はなかった。

### ③雇用形態、処遇(含・給与状況)等について

〔北海道〕

- 保育士の非正規雇用が減少した。
- 就職者の正規雇用比率は94%で、前年より8.4ポイント上昇している。
- 例年並み。
- 正規職員募集が増え、処遇が改善されている。
- 徐々に処遇改善はされつつあるが、正規職員採用件数の増加は微量。

〔東北〕

- 徐々に上向いてきているが、まだ県内では給与が低い事業所が散見される。
- 年々給与改善がみられる。以前は正規雇用以外、臨時職員採用が多かったが、将来的に正規職員への登用に繋がる準職員採用が増加している。
- 基本給の上昇が目立った。
- 処遇改善による給与の改善は園によりやり方が違う。

〔関東〕

- 給与額に関し、数件の園において金額の見直しが行われ、給与額が引き上げられたケースがあった。
- 前年度より若干給与状況がアップした。
- 変化は無く正規雇用が殆どだった。
- 住居借上制度での地域による金額の差異が出てきた。幼稚園の給与が保育士の給与に見劣りしないよう増加する園が増えた。

- 人手不足の影響で幼稚園の処遇（特に給与）は改善された園が多かった。幼稚園、保育園とも年間休日を明記する園が増えた。
- 給与条件は年々改善されている。

#### 〔東京〕

- 借り上げ制度を利用しての独り暮らしを希望する学生は、例年の通りだった。
- 基本給が上昇する傾向が見られた。
- 処遇改善手当、住宅手当等の支給は引き続き行われている。
- 例年に比べ、契約・臨採等の非正規雇用での就職が増加した。

#### 〔中部〕

- 給与が改善されている園が多い。
- 地元（地方）を希望している学生がほとんどであるので、都会と比べると高くはないが、安定している。
- 今年度に限らず、首都圏と地方との格差が大きい。
- 初任では、担任は外す、という幼稚園が増えている。
- 短大の2年生課程と3年生課程で、取得資格は同じであるが、年齢が異なることで、金額の差をつける園が若干増えた。
- 処遇改善費の明記が増えた。就職応援資金を市の予算に計上している市町がある。
- 処遇改善による対応。
- 給与（基本給・手当等）及び研修時（時給・交通費等）の待遇改善がみられる。職員の働き方についても改善がみられる園が増加している。
- 給与が処遇改善手当により増額した園があった。
- 処遇改善加算の反映。

#### 〔近畿〕

- 近畿圏内においても、給与、その他手当など処遇の格差が見受けられる。
- 給与が若干UPした。
- 非正規での求人は減少している。給与は処遇改善が進み、数年前より2～3万円高くなってきている。
- 各地域の補助金制度が例年充実し条件が良くなってきている。

#### 〔大阪〕

- ほぼ正規での採用。処遇については基本給ではなく手当での給与をあげる事業所が多くみられた。
- 処遇は改善傾向にあると考える。
- 市町村の補助金がおりにて処遇が改善された。
- 正採用求人が多く、保育士処遇改善手当が反映されて給与水準が上がり待遇面の改善を実感した。
- 処遇改善手当の支給や福利厚生面などについて改善されている。
- 全体にひきあがっている。（19万5000円＋手当が、学生が事業所を選ぶ際の給料相場）

- 処遇改善が進み、残業を減らしたり、給与を上げたりするなど、働きやすさを工夫している園が多く見られた。

#### 〔中国〕

- エッセンシャルワーカーの賃上げを背景に給与を上げている保育園が多く見受けられた。
- 家賃補助や奨学金返済補助が充実してきている。
- 非正規雇用の求人は減少した。
- ここ5年ほどの傾向でもあるが、処遇（給与状況）に関しては改善傾向にある。

#### 〔九州〕

- 給与待遇等の改善傾向。
- 正規雇用での採用が増加した。
- 幼稚園・保育園の処遇は良くなっていると感じる。
- 手当・処遇に関し再検討される園が少し増えているように感じる。
- 待遇については改善されていると感じた。賃金も上がってきている。
- 有期雇用が減った。
- 保育者獲得のため、基本給を高める施設が見られた。
- 令和4年3月まで就職活動をしたが正規就職ができなかった者は、非常勤・パートでの就職となった。
- 基本給の上昇が見受けられた。
- 近年、業界の働き方の見直しで、待遇が上向き、雇用形態が改善されている園が増えている中、従前と変わらず、待遇面が良くない園もある。
- 住宅補助が増額。（地方）

### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

#### 〔北海道〕

- 学外実習の遅れなどを考慮して、採用スケジュールを柔軟に対応していた。

#### 〔東北〕

- 若手を育てようとする雇用側の意識が良くなっている。
- 全国的に基本給の増加、首都圏での福利厚生の上昇が顕著である。

#### 〔関東〕

- 自己申告書、青年雇用シートが求人票に添付されるようになった。
- 説明会等が対面で行われるようになった。
- オンライン園見学や SNS の充実等コロナ禍における就職活動でも、園の様子が分かるような発信をしている園が増えたように感じられた。
- 園独自の説明会等でオンラインと対面を併用して実施する園もあり、選択肢の範囲が広がった。

- 借り上げのアパートを持っている法人や会社が増え、住居にかかるお金をできるだけ抑えようとする様子が見られた。
- 入職前研修の期間が短くなった。(7日～10日) また、新卒の負担を減らすため1人担任に付けるケースは減った。
- 保育、幼稚園教諭の採用意欲も活発だった。
- 青少年雇用情報の提供が増えた。
- コロナ禍ではあったが園見学を受け入れてくれる園が多かった。
- 園見学の受け入れが改善された。

#### 〔東京〕

- 園見学が前年より、自由に参加できるようになったと感じた。
- 学生側の授業、実習日程の変更があったが、学生の状況に合わせて見学、試験等を配慮してくれた。
- 求人情報のオンライン化をはじめ、説明会や採用試験も含めたコロナ禍ならではの配慮を徹底される園や施設が増えた。

#### 〔中部〕

- 民間の園において、公立との併願に関して寛容になった。
- 複数園を運営する法人で、事前にいくつかの園を見学させていただける等、学生の転勤に対する不安に寄り添う対応が感じられた。
- 学内でのガイダンスへの積極的な協力。
- コロナ禍の影響を勘案し、概ねの園が採用試験の日程を柔軟に対応する方針を持ってくれた。
- 市外からの就労者への住宅手当を考慮してくれる市町村、園が複数ある。
- 合同説明会において、オンラインと対面の同時開催を実施していた。
- 採用後のミスマッチ防止のため、採用試験前に園見学を促す園が増えた。
- 採用試験日の設定が学生の事情を考慮した設定になってきている。
- 内定後の研修で、長期間行くことが少なくなった。

#### 〔近畿〕

- 住宅手当の補助について、積極的に実施されている市町村があり、一人暮らしの学生については、園を選ぶ際の目安にしている。
- 給与面は微増と考える。
- 幼保連携型認定こども園であっても、一つの免許（もしくは資格）だけでも積極的に採用してもらえた。(それだけ保育者不足?)
- 補助金制度による処遇改善と働き方改革によるサービス残業の緩和。
- 選考プロセスが簡略化した施設が多くなってきた。
- 年度後半でも応募のチャンスがもらえた。
- 募集期間や試験日を柔軟に対応してくれた。

#### 〔大阪〕

- 幼稚園免許しかない学生を採用する条件として、保育士資格取得のため週に2時間、学校へ通わせてもらえることになった。
- 面接の簡素・簡易化。(面接回数が減り、一次で合否をだすところも増え、ピアノなどの実技面接無くなっている)
- 学生が園の情報を集めやすくなるよう、様々な説明会や就職フェアを催したり、集団ではなく、学生個別の対応にも応じたりしてくれた。
- 実技試験、特にピアノの負担を軽減されているように思う。

#### 〔中国〕

- コロナ禍において日程調整等を柔軟に対応されたこと。(実習等との重複対応など)
- 採用試験を対面とオンラインの選択制を取り入れている園が多かった(特に関東)。
- オンライン面接は助かっている。

#### 〔四国〕

- 令和2年度に引き続き、コロナ禍で見学の受け入れも厳しい状況にある中、その時の状況によってできることの提案をしていただけた。

#### 〔九州〕

- 残業なしの園がありプライベートを充実させると共に元気に子供に向き合っていて欲しいという園があった。
- オンラインを取り入れる事業所が増えた。
- 試験日設定が複数となったり、学生の都合に合わせた個別設定になったりした。
- 専門職団体が学外でブース形式の説明会の回数を増やすなど、学生が求職活動をしやすい場を設けていただいた。

### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

#### 〔北海道〕

- 実習や見学に行った学生への勧誘はしないよう促していたが、実際は学生に直接電話をかけていて、学校から止めてもらう様に対応した。

#### 〔東北〕

- 人間関係(コミュニケーション力が弱い学生)が構築できない学生の対応。
- 学生紹介への期待が大きく、学科にも支援センターにも頻繁に依頼がある。
- 卒業生が就職した東京の幼稚園が暴力をふるう等のパワハラを働いたうえ、園長の許可なく退職したとして社宅補助の金銭の返還を卒業生に請求した。余りに横暴な対応のため、労働基準監督署への申告と弁護士を紹介するなどの対応をした。

- 現在お断りしている学内での説明会を希望してくる。
- 内定後の問い合わせ対応など、回答に時間がかかる園が多いと感じた。(主に首都圏の園)
- 人気のない園や評判の悪い園は敬遠される。

#### 〔関東〕

- 実習中の勧誘、採用活動の早期化。
- WEB環境が整っていない園との情報交換が難しい時があった。
- 入職前研修が増え、コロナ感染や濃厚接触による学内での欠席や就職辞退等の心配が有り苦慮した。期間・バイト代・交通費支給の有無等も気がかり。
- 求人票と実際の勤務の違い。
- 学校宛てに園から「求人を出しているが、問い合わせ等反応が全くない」との苦情に近い連絡が時々ある。
- 採用試験に行ったが、退職予定者が残ることになったため募集しないと言われた。(幼稚園)
- 学生が就職することを条件に教育実習を受入れると言った園があった。
- 園や施設が求人募集の案内を行うため、本学に訪問したくアポイントの連絡を頂いたが、感染拡大予防のため控えて頂いた。
- 株式会社立の保育園だと求人票で基本給や賞与の月数を明示しないところが多かった。
- 青少年雇用情報シート・自己申告書の提出が前年度に比べて増加傾向にあるが、提出を求めると掲示しなくて良いと断るケースもあった。

#### 〔東京〕

- 一部の保育所では人材紹介会社を利用しているところもあり、ミスマッチの原因になり苦慮した。園見学の予約をして行くと同日に面接を勧める保育所もあり、学生が断れず受けてきたという報告があった。
- コロナの影響により、求人票を直接持ってくる園が減り、園や施設を知る機会がなくなったことで、園と学生のマッチングに苦慮した。
- 上述のオンライン化のご依頼をお送りした際、システム上の都合や園のご意向により紙媒体の送付やご来訪を希望された園があった。

#### 〔中部〕

- 実習先の園長先生が学生の自宅に訪問し、就職を依頼するケースがあった。
- 採用試験時期の早い市町村や法人があり、短大生にとっては受験体制が整わない状況がある。
- 実習生が採用試験に応募いただけない実情を吐露され、理由を求められた。
- 8月末からの緊急事態宣言より、園見学や選考が延期となる。
- 県内は申し合わせ事項により、9月1日からの採用試験を実施しているが、それ以前に学生に声をかけて採用すると言われる園があった。

〔近畿〕

- 苦慮ではないが、簡単な面接だけで採用を決めたり、園見学時に内定を匂わせたりする園は印象が良くない。

〔大阪〕

- 園と学生のミスマッチがあり園側にご迷惑をおかけすることになった。
- 内定辞退者が出たので、一旦不合格とした学生を再度雇用した幼稚園があった。
- 家族（保護者）面談があり、3者のスケジュールがなかなか合わず苦労した。
- 学校への直接求人ではなく、就職サイトなどから情報を学生が探してエントリーするなど、学校を通さない採用活動をするところがあった。
- 入職前に家族構成、連絡先の提出を求められた。

〔中国〕

- コロナ禍で現地での面接を希望されるケースはある。

〔四国〕

- 就職試験をほとんど行わずに、見学だけで内定を出す園があり、学生の中に何もしなくても就職できる園があると広まり対応に苦慮した。

〔九州〕

- 既卒者募集の問合せの増加。
- コロナ禍で実習の期間がずれ込んだため、園の設定する日程の就職試験を受験できなかった。
- 実習期間中に採用試験の話があり、学生が戸惑った。
- 一度不合格になった第一希望園から後で追加合格の話があり、事後処理に苦慮した。
- 求人票に基づいて履歴書を提出した後、採用がないと人づてに知らされた。試用期間の賃金が最低賃金を下回っていた。求人票を送付したが就職希望者がいないかと問い合わせがあったが、実際には求人票が届いていなかった。
- 求人が一時期に集中することで受験者が分散し、応募者が出ない求人も出てくる。さらに、認定こども園への移行や系列園の増設等、求人数も年々増えてきている中、本学は小規模で、地方からの出身学生は少なく、さらに、地方への就職希望者も多くないため、へき地や離島の多い本県は、地域の期待に応えられない現状があり、各園へその旨丁寧にご説明している。

## 幼稚園教諭・保育士の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(まとめ)

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

- ・ 県外就職希望や首都圏を希望する学生が、コロナの影響で、実習時期や面接試験等が未定の状況となり、県外への就職活動に支障が出るので、地元や県内就職に切り替える学生が増えた。
- ・ 実習などの延期により現場経験が不足していると感じ、進学へ変更する学生もいた。

### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・174
  - b 最終面接まで全てオンライン・・・1
  - c 最終面接のみ対面で実施・・・12
  - d その他・・・・・・・・・・・・・5
- ・ 9割以上の短大での就職の面接形態として、最終面接まで全て対面で行う園が多い。

### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

- ・ コロナの影響度合いで実習受け入れを判断する行政独自のルールもあり、実習の受け入れ中止により他園での受け入れ交渉を行う。結果、受け入れ不可のケースについては学内演習に振り替えることとなる。
- ・ 実習開始1週間前から、自宅待機と健康観察をしたうえで実施した。
- ・ 感染者発生のため、実習・試験などの日程変更が多く、対応に苦慮した。

### ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

- ・ 実習先によっては、ワクチン接種やPCR検査の有無が実習受け入れの条件の園が多い傾向である。その中で学生に接種意思が無い場合、PCR検査の受検奨励や実習先の変更にて対応した。

### ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

- ・ 県外就職希望者はほとんどが最終面接までオンラインで実施した。
- ・ 見学への受験や公務員試験は、実習前後2週間自宅待機期間が設けられたため、学生の対応負荷が大きい。
- ・ 学生間のコミュニケーションが取れないまま、自宅学習期間が長くなってしまい、周りの就職活動の様子がかめず不安を抱える学生が多い。又、自宅での就職活動ということもあり、仲介業者を利用しての受験が増加した。

⑩幼稚園、保育所、認定こども園、その他の施設等への就職・採用活動における大きな変化について

- ・人材サービスを利用する（意図せず利用していた）学生が目立つようになる。
- ・小規模保育園を希望する学生が年々増えている。
- ・給与体系を見直し、基本給等を高める施設が見受けられる。
- ・児童発達支援施設や放課後デイサービスへの就業者が増えている。

## 幼稚園教諭・保育士の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(具体的記述内容一覧)

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例 とその対応について

〔北海道〕

○例年より4年制大への進学が増えた。

〔東北〕

○実習途中で休園措置があり、実習が延長となった事例はあったが就職先を変更するなどの事例はない。

○保育職から農業への変更希望者2名に対しインターンシップとアルバイトを通じ進路選択を確認するよう助言し、進路決定を支援した。

○首都圏を希望する学生が保護者の反対等で市内への就職に変更した事例があった。

○県外就職希望の学生が、関東方面ではなく、東北に就職する傾向が見られた。

〔関東〕

○児童養護施設希望の学生が内定を頂いていたが、ワクチン接種が内定条件となり、結果、内定を辞退し、他の施設で内定を頂いた。

○小規模の園では求人募集枠が少ないことや行っていないことがあったため、他の園に進路変更をした事例があった。

○大学生の事例になってしまうが、海外での就職を希望するも求人募集が無く日本で就職や転職を視野に入れる学生もいた。

○施設実習は、PCR検査を実施。

○当初、海外日本人学校幼稚部などを希望していたが、留学準備に変更した学生がおり、支援を継続している。

○実習時に十分に園の中で活動できなかったからか、実習園に内定しても、3月の就職前研修で内定辞退する事例が目立った。

○県外就職希望であった学生が県内就職に変更した。

○実習等の機会の減少により、希望していた職種について体験を深められず、不安を解消することが出来ないケースがあった。

〔東京〕

○実習等の延期により現場経験が不足していると感じ、自信を持たずに進学に変更した学生がいた。学生本人の意思を尊重し、進学決定を支援した。

○進学希望者(4年制大学編入)が例年より増加した。

〔中部〕

- 県外への就職を諦め、県内で就職した学生もいた。
- 首都圏での就職を諦めた学生に、首都圏での就職について希望理由等を丁寧にヒアリングし、自分に合った働き方ができる園を探すためのサポートを行なった。
- 県外就職を希望していた学生が、県内就職に変更した。
- 実習が延期され、後期に実習が重なることで就職活動の期間が少なくなってしまった。補講もあってフットワークが効かなくなってしまった。学生には焦ることなく志願先を探し、提出書類を取り揃える支援にあたった。
- 一般企業を希望する学生が減少した。

〔大阪〕

- 幼稚園、保育園業界からの求人ニーズは高く、新型コロナウイルスによる影響は感じなかった。
- 進学者数の増加。
- 感染を防ぐため、新卒での就職はせず家事手伝いに進路変更。

〔中国〕

- 都市部（首都圏）への就職希望を地元に変更した学生が1名いた。

〔四国〕

- 施設見学を自粛する方向で臨んだため、近隣や既知の園・施設を選ぶ傾向が強まった。

〔九州〕

- 対面を主とした従来と変わらない就職活動ができていた。雇用にまつわるトラブルも特になかった。
- 特に施設はコロナ対策が厳しく、園見学を受け付けてもらえなかった為、進路を変更して保育園に就職したケースがあった。
- 当年度においては、コロナを直接的な要因とする進路変更はなかった。
- 免許・資格取得が思うようにいかず、内定辞退を余儀なくされた例があった。
- 県外就職希望の学生もいたが、コロナ禍で幼稚園・保育・施設実習時期が未定の状況で、県外へ就職活動に出向き辛い状況があり、最終的に県内の園へ就職を決めた学生もいた。

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・ 174
- b 最終面接まで全てオンライン・・・ 1
- c 最終面接のみ対面で実施・・・ 12
- d その他・・・・・・・・・・・・ 5

（地元は対面、他県の園はオンライン、県外はオンライン、一部オンライン実施等）

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

〔北海道〕

- 内 容：実習が延期、または中止となった事業所があった。  
対応策：延期や代替施設で実施した。
- 内 容：一部地方の園より、実習開始一週間前から、実習園地元地域での自宅待機要請があった。  
対応策：学生は実習園地元の実家等で、一週間の自宅待機と健康観察をしたうえで実習を行った。
- 内 容：実習施設での感染拡大により、受入辞退または実習期間の延長が発生。  
対応策：期間の延期が可能な施設には別期間で実施、不可の場合が学内での演習に変更。
- 内 容：園でのコロナ感染者発生のため試験日の変更があった。

〔東北〕

- 内 容：園内でコロナ感染者が出たため実習が中止となった。  
対応策：学内実習で対応した。別の実習先で調整し継続した。
- 内 容：実習の延期。（実習園内で感染者が出たことによる）  
対応策：感染状況を確認しながら日程を調整。卒業式後に実習し、どうにか無事に終了。実習最終日の翌日に、関東の勤務地に移動した事例も。
- 内 容：施設実習において、実習開始目前に断られたことがあった。  
対応策：新たに実習先を探し、受け入れていただいた。
- 内 容：8月の施設実習が始まる期間にまん延防止が発令されたため、施設側から断られたケースと時期をずらした実習があった。  
対応策：断られたケースは、他の施設に依頼し実習を行った。就職に関しての影響はない。
- 内 容：実習園地域で感染者が増加し、実習直前に断られた。  
対応策：他地域の園にお願いしたり、実習時期を変更したりして行った。
- 内 容：8月に蔓延防止重点措置があり、その期間に実習予定だった学生は延期となった。  
対応策：日程を変更して秋に行った。

〔関東〕

- 内 容：児童養護施設希望の学生が内定を頂いていたが、内定後にワクチン接種が内定条件となった。  
対応策：内定していた施設は自ら辞退し、他の施設で内定を頂いた。
- 内 容：実習において、緊急事態宣言中であること、県独自のステージがステージⅢであることを理由に受け入れを断られた。  
対応策：緊急事態宣言解除後、県独自のステージがステージⅡ以下になってから改めて受け入れを交渉した。その結果、受け入れ不可のケースについては学内演習に振り替えることとなった。

- 内 容：実習延期や実習受入のお断り。  
対応策：延期については園の要望に沿うように日程変更。日程変更が難しい場合は別の実習先を探すなどして対応。
- 内 容①：実習については、コロナの感染状況で延期になることがあった。  
対応策①：時期をずらして実施するなどした。  
内 容②：採用試験の断り、内定取り消し、採用条件変更、いずれもなし。
- 内 容①：実習園でコロナ陽性者が発生し、延期・再延期の末、中止。  
対応策①：他園へ依頼し実施。  
内 容②：実習園周辺地域でのコロナ感染拡大のため、延期・中止。  
対応策②：他園へ依頼し実施。
- 内 容：令和 2 年度は実習中止があったが、令和 3 年度について延期はあったが受入れ中止はなかった。
- 内 容：園でコロナの感染者がでたため実習を断られた。  
対応策：別の園に実習を依頼し、実施した。
- 内 容：実習先でコロナ罹患者が生じ、実習の受入を断られたケースが多々生じた。  
対応策：指定実習期間外に別の実習先を確保し、実習を予定していた該当学生を再配属した。
- 内 容：保育実習の当初や途中で園児や職員の感染または濃厚接触により実習中止となった。  
対応策：延期、別日程、または他園に変更など対応は様々となり混乱した。
- 内 容：保育所実習で断られるケースが多く、特に公立保育園に断られることが多かった。  
対応策：時期をずらして行った。
- 内 容：インターンシップ先でコロナ感染者が出たため、予定期間でのインターンシップができないことがあった。  
対応策：時期をずらして行った。
- 内 容：公立保育所での実習において、緊急事態宣言、まん延防止策等により、自治体決定により実習受入を断られてしまったため、多くの学生の実習が変更になってしまった。  
対応策：受入いただける民間保育所への変更、実習時期の変更で対応した。
- 内 容①：実習を断られた園が複数あった。  
対応策①：別の実習先を探したり、学内実習で対応したりした。  
内 容②：実習中の園で罹患者が出たため途中で中断した。  
対応策②：後日、学内実習で対応。
- 内 容①：実習の中止・延期・受け入れ不可（実習初日、家を出る 10 分前に中止になる、1 ヶ月ずれる等）。  
対応策①：学内での演習。  
内 容②：休園や学生本人の体調不良などにより、園見学の時期が大幅に遅れたり、採用試験の時期を過ぎたりした。  
対応策②：別の園を紹介した。  
内 容③：実習で事前に PCR 検査を求められた。  
対応策③：検査料を学校で負担し、学生に検査を受けてもらった。

- 内 容：保育園でクラスターが出て演習を断られた。  
対応策：他の保育園で行った。
- 内 容：コロナ禍のため実習の受け入れを断る実習先が多数だった。  
対応策：代替で学内実習に切り替えた。
- 内 容：まん延防止等重点措置などの発令により実習の受け入れが困難になった保育所、施設が多数あった。  
対応策：実習を延期したり、学内実習に切り替えたりした。
- 内 容：園内で関係者が陽性になったり、濃厚接触者になったりして休園したため、急遽実習を延期した。  
対応策：実習期間を延長したり、場合によっては別の園で残りの実習を実施したりした。
- 内 容：8月、9月の実習先確保に苦慮した。ただし、採用試験、内定、採用条件等への影響した事例はない。

#### 〔東京〕

- 内 容：実習先施設内でクラスターが発生したことや、まん延防止等重点措置が延長された。  
対応策：保育実習（保育所）Ⅰは次年度に実習時期を改めて設定。保育実習（施設）Ⅰは年度内に学内にて代替集中講義を12コマ実施。
- 内 容：実習先で陽性者が出たため実習が断られたり、延期になったりしたことがあった。  
対応策：実習時期を変えたり、実習園を変更したりするなどの対応を行った。
- 内 容：実習に関して、保育所、施設の職員、利用者の感染、自治体の方針により受け入れ不可となる状況が多数あった。  
対応策：代替の保育所、施設を確保し、個別に時期を変更する等学校側も柔軟に対応し全員現場実習を実施した。
- 内 容：県内の市では公立園は蔓延防止発令期間中、市全体で受入中止。他の市なども緊急事態宣言期間中はお断り。  
対応策：県内の市で夏に再配当、私立園に別途依頼等で対応。

#### 〔中部〕

- 内 容：実習時期の変更要請があった。  
対応策：時期を変更した。
- 内 容：実習生の受け入れを断られた。（まん延防止措置の発令、施設内での感染拡大、外部からの入園禁止ルール等）  
対応策：受入可能な別の実習園を探し、承諾を得た。
- 内 容：資格取得のための学外実習において、実習生の受け入れが困難になった園があり、一部の実習をできない学生がいた。  
対応策：大学の代替授業で対応した。

- 内 容：施設内でのコロナ感染者の状況により、実習予定期間の変更を余儀なくされ、卒業年次の学生は日程調整に苦慮した。  
対応策：別の期間を設定していただくことや他の施設に依頼するなどに対応した。
- 内 容：保育実習の中止。  
対応策：期間短縮、期間変更。
- 内 容：児童養護施設や障がい者支援施設において、感染防止で外部との接触を避けるため、実習の受け入れが中止となった。  
対応策：他の実習先を探して振り替えた。場所によっては感染レベルが落ち着くのを待って実習期間を延期していただいた。
- 内 容：保育の資格を活かし、児童養護施設に採用が決まったと思っていたが、配属先が同じ法人内の成人障がい者施設となった。  
対応策：選考過程で他施設への配属の可能性があるのかの確認をさせる必要があった。
- 内 容：園内でコロナ感染者が出たために実習を断られるケースが若干あった。  
対応策：日程の変更をお願いした。日程調整が無理な場合には、実習先を変更した。
- 内 容：実習の受け入れ中止。  
対応策：次年度への繰り越し。
- 内 容：実習やボランティアを断られるケースがあった。  
対応策：実習については、学内プログラムで対応した。
- 内 容：予定していた保育所実習を断られた。  
対応策：学内演習に切り替えた。

〔近畿〕

- 内 容：園内での陽性者の発生により、実習時期の延期が起きた。  
対応策：実習生へは学科より指導し、実習生本人と園と大学で実習時期を再調整し、資格・免許に影響はなかった。
- 内 容：保育実習の受入辞退。  
対応策：代替での対応。
- 内 容①：入所者(子ども)全員のワクチン接種が完了しないと、実習受入が出来ない。(施設実習)  
対応策①：別の実習先を探した。  
内 容②：自治体や法人の方針により実習を受け入れてもらえない。  
対応策②：別の実習先を探した。  
内 容③：緊急事態宣言発令中は受け入れられず解除後の受け入れとなった→期間変更。  
対応策③：実習先から申し出のあった期間での実習となった。
- 内 容：実習園から受け入れ中止の申し出。  
対応策：大学内の関連施設で急遽実習生を受け入れてもらった。
- 内 容：実習に関しては日程延期が一部発生。  
対応策：実習支援室・学科でカリキュラム調整。

- 内 容：緊急事態宣言や園・施設内での感染者発生により、実習を断られた。  
対応策：日程変更や園・施設の変更によって対応した。
- 内 容：実習を断られた。  
対応策：実習時期や実習先の変更で対応した。
- 内 容：保育実習の実習日数の短縮で必要条件（10日以上、80時間以上）に満たなかった場合について。  
対応策：大学内での演習、または附属保育園での実習で補填対応し充足させた。
- 内 容：コロナの関係で実習の時期が大きく変動した。  
対応策：短大側でスケジュールを調整して対応。
- 内 容：実習先の園内において、陽性が確認された。  
対応策：実習先と調整を行い、実習延期という形で振替日を設けて対応した。

#### 〔大阪〕

- 内 容：地元に戻っての実習で、2週間前からの帰省やPCR検査を求められる。  
対応策：学生本人の希望を確認し、場合によっては地元での実習を取りやめ、実習先を変更した。
- 内 容：実習園側の保育者や子どもで感染者や濃厚積極者が出た場合。  
対応策：実習の一時中断、実習時期の延期などで対応してもらった。
- 内 容：実習先（施設）利用者が陽性者が出たため、受入不可となった。  
対応策：他実習先へ急遽依頼をかけ、対応した。

#### 〔四国〕

- 内 容：蔓延防止重点措置の発令で期間中の実習が延期になった実習園があった。  
対応策：解除後に改めて実習を行った。

#### 〔九州〕

- 内 容：実習中に施設内でコロナ陽性者が出て中断となった。  
対応策：別の期間に変更してくれた。
- 内 容：学科内で陽性者が出て、実習が延期になったこと。  
対応策：実習時期の変更。
- 内 容：実習園でコロナ陽性者が出た事により直前の実習取り消しや、実習期間の延期となったケースがいくつかあった。  
対応策：新たな実習先を見つけたり、実習期間を変更したりして対応した。
- 内 容：実習の中止。  
対応策：別施設に実習を依頼し実施。
- 内 容：実習を断られた例多数。  
対応策：日程再調整など。
- 内 容：新型コロナウイルス罹患患者があり、実習を断られた。  
対応策：学内実習を実施した。

- 内 容：感染者が増加傾向にあると、内定後にも関わらず、断ってくるケースがあった。  
対応策：他の施設に交渉し、受験させた。
- 内 容：幼稚園実習、保育・施設実習のスケジュールが、コロナの感染状況によって当初の計画通り進まず、実習受け入れをしていただけない施設もあった。  
対応策：スケジュールをずらして、なんとか卒業までに、幼稚園教諭免許と保育士資格取得のための全ての実習を行うことができた。
- 内 容：地域の感染状況の変化を受けて、実習受け入れをやめたいという障がい児・者の施設があった。  
対応策：新たに引き受けてくれる実習先を探して、実習を行った。

## ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

〔北海道〕

- 実習先によってはワクチン接種が参加の条件になっている事業所もあった。
- 施設によっては、ワクチン接種または事前の PCR 検査での陰性証明が必須というところもあった。
- ワクチン接種をしてから実習の受入可能となった。
- ワクチン 2 回接種必須となっていた実習先があった。

〔東北〕

- 実習において、ワクチン接種をしていない学生には PCR 検査を受けてほしいと要望があった。
- ワクチンではないが、濃厚接触者になり正職員の試験が受けられなかったので、年明けに臨時職員の試験を受け採用となった学生が一人いた。
- 実習開始前までに PCR や抗体検査を求められるケースが増えてきており、短大負担で検査を実施した。
- 実習において、PCR 検査や抗原検査を実習受け入れの要件とされたケースがあった。

〔関東〕

- 実習については、実習前直近 1 週間の健康状態の確認書提出を要請されるケースが多くあった。
- 実習に入る前にワクチンを接種し、その証明を提示することを条件にしている施設が複数見受けられた。
- 実習において、ワクチン接種はもちろんのこと、抗体価検査や PCR 検査の要望があった事例あり。実習園の要望に沿うように対応。
- 実習においては、抗原検査の提出を求められるところも多々あった。
- 実習先より、ワクチン接種または抗原検査を求められるところが数件あった。学生には実習前に対応をするよう指導した。
- 実習園よりワクチン接種希望があった場合は、学生本人の意思を尊重しつつ、接種を促した。
- ワクチン接種の有無について問い合わせを受けた例はなかった。

- 実習に関しては参加者全員に PCR 検査の実施。
- 実習で2度接種を求められる園があった。採用試験や就職では特になし。
- 実習先によっては、実習オリエンテーション等でワクチン接種や PCR 検査の有無が実習受け入れの希望条件となっていた。
- ワクチン接種の有無で実習・就活で不利益を受けたケースはない。
- 大学生の事例ではあるが、内定後ワクチン接種を受けていない学生に対し、園から「接種をするよう学校からも指示してほしい」との依頼があった。
- 実習にて、学生のワクチン接種が求められることがあった。しかし、体質として接種できない学生もいるため、学校として強制はしなかった。
- 施設実習は、PCR 検査を受けることが、実習受け入れの条件に上げる施設が多かった。
- 実習や就職活動において、検査結果は提出していたがワクチン接種の有無を問われる機会はほとんどなかった。
- 特になし。(ワクチン接種が望ましいが、接種していない場合は、PCR 検査の上、実習など受け入れ可能)
- 高齢者や基礎疾患をお持ちの利用者がいる施設では実習参加に際し、ワクチン接種を求められるところがあり、該当する学生を配属した。
- 実習先からワクチン接種を求められたケースがあり、未接種の配属学生の希望・意思を確認して、学校側で実習施設を調整変更した。
- 実習派遣学生は全てワクチン接種を義務付けた。(本学自体が接種会場であった為、思いのほかスムーズに推進)
- 採用後、ワクチン接種に対する本人及び親の考えと、就職先との考えが違い、離職した事例が一件ある。

#### [東京]

- 保育所実習 I の実習先から2回のワクチン接種は必須と、実習約1ヶ月前に連絡を受けた。接種は強制できないこと、受入れ条件であれば他の実習先は依頼時に連絡いただいていることを説明するも、学生の事情等は一切聞き入れられず、大学側が問題あるように一方的に責められた。大学側から実習は断った。
- ワクチン接種か PCR 検査受検が実習条件となる事例あり。学生に接種意思がない場合、PCR 検査の受検推奨か実習先の変更にて対応。
- ワクチン接種を受けていないことで、実習を断られ、園を変更したケースがあった。
- 施設実習に関しては2回~3回のワクチン接種を求められた例がある。学校としても学生のワクチン接種を勧めている。
- ワクチン接種時期と重なり、採用試験日程の調整に苦慮した学生もいたが、特に不利益等を被ってはいない。
- 実習予定の園から実習前にワクチン接種を済ませて欲しいと要望があった(1,2件)。対応としてワクチン接種の強制はできないこと、実習開始前に全員 PCR 検査を実施し、陰性と判定された者について実習を認めていることを説明した。

#### 〔中部〕

- 実習受入の条件として、接種証明書の提示を求められる園あり。実習生には接種に対し支障がない事を確認し、接種させたうえで実習をさせた。
- 実習先により、依頼時やオリエンテーション時にワクチン接種の有無の確認があった。
- 特になし、それぞれの園で、個々の学生が園の指示に従い、対応(検温、健康チェック等)する。
- ワクチン接種が見学の条件としている園があった。その学生は未接種だったため見学断念。
- 実習前にワクチン接種をしてほしい、という園からの依頼も若干あったが、できる限り応じていくことで影響はなかった。
- 実習の際に、学生のワクチン接種が必要な事例があった。
- ワクチン接種の有無ではありませんが、実習において PCR 検査や抗原検査をしてほしいと言われた園があった。

#### 〔近畿〕

- 接種有無に関わらず実習不可の園も存在した。
- 実習の受け入れ条件とされるところが多かった。(あくまでも任意とはしながらも)
- 検査提出を求めるケースが見られた。
- 直前の PCR 検査結果を求められることがあるので、PCR 検査や抗原検査を実施した。
- 実習に関してはワクチン接種必須になっている場合が多いが、採用試験ではそうではない。
- 実習前にワクチン接種を推奨。

#### 〔大阪〕

- 実習の受け入れに際し、ワクチン接種、PCR 検査、抗原検査を求められる施設もあった。PCR 検査は、学内で実施できるよう対応した。
- 学生のワクチン接種の状況を確認されることはあったが、そのことが実習受入や採用試験、就職には影響しなかった。
- 実習において、PCR の検査を受けるようにという指示はあったが、2021 年度はワクチンについては、特に何もなかった。
- 実習先によってはワクチン接種が義務付けられているところもありそれに従った。

#### 〔中国〕

- 採用試験とワクチン接種日が重なり、採用試験をずらしていただいた例があった。
- 実習先への配慮の為、健康チェックと行動記録を実習前 2 週間実施し、さらに、ワクチン未接種者は抗原検査を実施した上で参加することを義務付けた。
- 実習において、ワクチンの接種回数、接種からの経過日数に厳密な条件があり、一部学生が実習先を変更した事例があった。
- 実習に関してはワクチン接種(殆どの園)や PCR 検査(数例)が必要な事例があった。

#### 〔四国〕

- ワクチン接種の有無が影響した事例はないが、実習前に PCR 検査を受け、陰性証明を持参するよう指導している。
- 学外実習までにワクチン接種を行っていない学生については、PCR 検査を行ってから実習に出るようにしている。

#### 〔九州〕

- ワクチン接種ではなかったが、抗原定量検査や PCR 検査を実習受け入れの条件とされたため、実習の都度大学で検査させた。
- ワクチン接種が義務付けられる実習先もあり、事情があり未接種の学生は実習先を変更することもあった。
- 内定先から、就職前にワクチン接種を 2 回終えるよう、短大側から指導して欲しいと頼まれ、学生にそのように伝えた。
- 施設によっては実習自体を中止とするところも見られたが、事前の PCR 検査による陰性証明によって実習受け入れを行うところがほとんどであった。
- 強制的ではないが、ワクチン接種の要望が高かった。そのため、実習時には、抗原検査を実施した。
- 要請された訳ではないが、実習前にはワクチン接種を推奨した。
- 障がい児・者の施設の実習においてワクチン接種有の学生を引き受けたいという要望があった施設があり、実習引き受けにおいてワクチン接種を条件にしていない施設での実習へ変更した。

### ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

#### 〔北海道〕

- 見学時に抗原検査をする。（園が負担）
- 5 月実施予定の学外実習が、緊急事態宣言等の影響で 10 月～11 月に日程変更となり、就職活動が例年より 2 カ月程度遅れていた。
- 道外はオンライン説明会を取り入れる園が増えた。
- 園見学・採用試験で、陰性証明やワクチン接種を求められる事があった。

#### 〔東北〕

- 県外就職希望者（地元が県外除く）はほとんど最終面接までオンラインで実施した。
- 実習終了後からの就活開始（11 月～）となり、就活にあまり時間をかけたくない学生が多かったように思う。実習園から声掛けされ、すんなりと受け入れる学生が多かった。
- 実習前後各 2 週間自宅待機期間が設けられたため、学科は地元以外の公務員試験や関東圏の園を希望する学生の対応負荷が大きくなった。
- 園見学ができなくなった。
- 教育実習が多いため、県外就職希望者の現地活動はオンライン説明会の活用により現地活動時期を先行的に予定し期間も短くできた。

- スマートフォンで手軽に SNS によるアクセスで就職活動が進んでいる。
- 感染対策のため、園見学の受け入れが困難な事例があった。

#### 〔関東〕

- コロナ禍の影響で、実習が延期されたことにより、就職活動のスタートが大きく遅れた。
- 見学や実習の機会が若干しにくい傾向があった。
- 保育園・幼稚園・認定こども園の WEB サイトが強化された。
- 園見学することに対して、慎重になった。
- 実習先において新型コロナウイルス感染者発生のため、実習時期が後倒しになることがあった。
- 園見学の際に採用担当者が公用車で自法人の複数園に送迎をしてくれた。
- 見学のための訪問の回数が減った。
- 通学せずリモートで授業を受けている地方学生の学内での就職活動に関する手続きを行うことができず、郵送にて手続きを行うなどした。
- 特異というか、今後もオンラインでの活動が増えていくと感じた。
- 学生間のコミュニケーションが取れないまま、自宅学習期間が長くなってしまい、周りの就職活動の様子がつかめず不安を抱える学生が多かった。また、自宅での就職活動ということもあり、仲介業者を利用した受験が増え、ルールの逸脱が見られた。
- Zoom 等を用いた遠隔の就職説明会を学生に周知できた。
- 園・施設見学において中止になったことがあった。
- 求職側も求人側も、採用面接前の、説明会及び見学などの機会の減少と遠隔などの方法の方法への戸惑い。

#### 〔東京〕

- コロナへの警戒から、都心にある保育園を避け、東京西部への就職を希望する学生がいた。
- 採用試験前に実施する保育所・幼稚園・施設等の園見学が、園児のいる環境での見学ができず、内定後、ミスマッチが発生した。
- 見学、対面試験に臨む学生には感染対策の注意喚起を行い、体調の変化等はすぐに先方に連絡し、日程変更を依頼する等感染予防に努めた。
- 授業等対面で友人と話せる機会が減少し、単独での活動に苦戦しエージェントを利用したとの報告を受けたこと。

#### 〔中部〕

- ボランティアの禁止、実習前一定期間の行動制限などがあり、学生にとっては就職活動のしにくさがある。
- 実習が延期となり、就職活動のスタートが遅れた。
- 選択肢を自ら狭めてしまう学生がやや多く感じる。
- 自己 PR 動画を撮って応募したり、オンラインで面接を実施したり、WEB を利用した就職活動が増えている。

- 実習先であったこともあり、面接試験がなくなり、筆記試験のみで採用したケースがあった。
- 検温や健康状況チェックを意識するようになった。
- 園見学の希望者は、事前に「見学参加申請書」の提出を求め、見学にあたり見学者の把握と諸注意を徹底し健康チェックシートを準備して園へ持参させた。
- コロナ感染症の状況により面接がオンラインに変更されたケースがあったので対応した。
- 時期的に園への見学が難しくなることがあった。
- 実習の内容制限。(子どもとの触れ合いの減少)

#### 〔近畿〕

- 実習を振替日で行うなどの対応を行った結果、内定出しが例年よりも遅くなった。
- 合同説明会をオンラインで開催されることが多くなった。
- 比較的幼保業界はオンラインの導入が少なく例年通り対面で採用試験を実施頂いた印象。実施日は固定でなく随時対応いただくところが増加。

#### 〔大阪〕

- 学生の状況に応じて、個別の対応を丁寧に行ってくれる。
- 学内の就職セミナーが2回開催できなかったので就職活動のスタートが遅くなった。

#### 〔中国〕

- 経過観察の期間がとれないために、東京への就職を諦め、地元就職した学生がいた。
- オンライン面接、説明会が増える。またマイナビやリクナビなどの就活サイトを利用する企業が増えた。
- 合同説明会の開催中止、WEB開催への変更。実習時期の変更。実習前自宅待機期間の設定。
- まん延防止の影響を受けない時期に就職活動が集中した。結果的に就職希望者の全体が早く決定することとなった。

#### 〔四国〕

- 見学を希望した学生がコロナの関係で、一旦中止になり、日時の変更をお願いしたケースがあった。
- 園見学の時にはワクチン接種の有無確認、県外への往来有無確認、一週間前後の検温が主流となった。

#### 〔九州〕

- 県外生の場合、地元で実習し、そのまま本学に戻らずに（地元で）就職試験を受験するケースがあり、リモートでの支援を行った。
- コロナの影響で、一旦決まった試験日が変更になったことがあった。(園児の罹患、園児が濃厚接触者の疑い)
- 学校に来られない時期が続いたせいか、基本的な挨拶や大人と話すときのマナーなどが就職活動開始時期までに身につけていないと感じた。就職指導とともにその辺りの指導が必要だったのは昨年まではなかったことと感じる。

- 採用試験を受けるにあたり帰省で県をまたぐ移動するため、試験日が例年より遅くなる園もあった。
- コロナ禍により単位実習が後ろ倒しになり、結果として就職活動の長期化を余儀なくされる学生が例年より多かった。
- 見学実習が今までのように気軽にやりにくかった。
- 実習前の行動制限により従来の就職活動時期に園見学に行けず、結果として実習園就職者が例年の3割から今年は5割程度に増加。
- オンラインでの企業説明会やWEBでのサポートが昨年より多くなった。

## ⑪幼稚園、保育所、認定こども園、その他の施設等への就職・採用活動における大きな変化について

### 幼稚園

〔北海道〕

- 令和2年度就職者比率29.9%、令和3年度11.1%、前年度18.8ポイント低下。

〔東北〕

- こども園化により幼稚園への採用が少なくなった。
- 認定こども園の形になった園が多く、学校法人〇〇幼稚園というような園が極端に減少した。

〔関東〕

- 新型コロナウイルスの影響により、昨年度に引き続き、見学の受入れ状況が厳しかった。
- 昨年と比較して幼稚園への就職を希望する学生数及び実習先への就職先が減少した。
- 東京都では新制度導入の幼稚園の待遇が良くなっている。
- 希望人数に満たないところが多く、何度も訪問や連絡をくれた園がいくつかあった。
- 幼稚園への就職者は年々減少している。また、実習園に誘われて就職を決めた例が昨年同様多かった。
- 前年度に比べて内定者の割合が増加した。

〔中部〕

- 学生の「担任をやりたいがらない傾向」がより一層強まっている。
- 就職フェアの開催日程を学生の実習等と重ならないように設定し、学生の参加機会を確保することや対面、オンラインの両方で実施。

〔近畿〕

- 試験日、書類締切日を設定せず、随時で試験をしてくれる園が増加している。
- 私立では、今まで専願受験であったが、採用側が併願受験可の場合は「併願可」ということに変更した。

〔大阪〕

- 他の県は公立の幼稚園が多数なので、本学科からは希望者が少ない。
- 認定こども園への移行が進み、求人件数が目立って減少している。

〔中国〕

- まとまった休暇があるという点で、幼稚園を希望する学生が増加した。

〔九州〕

- 見学や自主実習を断られた園があった。
- 希望者が減少。

## **保育所**

〔北海道〕

- 令和2年度就職者比率31.0%、令和3年度41.7%、前年度比10.7ポイント上昇。

〔東北〕

- オーナーの世代交代により職場改善がみられる。
- 人材サービスを利用する（意図せず利用していた）学生が目立つようになった。

〔関東〕

- 新型コロナウイルスの影響により、昨年度に引き続き、見学の受入れ状況が厳しかった。
- 一人ひとりの園児に寄り添うことができる小規模園に就職を希望する学生が増えた。
- 希望人数に満たないところが多く、何度も訪問や連絡をくれた園がいくつかあった。
- 就職支援サイトを利用して決めたケースは前年より減った。小規模保育所を希望する学生は年々増えている。
- 前年度に比べて内定者の割合が減少した。
- 見学時の時間帯や場所の制限があった。（園児がいない時間帯や空間での説明や見学となる場合があった）

〔東京〕

- 園見学に行っても十分に見学ができない、またオンライン園見学のみのところもあり、学生からの不安の声があった。

〔中部〕

- 給食の美味い不味いが就職先を決める重要なファクターのようだ。
- 公立園が民間委託する動きが出て、同じ園舎の保育士採用試験が公務員試験でなく、受託先による採用試験実施が増えた。
- 学生のアルバイトの機会を提供する案内が増え、就職に繋げていきたい狙いが感じられる。

〔近畿〕

- 試験日、書類締切日を設定せず、随時で試験をしてくれる園が増加している。
- 私立では、今まで専願受験であったが、採用側が併願受験可の場合は「併願可」ということに変更した。

〔大阪〕

- あまり変化はない。おおよそ6割程度が就職している。

〔中国〕

- 小規模園の新設があり、学生も小規模園や院内保育、企業主導型保育園への希望が増えている。

〔四国〕

- 小規模を希望する学生が減少した。

〔九州〕

- 見学や自主実習を断られた園があった。
- オンライン化が進んだことにより、関東の園への就職活動がしやすくなり希望者が増えた。
- 給与体系を見直し、基本給等を高めた施設が見られた。

## **認定こども園**

〔北海道〕

- 令和2年度就職者比率34.5%、令和3年度37.5%、前年度3ポイント上昇。

〔東北〕

- オーナーの世代交代により職場改善がみられる。
- 幼稚園とは逆に幼保連携認定こども園、認定こども園が増加した。
- 保育士資格と幼稚園教諭免許状の両方の取得が求められる。

〔関東〕

- 新型コロナウイルスの影響により、昨年度に引き続き、見学の受入れ状況が厳しかった。
- 希望人数に満たないところが多く、何度も訪問や連絡をくれた園がいくつかあった。
- 認定こども園への就職者は増加傾向。
- 前年度に比べて内定者の割合が増加した。
- 見学時の時間帯や場所の制限があった。（園児がいない時間帯や空間での説明や見学となる場合があった）

〔中部〕

- 学生のアルバイトの機会を提供する案内が増え、就職に繋げていきたい狙いが感じられる。

#### 〔近畿〕

- 幼稚園、保育所が認定こども園になるケースが増えており、こども園の求人件数が増加した。
- 試験日、書類締切日を設定せず、随時で試験をしてくれる園が増加している。
- 私立では、今まで専願受験であったが、採用側が併願受験可の場合は「併願可」ということに変更した。

#### 〔大阪〕

- 両面取得が可能な学科なので、一定数就職している。
- 認定こども園に移行する園が増加している。
- 特例措置終了が迫っているため、幼稚園教諭の免許がこの先は必要といわれる。

#### 〔中国〕

- 新設や他園種からの移行が増加しており、学生の就職先として認定こども園が増えている。

#### 〔九州〕

- 見学や自主実習を断られた園があった。
- 幼稚園、保育園が「認定こども園」となるケースが増え、求人が増加した。
- 給与体系を見直し、基本給等を高めた施設が見られた。
- 希望者が多少増。

### **その他の施設**

#### 〔東北〕

- 児童発達支援施設や放課後デイサービス等への就職者が急激に増えている。(施設が増えていることもある)

#### 〔関東〕

- 体育指導員等、体育関係の施設への就職を希望する学生が多く見られた。
- 放課後デイサービスや発達支援センターへの就職者が増えた。
- 実習機会が減ったが、社会福祉施設への就職者は増えた。

#### 〔近畿〕

- 試験日、書類締切日を設定せず、随時で試験をしてくれる園が増加している。

#### 〔大阪〕

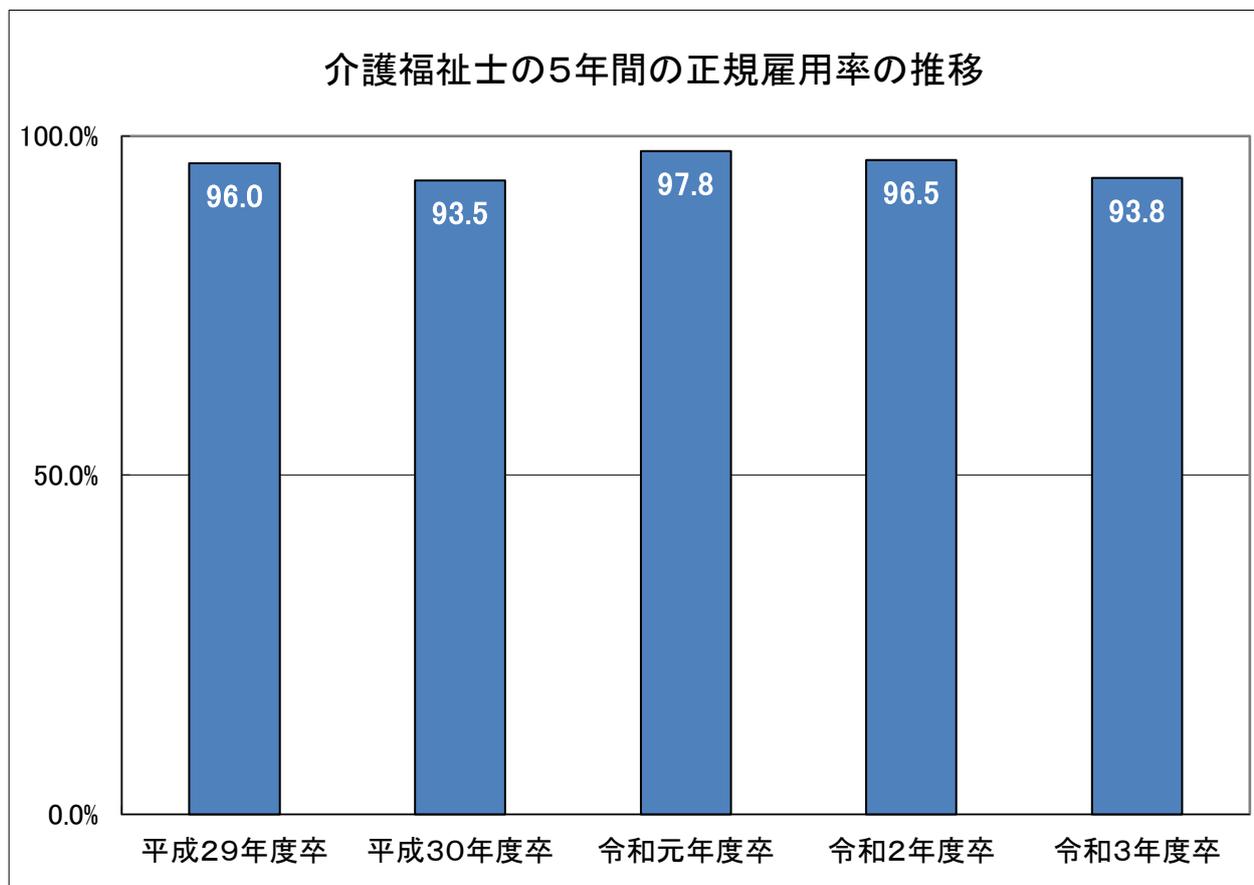
- 2021年度は、施設希望者が増えた。特に男子学生に顕著であった。

#### 〔九州〕

- 見学や自主実習を断られた園があった。
- 放課後デイサービス等療育分野からの求人が増加した。

## 介護福祉士の正規雇用率の推移

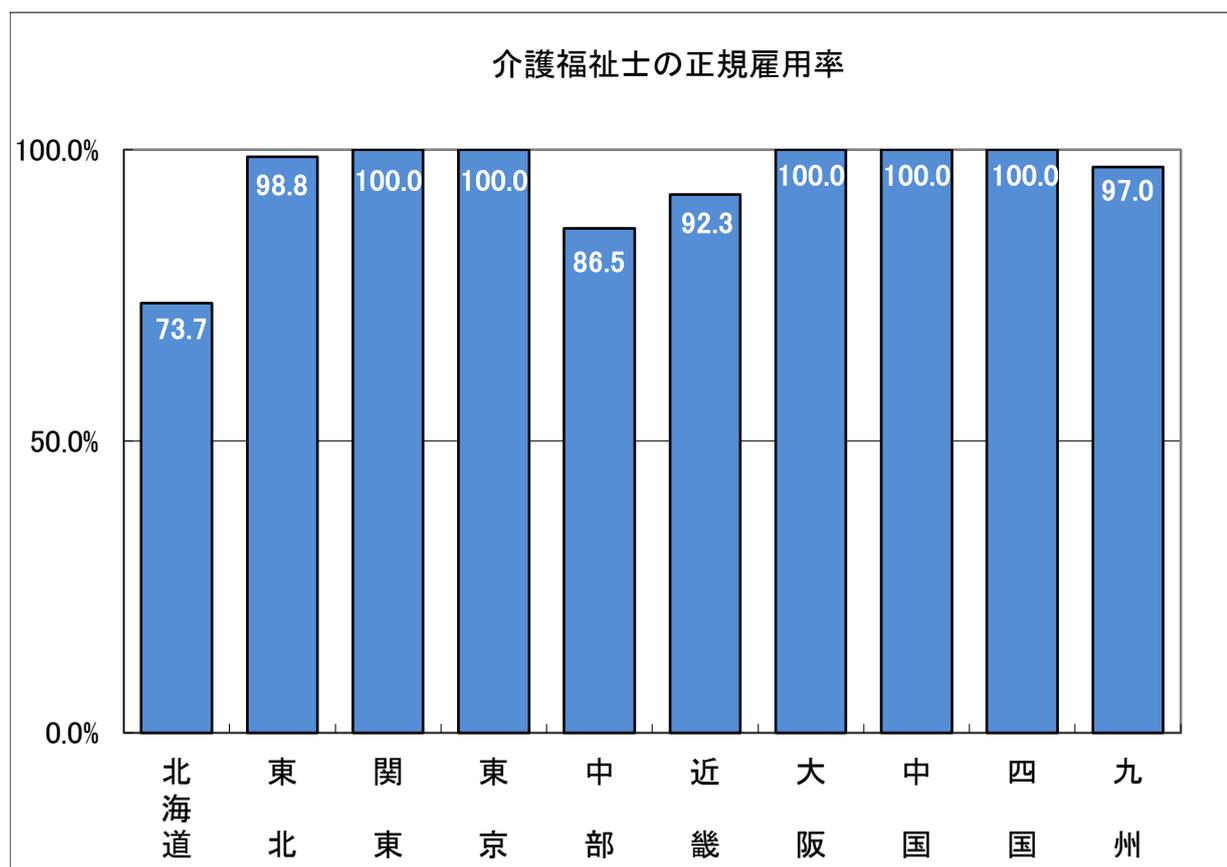
正規雇用率					
	平成29年度卒	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒
全国	96.0%	93.5%	97.8%	96.5%	93.8%



※介護福祉士は「令和2年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査」まで〔その他の専門職〕に含めて集計していたため、経年比較データは全国のみ対象となる。

令和3年度介護福祉士の地域別雇用形態の状況（1）

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	680	638	42	93.8%
北海道	19	14	5	73.7%
東 北	85	84	1	98.8%
関 東	75	75	0	100.0%
東 京	12	12	0	100.0%
中 部	208	180	28	86.5%
近 畿	39	36	3	92.3%
大 阪	39	39	0	100.0%
中 国	19	19	0	100.0%
四 国	16	16	0	100.0%
九 州	168	163	5	97.0%



令和3年度介護福祉士の地域別雇用形態の状況（2）

	就職 決定者	公立			私立		
		公立計	正規 雇用者	非正規 雇用者	私立計	正規 雇用者	非正規 雇用者
全国	680	8	4	4	672	634	38
	100.0%	1.2%	0.6%	0.6%	98.8%	93.2%	5.6%
		100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	94.3%	5.7%
北海道	19	4	0	4	15	14	1
	100.0%	21.1%	0.0%	21.1%	78.9%	73.7%	5.3%
		100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	93.3%	6.7%
東北	85	0	0	0	85	84	1
	100.0%				100.0%	98.8%	1.2%
					100.0%	98.8%	1.2%
関東	75	0	0	0	75	75	0
	100.0%				100.0%	100.0%	0.0%
					100.0%	100.0%	0.0%
東京	12	0	0	0	12	12	0
	100.0%				100.0%	100.0%	0.0%
					100.0%	100.0%	0.0%
中部	208	1	1	0	207	179	28
	100.0%	0.5%	0.5%	0.0%	99.5%	86.1%	13.5%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	86.5%	13.5%
近畿	39	2	2	0	37	34	3
	100.0%	5.1%	5.1%	0.0%	94.9%	87.2%	7.7%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	91.9%	8.1%
大阪	39	0	0	0	39	39	0
	100.0%				100.0%	100.0%	0.0%
					100.0%	100.0%	0.0%
中国	19	1	1	0	18	18	0
	100.0%	5.3%	5.3%	0.0%	94.7%	94.7%	0.0%
		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
四国	16	0	0	0	16	16	0
	100.0%				100.0%	100.0%	0.0%
					100.0%	100.0%	0.0%
九州	168	0	0	0	168	163	5
	100.0%				100.0%	97.0%	3.0%
					100.0%	97.0%	3.0%

## 介護福祉士の令和3年度の就職・採用活動について 前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(まとめ)

### ①学生の就労意識、意欲について

学生個々の差はあるが、就労意識・意欲共に昨年に比べ大きな変化はないものの、コロナ禍での就職活動にも少しずつ慣れ、それに合わせた対応ができるようになってきた。

介護福祉士になりたいという目的意識が高く、しっかりとした職業観（介護観）がある学生は、地元事業所から評価が高い。

対面授業も始まり、学生の動向が見えるようになってきたことで、意欲の醸成が高まっている傾向にあることが窺える。

### ②求人件数・求人内容について

県内求人はわずかに昨年を上回ったが県外求人は昨年を下回り、就活媒体等を利用し申し込みを行う事業所が増えたとの報告があった。

各県で『介護福祉士』の需要は高く、1年を通して求人があるのが現状である。

### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

給与等についての報告は少数であったが、処遇改善加算が給与に反映されている事業所等が増えており、改善している傾向にあるのが窺える。

### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

コロナ禍 2年目ということもあり、感染拡大防止の対応について、WEB等のオンラインでの施設見学開催、オンライン面接の実施や、募集期間・試験日を学生の動向に合わせるなど、コロナ禍に柔軟に対応する事業所が増えてきたとの報告があった。

### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

④の改善されたものが窺える半面、急な就職採用試験の日時設定や緊急事態宣言期間中で対面での面接を実施していた事業所もあり、更には雇用者側の採用担当者が後日コロナの感染者だったと学生本人に連絡があり、学生の精神的不安の対応に苦慮したことなどが挙げられた。

## 介護福祉士の令和3年度の就職・採用活動について 前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(具体的記述内容一覧)

### ①学生の就労意識、意欲について

〔東北〕

- 学生の個人差はあるが、年度の違いは感じない。
- 特に変化はない。就労意識・意欲共に良好で、全員就職した。
- 活動開始時期が遅かった。
- 変化なく、意欲旺盛。

〔関東〕

- コロナ禍の就活にも少しずつ慣れ、それに合わせた対応ができるようになってきた。
- オンラインによる授業が多くなったため、学生個々の情報をつかむことが困難な状況にあり、結果的に就労意識・意欲等が低かったように思える。

〔中部〕

- 介護福祉士になりたいという目的意識が高い。しっかりとした職業観（介護観）があるので地元事業所から評価が高い。
- 県外への就職希望者がいなかった。

〔近畿〕

- 例年、若干名ですが、介護関係の就職がある。
- 国家試験対策に全力で取り組んでいる学生が多いため、就職活動開始時期が遅い傾向にある。

〔大阪〕

- 令和2年度に比べ、積極的に活動しているのがみられた。

〔中国〕

- 介護福祉士の資格を活かして働きたいと強く思っている点は前年度と変化はない。
- 求人件数は増加傾向にあるが、学生の意欲はあまり高まっていない。

〔九州〕

- 介護職を希望する学生は就労意欲が高い傾向がある。
- 本学の介護福祉士養成コース在學生は、常に介護専門職への意欲が高くコロナ禍でもそれに変化は見られなかった。
- 全員に高い就労意識や意欲を強く感じた一年だった。

## ②求人件数・求人内容について

### 〔東北〕

- 求人数が県内、県外ともに約 1.8 倍に増えた。
- 求人社数が減ったが、多くは学生が希望する地域でなかったため、就職活動に影響はなかった。
- 求人数が 16%ほど減少した。
- 335 件（令和 2 年度）から 218 件（令和 3 年度）に減った。
- 県内求人 91 件（87 件）、県外求人 115 件（165 件）と、県内はわずかに上回ったが県外は昨年を下回った。

### 〔関東〕

- 県内外共に求人件数は増加したが、求人数は減少した。
- 人手不足を強く感じる。
- コロナ禍前と比べてもほぼ横ばいで推移している。

### 〔中部〕

- 約 2 割求人件数が減少した。
- 引き続き高い求人件数を頂いた。

### 〔近畿〕

- 福祉施設の求人が、若干増加した。
- 例年より少し減少した。
- 減少している。

### 〔中国〕

- 減少傾向にある。マイナビやリクナビなどの就活サイトから申し込む形式が増えたことも少なからず影響がある。
- 求人件数が増加傾向にある。

### 〔四国〕

- 概ね前年度と同数である。

### 〔九州〕

- 人手不足の傾向が続いているため、介護職は引き続き求人件数が増えている。
- 県内においても介護福祉士のニーズは高く、求人件数、及びその内容についても大きな変化は見られなかった。
- 県内外の求人が多くあった。早くから求人票を見ることができ、就職先を早期に決めることが出来た。

### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

〔中部〕

- 夜勤手当を含めて加算もあり比較的給与が高いと感じる。
- 処遇改善加算の反映。

〔近畿〕

- 基本給や手当、勤務体制等が見直されていると感じる。

〔九州〕

- 介護職は処遇が良くなっていると感じる。

### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

〔北海道〕

- WEB で面接をしていただいた。

〔東北〕

- オンラインでの施設見学等の開催。
- コロナ禍 2 年目ということもあり、感染拡大防止の対応については、いくらか緩和され対面での採用試験となった。

〔近畿〕

- 募集期間や試験日を柔軟に対応していただけた。

〔中国〕

- 特に変化なし。オンライン面接は助かっている。

〔九州〕

- オンラインを取り入れる事業所が増えた。
- 留学生受け入れを表明する事業所が増えてきた。
- 本学科によく足を運んで頂き、就職支援担当者と対面で詳しい話ができたと思う。

⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

〔東北〕

○急な就職採用試験の日時設定。

〔中国〕

○特に変化なし。コロナ禍で現地での面接を希望されるケースはある。

〔九州〕

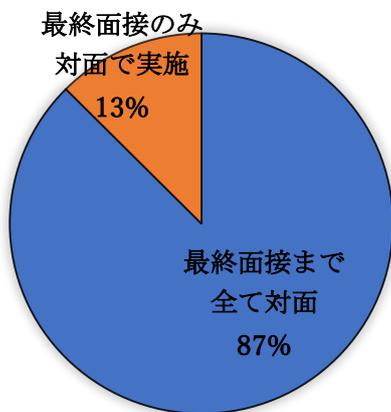
○雇用者側の採用担当者があとでコロナ感染者だったと本人に連絡があった。学生の精神的不安の対応に苦慮した。

## 介護福祉士の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(まとめ)

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

専門職から企業・団体職への変更希望学生が出たという報告が1短期大学あったが、それ以外は、昨年度新型コロナウイルス感染症の影響で進路変更等を余儀なくされた学生は見られなかった。

### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの



新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大学の講義や就職活動もリモート化が進む中、就職活動学生の人間性や意欲など、実際に会わないと分からない部分も多く、対面で互いの雰囲気があると、学生と事業所とのミスマッチが減り、コロナ禍だが、対面面接のメリットは大きいという。また、「入り口はオンライン、最終選考は対面」というハイブリッド型の形式による選考も目立ってきているのが現状である。

### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

新型コロナウイルス感染の影響で施設実習が蔓延防止重点措置期間と重なったため、実習が延期、または中止となったとの報告が多数あり、学生個々に対し延期、代替施設で実施や学内実習に切り替えることで、みなし実習として対応した。

また、実習予定施設でクラスター発生により実習を途中で断られ、1年次に行う実習が2年次に延び、更に実習時期を分散して実施したというような報告もあった。

### ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

実習先によっては2回のワクチン接種、抗体検査やPCR検査の実施が実習参加の条件になっている事業所もあり、学生に接種意思がない場合、PCR検査の受検推奨もしくは実習先の変更にて対応しているといった報告が多数見られた。

### ⑩その他(コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと)

新型コロナウイルス感染により、実習が遅れた分、就職活動のスタートが遅くなったことで、事業所が工夫し、オンライン見学会で在職者のコメントなどを出し、学生の興味関心に対応しているところ等があった。

## 介護福祉士の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(具体的記述内容一覧)

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例 とその対応について

〔東北〕

- 専門職から企業・団体職への変更希望学生 3 名に対し、面談を繰り返し自己の強みを活かした職業選択の支援ができた。

〔関東〕

- 新型コロナウイルス感染症の影響で進路変更等を変更した学生は見られなかった。

〔九州〕

- 対面を主とした従来と変わらない就職活動ができていた。雇用にまつわるトラブルも特になかった。
- 当年度においては、コロナを直接的な要因とする進路変更はなかった。

### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・ 49
- b 最終面接まで全てオンライン・・・ 0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・ 7
- d その他・・・・・・・・・・・・ 0

### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を 取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

〔北海道〕

- 内 容：実習が延期、または中止となった事業所があった。  
対応策：延期や代替施設で対応した。

〔東北〕

- 内 容：実習延期や断られたときがあった。  
対応策：学内実習や別な実習先を確保した。
- 内 容：介護実習を予定していたところが中止となった。  
対応策：実習先を変更して実施し、一部はみなし実習として対応した。

〔関東〕

- 内 容：実習予定施設にてクラスター発生により実習を断られた。  
対応策：別な施設にて対応、実習実施。
- 内 容：施設実習が蔓延防止措置期間と重なったため、約3割の場所で中止となった。  
対応策：実習の期日を変更し、学生によっては実習先を変更し実施可能な施設等で実施した。

〔中部〕

- 内 容：実習時期の変更要請があった。  
対応策：変更した。
- 内 容①：実習が感染警戒レベル2以下で受け入れ可能との条件があり、実習を断られた。  
対応策①：学内実習に切り替えた。  
内 容②：実習受け入れ施設がなく、1年次に行う実習が2年次に延びた。また、同じ時期に送り出すことが難しかった。  
対応策②：2年次に実習を延期し、さらに時期を分散して実施した。

〔大阪〕

- 内 容：実習中止、学外実習が全て学内に変更となり実践できていない状況のまま就職活動となった。  
対応策：アルバイト等で介護経験を積ませ対応した。

〔四国〕

- 内 容：蔓延防止重点措置の発令で期間中の実習が延期になった実習園があった。  
対応策：解除後に改めて実習を行った。

〔九州〕

- 内 容：実習の中止。  
対応策：別施設に実習を依頼し実施。
- 内 容：登録している実習先から受入れを無断られた事例があった。  
対応策：他の施設に交渉し、受験させた。
- 内 容：コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言時の実習中止。  
対応策：期間および実習先の変更。

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

〔北海道〕

- 実習先によってはワクチン接種が参加の条件になっている事業所もあった。
- 実習では抗体検査を求める施設もあった。

〔東北〕

○ワクチン接種の有無が上記に影響したことはなかったが、PCR 検査の要請があった。

〔関東〕

○影響はないが、ワクチンと抗原検査を事前に行って対処した。

○実習ではワクチン接種が必須。

○実習派遣学生は全てワクチン接種を義務付けた。(本学自体が接種会場であった為、思いのほかスムーズに推進)

〔東京〕

○ワクチン接種かPCR 検査受検が実習条件となる事例。学生に接種意思がない場合、PCR 検査の受検推奨か実習先の変更にて対応。

〔中部〕

○施設実習を実施するにあたってワクチン接種が必須の事業所もあったため、近隣の職域接種を実施している病院・企業等へ依頼し、接種を行った。

○校外実習にいく場合は、コロナに限らずインフルエンザ等のワクチン接種が責務である。

○ワクチン接種2回の実施とPCR 検査陰性であることが条件で実習を受け入れていただいた。

〔大阪〕

○実習について事前に年間で承諾はいただいていたが、一部の施設で依頼を行った際に施設でコロナ禍の影響により受け入れの断りがあった。

〔中国〕

○実習前に学生のワクチン接種状況は確認される施設はありましたが、すべての学生がワクチン接種をしており、影響はなかった。就職に関して、ワクチン接種の有無を問われることはなかった。

〔九州〕

○ワクチン接種が義務付けられる実習先もあり、事情があつて未接種の学生は実習先を変更することもあった。

○施設によっては実習自体を中止とするところも見られたが、事前のPCR 検査による陰性証明によって実習受け入れを行うところがほとんどであった。

○ワクチン接種済み伝えることで、スムーズな対面での見学や面接ができた。

⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

〔東北〕

- 実習が遅れた分、就職活動のスタートが遅くなった。
- オンラインでの見学会や在職者のコメントなど、工夫して学生の興味関心に対応しているところがあった。

〔関東〕

- 事前の研修がないところが多かった。

〔中部〕

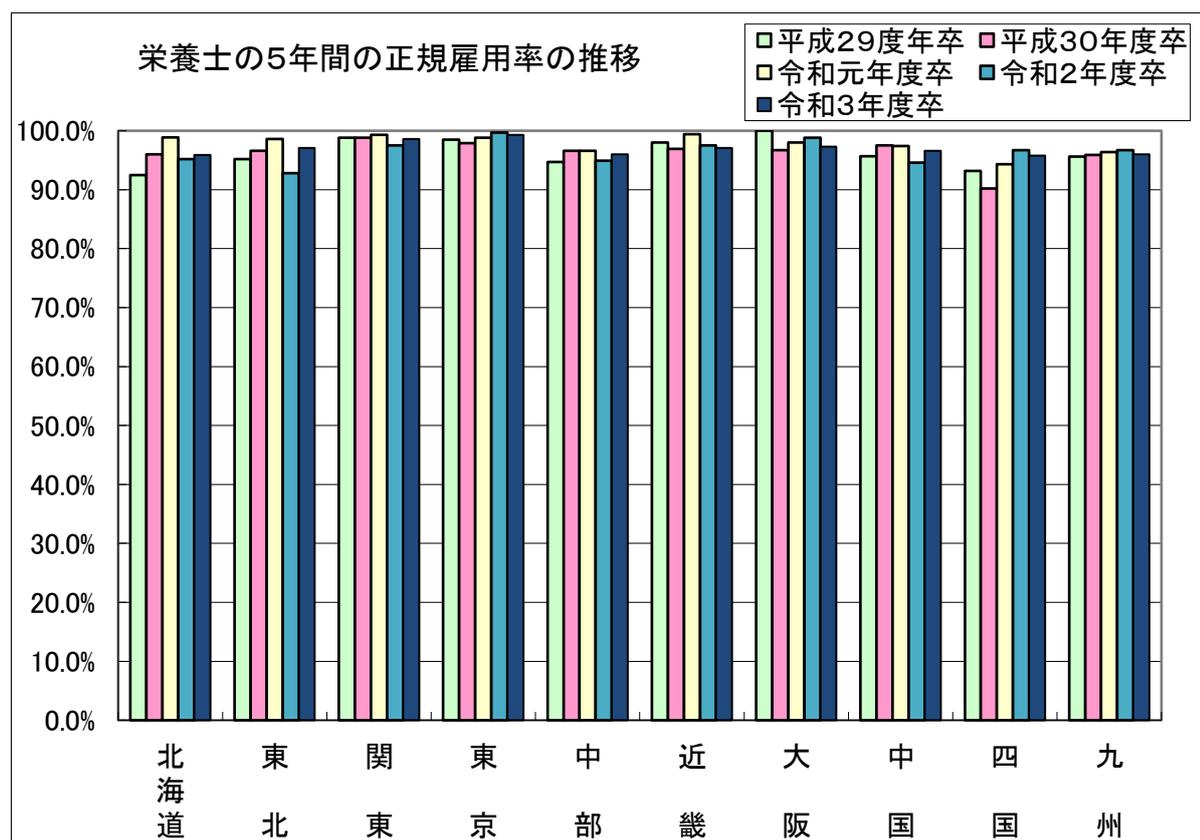
- インターンシップや就職活動でコロナのレベルが高くても一緒に働くことを想定して感染対策もしっかりと行い事業所の理解が感じられる。
- 施設への見学ができない、もしくは見学できる範囲がコロナ前に比べて限られてしまう点は、若干ながらも仕事理解に影響はあると思う。

〔中国〕

- オンライン面接、説明会が増える。またマイナビやリクナビなどの就活サイトを利用する企業が増えた。

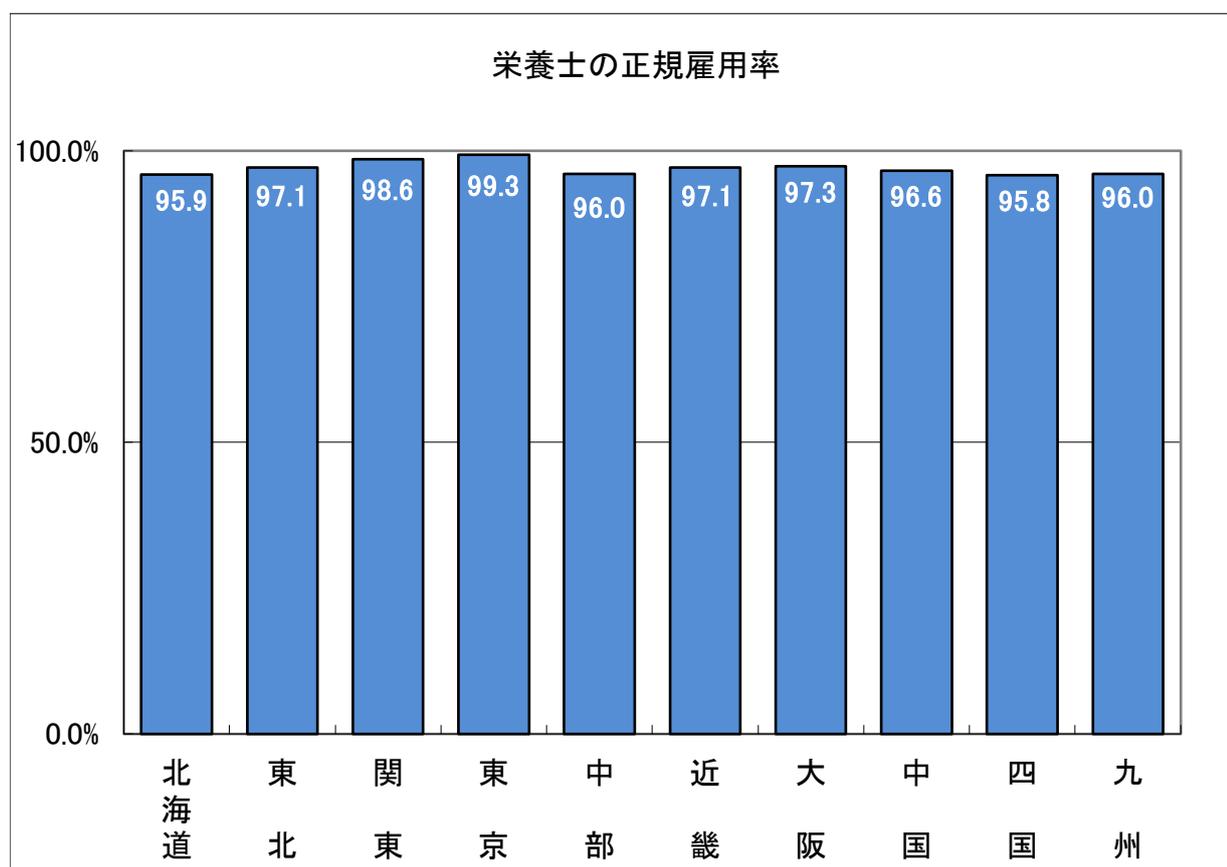
## 栄養士の正規雇用率の推移

	正規雇用率				
	平成29年度卒	平成30年度卒	令和元年度卒	令和2年度卒	令和3年度卒
北海道	92.5%	96.0%	98.9%	95.2%	95.9%
東北	95.2%	96.6%	98.6%	92.8%	97.1%
関東	98.8%	98.8%	99.3%	97.5%	98.6%
東京	98.5%	97.9%	98.8%	99.7%	99.3%
中部	94.7%	96.6%	96.6%	94.9%	96.0%
近畿	98.0%	96.9%	99.4%	97.5%	97.1%
大阪	100.0%	96.7%	98.0%	98.8%	97.3%
中国	95.7%	97.5%	97.4%	94.6%	96.6%
四国	93.2%	90.2%	94.3%	96.7%	95.8%
九州	95.6%	95.9%	96.4%	96.7%	96.0%
全国	96.2%	96.7%	97.7%	96.4%	97.1%



令和3年度栄養士の地域別雇用形態の状況（1）

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
全 国	2,515	2,441	74	97.1%
北海道	148	142	6	95.9%
東 北	239	232	7	97.1%
関 東	418	412	6	98.6%
東 京	286	284	2	99.3%
中 部	447	429	18	96.0%
近 畿	140	136	4	97.1%
大 阪	148	144	4	97.3%
中 国	146	141	5	96.6%
四 国	96	92	4	95.8%
九 州	447	429	18	96.0%



令和3年度栄養士の地域別雇用形態の状況（2）

	就職 決定者	公立			私立		
		公立計	正規 雇用者	非正規 雇用者	私立計	正規 雇用者	非正規 雇用者
全 国	2,515	88	74	14	2,427	2,367	60
	100.0%	3.5%	2.9%	0.6%	96.5%	94.1%	2.4%
		100.0%	84.1%	15.9%	100.0%	97.5%	2.5%
北海道	148	0	0	0	148	142	6
	100.0%				100.0%	95.9%	4.1%
					100.0%	95.9%	4.1%
東 北	239	1	0	1	238	232	6
	100.0%	0.4%	0.0%	0.4%	99.6%	97.1%	2.5%
		100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	97.5%	2.5%
関 東	418	1	0	1	417	412	5
	100.0%	0.2%	0.0%	0.2%	99.8%	98.6%	1.2%
		100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	98.8%	1.2%
東 京	286	0	0	0	286	284	2
	100.0%				100.0%	99.3%	0.7%
					100.0%	99.3%	0.7%
中 部	447	6	2	4	441	427	14
	100.0%	1.3%	0.4%	0.9%	98.7%	95.5%	3.1%
		100.0%	33.3%	66.7%	100.0%	96.8%	3.2%
近 畿	140	20	19	1	120	117	3
	100.0%	14.3%	13.6%	0.7%	85.7%	83.6%	2.1%
		100.0%	95.0%	5.0%	100.0%	97.5%	2.5%
大 阪	148	53	51	2	95	93	2
	100.0%	35.8%	34.5%	1.4%	64.2%	62.8%	1.4%
		100.0%	96.2%	3.8%	100.0%	97.9%	2.1%
中 国	146	2	0	2	144	141	3
	100.0%	1.4%	0.0%	1.4%	98.6%	96.6%	2.1%
		100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	97.9%	2.1%
四 国	96	2	1	1	94	91	3
	100.0%	2.1%	1.0%	1.0%	97.9%	94.8%	3.1%
		100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	96.8%	3.2%
九 州	447	3	1	2	444	428	16
	100.0%	0.7%	0.2%	0.4%	99.3%	95.7%	3.6%
		100.0%	33.3%	66.7%	100.0%	96.4%	3.6%

## 栄養士の令和3年度の就職・採用活動について 前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(まとめ)

### ①学生の就労意識、意欲について

栄養士職や専門の学びを生かした就職を希望する学生が多いとの報告がある一方で、コロナ禍で実習時間が減少し、栄養士として働くための経験値不足に不安を感じる学生やオンライン授業での学修が実際の現場で通用するののかという不安を抱いた学生が栄養士以外の選択をするケースについて報告があった。

学生の就労意欲については、意欲的との回答と意欲が低下したとの回答は同数程度であった。合同説明会に積極的に参加した、コロナ禍の就職活動に前例もあり前年度の対応をふまえて取り組んだ、緊急事態宣言下で就活が困難だった上級生をみていたため危機感を持って臨んでいた等の回答がみられた。一方で、実習の時期が延期になったことや県外移動の禁止等により就活モードになれず、就活のスタートが遅くなった、初期段階ではエンジンがかからなかったとのケースも報告されている。早くから取り組み始める学生となかなか就活を進められない学生の二極化が進んでいるとの報告もある。

少数ではあるが、コロナの影響によるものか否かは不明としつつ、進学者の割合が増加したとの報告が見られた。

### ②求人件数・求人内容について

求人件数の増減については、減少したとの回答が増加したとの回答を上回った。減少幅については、微減から多い所で2割減との回答となっている。令和2年度に委託給食会社の求人が大きく減少し、その部分の回復が見られないとの報告もある。また、昨年度と比較すると大きな変化はないものの、募集期間の早期化や中小規模企業の早期採用活動終了に困惑したケースについての報告があった。

### ③雇用形態、処遇(含・給与状況)等について

処遇については、基本給が見直されているとの報告と同数程度、他職種と比較して基本給が低いとの報告があった。給与改善に取り組む企業と取り組まない企業との差が生じている。

少数ではあるが、年間休日数が増えたとの報告があった。

### ④雇用者側の対応で改善された(よくなった)と感じた事例について

WEBによる説明会や面接を実施する企業が増えたとのケースが複数報告されており、報告件数は昨年度より増加している。WEBでの対応により、学業への負荷が軽減され、授業の欠席が減少したとの報告もある。また、学生の状況に合わせた選考日の調整や対面とオンラインの選択等、授業等過密スケジュールの中で並行して就活を進める短大生への配慮が窺える。この他、少数ではあるが基本給の改善、勤務地・職場環境への配慮についても報告されている。

#### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

コロナの影響により福祉施設から見学を断られる、コロナ禍であるにも関わらず、現地での面接を希望される等雇用者側の対応に困惑したケースが報告されている。

また、平日実施の説明会・面接等により授業の欠席が増加しているケースや内定承諾の期限が年々短くなっている、配属先の通知が遅い、業務や勤務体制が事前の説明と大きく異なっていたため退職に至ったケースも報告されている。処遇等が改善されてきている職種ではあるが、離職問題の改善には至っていないと感じるとの報告もあった。

## 栄養士の令和3年度の就職・採用活動について 前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(具体的記述内容一覧)

### ①学生の就労意識、意欲について

〔北海道〕

- 就職者全体の栄養士比率は前年度と大きな変化はない。新型コロナウイルス感染症拡大前の一昨年との比較では10.4ポイント上昇している。学生は夏休み前に、対面とオンラインの給食委託会社合同説明会に積極的に参加して、意欲的に就職活動を行った。

〔東北〕

- 専門職としての就労意識が高い学生が多い。
- 学生の就労意識は就職ガイダンス等でアンケートを取り確認しているが、最近就活が始まる前に下がる傾向がみられる。

〔関東〕

- コロナ禍の就活にも少しずつ慣れ、それに合わせた対応ができるようになってきた。
- インターンシップや実習の経験がないまま就活となり、就労意識の低い学生と、反対に早くから取り組めた学生で二極化した。児童福祉施設に関心を持つ(就職する)学生の増加。
- 新型コロナウイルス感染症に伴う今後の就職状況を鑑み、学生には早期から活動するように指導した。学生は意欲的に取り組んだと思う。
- 職場見学ができなかった分、就職に対する意識変化の時期が遅かったが、6月にはほとんどの学生が勤労するということ、その意識が高まった。しかし、最後まで就職したくないという思いを持つ学生が例年以上に多かったのも事実である。
- 就労意欲は依然高く、さらに資格を活かした職に就く者の割合が増えた。
- 令和2年度の1年生時において、就職活動時期の春にコロナ禍での緊急事態宣言中で就職活動が困難だった上級生をみているためか、危機感を持って就職活動を行っていた。

〔東京〕

- コロナ感染の影響により学内実習の時間が減少した結果、栄養士として現場で働くうえでの経験値が足りないと感じた学生は栄養士職を回避する傾向が見られた。
- 新型コロナウイルスの影響かは不明だが、進学者の割合が増加した。

〔中部〕

- 全体的に動き出しが遅く、夏までに進路が決まっていなかった人が多かった。
- 専門職につく学生が半数くらいにとどまっている。学んで資格取得はしてもそれを生かしたいと思う学生が現状している。
- 栄養士職は専門職ということもあり、一般職より内定を得やすい状況にあるため興味を示すようだ。
- 様々な働きかけにより栄養士を希望する学生が増えてきたように感じた。

- 2021 年度卒業の学生については、例年よりも意欲が高い感触があった。
- 前年度と比較して進学希望者の割合が増えた。資格を活かした就職希望者は大多数いた。

#### 〔近畿〕

- 実習の延期があり、実習がある学科については学生の就活が遅かった。
- 就労意識、意欲の低下の傾向が見られた。
- 学外実習が終わってから就職活動を開始する学生が増えたと感じる。

#### 〔大阪〕

- 9 割近い学生が就職を希望。特に昨年に比べ栄養士職希望者も増え、多くは給食会社へ就職している。
- オンライン授業で身につけた知識が実際の仕事に通用するののかという不安から栄養士以外の職種を選ぶ学生が見られた。
- 令和 2 年は感染症の流行により就活そのものが手探り状態であったが令和 3 年は昨年に対応をふまえて就活に取り組んでいた。

#### 〔中国〕

- 栄養士職への就業者が減っていることから、栄養士職の就労意識は前年度比で低下していると考えられる。
- 地元での就職を選択する学生が増えた。
- 基本は三食を 365 日提供していく事への認識が低く、早出、遅出等の勤務を避ける。
- 自分の専門を活かした職に就く傾向が強い。

#### 〔四国〕

- 二極化が進んでいる。

#### 〔九州〕

- 専門職への意識の変化は無かったが、業態の偏りが激しく、保育園栄養士への希望者が増加。
- 前期の学外実習の中止や県外移動の禁止等により全体的な就活スケジュールが後ろ倒しとなったことで、学生はなかなか就活モードになれなかった。
- 初期段階はなかなかエンジンがかからなかった。
- 保育園・こども園の栄養士を希望する学生が過去多かったが、近年、委託会社の処遇改善や教育制度の充実等で、委託会社を希望する学生が増えている。
- 学生の就労意識は高く、学生の希望する分野や地域別に就職活動していた。給食受託会社は 2~3 回／年の求人があり、短大で開催された説明会や、リモートでの説明会に参加していた。給食受託会社の説明会で、コロナ禍での求人や就職活動の実情の説明があり、社会的状況を理解しながら就職活動をしていた。また、6 月・8 月実施の学外実習で栄養士業務を理解し、適時、求人情報を収集し選択肢を広げ、それぞれ就職活動をしていた。栄養士以外の職種を希望する学生には、例年通り、早目に就職活動に取り組むよう指導し、個別に活動していた。

## ②求人件数・求人内容について

〔北海道〕

○栄養士の求人件数に大きな変化はないが、募集期間を早める企業が数社あった。

〔東北〕

○減少している。

○ほぼ横ばい。

○求人件数は横ばいで委託給食は増えている。

○前年比 15%減少した。

〔関東〕

○求人件数はコロナ前の水準かそれ以上の件数があった。栄養士のエッセンシャルワーカーとしての地位の向上がみられた。

○障がい者施設等の福祉施設の求人が減少している。

○4月～8月頃は昨年より減少していたが、冬にかけ定員に満たない企業からの求人を多く受領したため、最終受付件数は昨年とほぼ同数であった。

○転職・休職者が少ない傾向にあるからか、直営求人が微減した。

〔東京〕

○栄養士求人件数の減少はなかったが、従来採用に苦戦する中小規模企業（給食会社）から比較的早期に採用予定数充足による採用活動終了の案内が届いた。従前ならば大手企業を狙えない学生（時期的、就職意欲等を理由に）に対して個別に採用相談に応じてくれていた中小規模企業の早期採用活動終了には困惑した。

○求人件数は前年から減少した。（21卒：734件→22卒：608件）

〔中部〕

○求人件数が約2割減少した。

○委託給食会社の求人数が減少した。

○例年通り、給食受託会社が意欲的に採用。

○求人件数は、昨年度と比較してやや減少した。

〔大阪〕

○給食会社自体の求人数は減ってはいないが、社員食堂等への配属が減少した。

○件数に変化はないが、関西エリアの委託給食会社の採用枠がすぐに埋まり、例年のような通年採用をされる企業が少なくなった。

○令和2年は求人件数全体も減少、特に9月以降の大学への直接の求人依頼は厳しかった。

令和3年は回復傾向になったがそれまでの状態までには至っていない。

〔中国〕

- 求人数は、前年度と同様に減少したが、1割以下の減少にとどまった。
- 求人数は大きな変化はないがオンライン面接が増えた。
- 社員食堂への求人が減少した。
- やや減少した。

〔四国〕

- 概ね前年度と同数である。

〔九州〕

- 減少した。(特に春から夏にかけての求人が減少した)
- 令和2年度は新型コロナの影響により委託給食会社の求人人数が大きく減少したが、令和3年度もその部分が元に戻っておらず、新型コロナ以前より求人数は減少したままとされている。
- 若干減少。
- 直営求人(特に保育園)が多かった。
- 保育園等が直接栄養士を雇用するいわゆる「直営」よりも、給食受託企業による求人が増加し、かつ長期の採用活動が行われていた。
- 求人数は令和2年度の減少傾向のまま、令和3年度も例年に比べて少なかった。
- 多少減少した。
- 件数、内容ともに、前年度からの増減や変化は無かった。
- 前年度に比較すると求人数は、ほぼ同じであった。キャリアセンターの利用方法や求人情報の把握などについて、学生が各自で就職活動に取り組めるよう指導した。

### ③雇用形態、処遇(含・給与状況)等について

〔東北〕

- 給与を改善する委託会社、数年間全く改善しない会社との差が大きくなっている。
- 委託就職で処遇改善が見られた。

〔関東〕

- コロナ禍であっても基本給の増加。
- 新型コロナウイルス感染症の影響から、雇用形態も制限されることがあった。
- 例年と変わらない。一部の企業で改善がみられるが、栄養士の給料は他職種に比較して安いいため、学生は残念に感じている。
- 基本給が上がった企業があった。

〔東京〕

○給与の内訳が明確になってきた事により、基本給の低さが明確になった。

〔中部〕

- 一般企業に比べ、給与が低い。
- 相変わらず一般職に比べて給与が低い。
- 年間休日が増えた企業・施設が若干数あった。

〔近畿〕

○基本給や資格手当等が見直されてきていると感じる。

〔大阪〕

- 正規雇用だが、処遇はあまり良くない。
- 基本給にはあまり変化はないが、年間休日日数は増えてきている。

〔中国〕

○給与面が若干UPしている。

〔九州〕

- 昨年よりも全体的に給与が上がった。(特に保育園)
- 雇用形態には変化はないが、一部の施設で処遇改善がみられた。
- 例年との差は、あまり無いようである。雇用形態や処遇などについても、例年と同様で、ほとんどが正規での雇用であった。

#### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

〔北海道〕

- 基本給が低い事業所に改善するよう要望したところ、基本給が上がった。(＋9,000円)
- WEBを活用して面接、説明会を実施してくれた。
- 前年より、さらに多くの企業でオンライン面接を実施し、筆記試験においてもオンラインで実施した企業があった。

〔東北〕

○委託給食の勤務地は、本人の希望を聞き、自宅から通勤できるところに配属されるようになっている。

〔関東〕

- WEB面接等で臨機応変に対応していただいたため、スムーズにできた。
- 積極的に来校していただき、会社を知ることのできる学内での機会を与えてくれている。

〔東京〕

- 給与の内訳が明確になってきた。
- オンライン選考が中心になったことで就職活動の学業への負荷(授業欠席等が減少)が軽減された。

〔中部〕

- 学生の状況に合わせて、対面とWEB両方で対応頂いた。
- オンラインでの説明会が増えたように感じる。

〔近畿〕

- 配置転換などの対応で離職者の減少につながっている。
- 募集期間を柔軟に対応して頂いたり、勤務地(配属先)の希望を受け入れて頂いたりしやすくなっている。

〔大阪〕

- 女性が多い職種なので、女性が働きやすい環境作りが整っている。入社後の研修に力を入れている説明が多い。
- 土日に説明会を実施してくださるところが増えた。
- 人との接触を極力少なくする状況で、面接等が大学・家庭でも可能となり、環境の変化への不安が少しは軽減された。

〔中国〕

- 濃厚接触になった場合など、コロナ禍の状況を理解し試験日の変更を柔軟に対応して頂いた。
- オンライン面接は助かっている。
- 早出のスタートが少し遅くなった求人が増えた。
- 給食会社を中心に、学内のコロナ対応状況や学業状況に応じて、オンラインによる説明会や選考の実施に柔軟に対応くださる企業が増えたと感じる。

〔九州〕

- オンラインを取り入れる事業所が増えた。
- 試験日を学生の都合に合わせて柔軟に対応してもらえるようになった。
- 柔軟な採用活動を展開され、年度の深まった時期でも相談に対応して特別に採用試験を行っていただけることが多く見られた。
- 施設見学やオンラインによる対応が増えた。
- 委託会社に就職するOGが増えてきたことで、採用に関して、本学と企業との連携が密になり、協力体制も強固なものとなった。また、離職率も低くなってきた。
- 例年と大きな差は特にない。施設見学や就職活動などに関して、新型コロナウイルス感染対策を考慮した上で事前の連絡や申し込みを快諾され、スムーズに実施されていた。高齢者施設の増設に伴う新人の求人について、直接、担当者から本学へ訪問と説明があった。(1施設)

## ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

〔北海道〕

- 委託会社へ内定した学生の配属先の通知が遅く、結局 2 月中旬になり、学生の引っ越し予定がずれた。

〔東北〕

- 委託企業における(栄養士の)早期離職の事例の多さ。「すぐに辞める、突然辞める」が多らしい。現場での人間関係、早出や遅出、土日勤務に対する抵抗感が主な理由。近年、学卒者は正社員採用が当たり前で、処遇待遇が大幅によくなりつつある職種であるが、離職問題の改善には至っていないと感じる。

〔関東〕

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、福祉関係施設から見学の受入れを断られた。
- 栄養士免許の登録が 3 月中ではないと採用できないと言われ、対応に苦慮した。

〔東京〕

- 承諾書期限が年々短くなっている。

〔中部〕

- 平日に説明会や試験が行われるため、授業を欠席せざるを得ない。

〔近畿〕

- 説明会や面接等の就職活動が平日の日中が多く、授業欠席増えている。

〔中国〕

- コロナ禍で現地での面接を希望されるケースはある。

〔九州〕

- 保育園・こども園の栄養士求人は、退職者次第で求人の有無や時期が決まるので、求人の状況が見通せず、学生の就職活動の動向を決めることが難しい。
- 給食受託会社内定後の研修中に、職場の配置人員が不足し、業務や勤務体制において事前の説明と大きな相違があったため退職した。(1名)

## 栄養士の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(まとめ)

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について (10件)

コロナ感染の拡大の影響で、カリキュラムでの実習が不十分、学外実習の中止や延期、期間短縮が余儀なくされ、栄養士職、調理の現場で働くことへの不安を感じる学生、栄養士職以外の職種を選択した事例が数件報告された。

また、感染拡大の影響で社員食堂等、産業給食の採用が減少したため、医療福祉給食へ変更した学生の事例も報告された。

### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・ 31
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・・・ 10
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・ 33
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

その他の内容：地元は対面、他県（の企業との面接）はオンラインが多い。

### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について (13件)

栄養士の学外実習は介護施設や医療機関が多く、感染拡大により受け入れを断られる、延期、受け入れ先の変更事例報告があった。学外実習の代替えとして、学内での実習に切り替えた事例も報告されている。学生に現場経験を、と、ほかの実習先を探す苦労も窺える。採用試験を断られた、内定取り消し事例の報告はない。

#### ■（学外）実習の中止、延期についての事例と対応

- ・介護施設、医療機関から実習生受け入れを断られた。
- ・延期した時期にまん防が適用され、結局中止。
- ・一部の学生だけ中止。

→対応：・時期の延期、変更。

- ・別の実習先を探した。
- ・学内で実施した。
- ・実習の2週間前から自宅待機、外出自粛。
- ・卒業間際まで時期を変更した。

### ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について（11件）

ワクチン接種が実習受け入れの条件となった事例が報告されている。未接種者は実習先を変更したとの事例もある。地域によって、事前の PCR 検査による陰性証明によって実習を受け入れる企業、施設が多いとの報告もあった。

また、実習先の医療機関で実習学生にワクチン投与をし、予定通りに実習ができたとの連携事例もある。採用試験への影響は報告されていない。

### ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

オンラインでの会社説明会や採用試験（面接）が増えたとの報告が多い。それに伴い、学生、大学側双方の WEB 環境整備の必要性が高まったとの事例が報告されている。オンラインの就活は情報収集がしやすく、選択肢が広がり、授業の時間を多く割かなくてもいいが、企業や同期社員とのつながりが希薄になり、早期退職につながる懸念も示している。また、採用試験が面接のみ1回、というように変更した企業が増えたとの報告もある。

地域によっては保育園、幼稚園の栄養士求人が増えた、委託先の変更、エージェントを利用した就活などの特異例が報告されている。

## 栄養士の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(具体的記述内容一覧)

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例 とその対応について

〔北海道〕

○新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の職種を変更した学生は見られない。

〔東京〕

○実習系の授業(内容)に不十分さを感じる学生もおり、就職後、給食調理機器を扱うことへの不安感を感じる学生がいた。

○コロナ感染の影響により学内実習の時間が減少した結果、栄養士として現場で働くうえでの経験値が足りないと感じた学生は栄養士職を回避する傾向が見られた。

〔中部〕

○栄養士職の求人は変わらずあったため、変更を余儀なくされたケースはなかった。

〔近畿〕

○産業給食の採用の減少、福祉医療へ変更した学生が多数いた。

〔大阪〕

○学外研修の受け入れの延期が続き、実習に行かないままでは自信が無いということで、栄養士以外の職を選んだ学生が見られた。

〔九州〕

○対面を主とした従来と変わらない就職活動ができていた。雇用につながるトラブルも特になかった。

○当年度においては、コロナを直接的な要因とする進路変更はなかった。

○新型コロナウイルスによる影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生はいなかった。

○県内や地元での進学・就職希望者が多かったが、県外への進学・就職希望者が数名おり、家族の同意を得て活動し、希望の学校へ進学と事業所へ就職した。

### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

a 最終面接まで全て対面・・・ 3 1

b 最終面接まで全てオンライン・・・ 1 0

c 最終面接のみ対面で実施・・・ 3 3

d その他・・・ 3

(地元は対面、他県はオンラインが多い等)

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

〔北海道〕

○内 容：学外実習先予定の医療機関や福祉施設が、新型コロナウイルスの影響から受け入れ困難となり実習中止となった。

対応策：代替措置として学内実習に振り替えて学内の給食施設で実施した。

〔関東〕

○内 容：老人介護施設での受け入れが完全に止まってしまった。

対応策：学内での実習に切り替えた。

○内 容：実習については、コロナの感染状況で延期や中止になることがあった。

対応策：時期をずらしたり、新たに受入先を探し実施したりした。

○内 容：新型コロナウイルスの影響により、実習先より受け入れ不可の連絡があった。

対応策：受け入れ可能な実習先の中で、グループ分けおよび実習日の調整を行った。

○内 容：夏に予定していた実習が2月に延期されていたが、「まん延防止等重点措置」適用により受入側から断られ、中止となった。

対応策：実習先企業を急遽変更した。別途受入先を探し、実習を行った。

〔中部〕

○内 容：実習時期の変更要請があった。

対応策：変更した。

○内 容：資格取得のための学外実習において、実習生の受け入れが困難になった事業所があり、一部の実習をできない学生がいた。

対応策：実習先の変更および代替授業で対応した。

〔大阪〕

○内 容：インターンシップや実習が感染拡大時期に重なり、実習が中止や延期になったことがあった。

対応策：延期された実習も感染状況を見ながら実施された。また、実習の2週間前から自宅待機・外出自粛を行うことで予定通り実習を行うケースもあった。

〔四国〕

○内 容：蔓延防止重点措置の発令で期間中の実習が延期になった実習園があった。

対応策：解除後に改めて実習を行った。

〔九州〕

○内 容：多くの老人福祉施設から実習受け入れを断られた。

対応策：学内実習に切り替えて対応した。

○内 容：実習の中止。

対応策：別企業・団体に実習を依頼し実施。

- 内 容：実習のスケジュールが、コロナの感染状況によって当初の計画通り進まず、実習受け入れをしていただけない施設もあった。
- 対応策：スケジュールをずらして、なんとか卒業までに栄養士免許取得のための全ての実習を行うことができた。

## ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

〔北海道〕

- ワクチン接種の副反応で、採用試験日をずらしてもらった。
- 学生のワクチン接種が実習の参加条件となった。

〔関東〕

- 事前にPCR検査や抗原検査の提出を求められることがあった。
- 実習に際しワクチンの接種状況を確認された例はあったが、未接種を理由に断られた例はない。

〔中部〕

- 資格取得のための学外実習において、ワクチン未接種者の受け入れができないという事業所があった。
- 校外実習での受け入れ先より大学の感染拡大防止方法など詳しく聞かれた。(サークル活動・ボランティア活動・アルバイト等の自粛)

〔近畿〕

- 特別の事情がない限り実習までにワクチン接種は済ませているため、施設見学、採用試験への影響はなし。

〔九州〕

- ワクチン接種が義務付けられる実習先もあり、事情があり未接種の学生は実習先を変更することもあった。
- 学外実習においてコロナを懸念し実習を中止とする企業も見られたが、事前のPCR検査による陰性証明によって実習受け入れを行うところがほとんどであった。
- 要請した訳ではないが、実習前にはワクチン接種を推奨した。
- 医療施設での学外実習前に、当該施設で新型コロナワクチンを接種して頂き、安全に実習することができた。事前に医療施設担当者と実習担当教員が連携し、学生の新型コロナワクチン接種券発行後に速やかに対応したため、予定通り実習に参加した。高齢者福祉施設にて実習受け入れ伺いの際に、新型コロナワクチン接種済みか否かの質問があったが、医療・福祉施設職員以外にワクチンを接種できない時期だったので接種しておらず、希望施設を変更した。就職活動では、特に影響はなかった。

## ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

### 〔北海道〕

○採用エージェントを利用して、求人を探してもらった学生が複数いた。

### 〔東北〕

○県内の病院の委託先が変更（大まかな要因はコロナ）。新たに栄養士の採用はあったが、これまでの企業にも卒業生が働いているため、複雑な気分。

○SNSによる就職活動が進み、就職活動したような状況になっているが、実際に活動すると全く動けない。

### 〔関東〕

○WEB面接を導入する企業が増加したことから、学生側はWEB環境を整える必要が高まり、対面とは異なる面接対策等負担もあった。

○WEB説明会が普及したことにより、情報収集がしやすく学生の選択肢が広がったと感じる。ただ、入社後の研修がWEB化したことで、同期や人事部との繋がりが希薄になり、退職などに繋がらないか懸念している。

○オンライン会社説明会・面接が増加した。

### 〔東京〕

○オンラインでの説明会や選考が増え、授業等で時間に制限がある短大生にとっては時間的な余裕が増えたように思う。

### 〔中部〕

○コロナ禍前までの採用試験では最低2回は筆記・面接等が行われていたが、1回での採用試験で決定する企業が増えた。

○委託給食会社ではオンライン面接が主流で、学生の都合に合わせた時間調整が可能であるが、その分学内での面談場所の確保が課題となっている。

○施設直営雇用が減り、委託企業での4大生の応募が増加し、車所有学生が優先される傾向が見受けられる。

### 〔近畿〕

○施設見学等が無くなり、イメージが付きにくい状況にある。

### 〔大阪〕

○ワクチン副作用や感染による体調不良によって急遽説明会や面接の日程変更が生じる学生が複数見られた。

〔中国〕

- オンライン面接、説明会が増える。またマイナビやリクナビなどの就活サイトを利用する企業が増えた。
- オンライン説明会、面接が増えた。
- オンライン面接が増えたので、学校でセットすることが多くなった。

〔九州〕

- 陽性や濃厚接触者となったために、面接日程等で配慮いただいた。
- 保育園・認定こども園からの栄養士求人が増加した。
- コロナの影響だけではないが、活動状況が見えない学生が例年より多く、学生個々に向けた継続的なアプローチの必要性を感じる。
- 委託業者は、オンラインでの企業説明会がほとんどだった。

その他の（国家資格・免許を必要とする）専門職の雇用形態の状況

専 門 職 名	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
小 学 校 教 諭	150	67	83	44.7%
中 学 校 教 諭	35	15	20	42.9%
養 護 教 諭	81	6	75	7.4%
栄 養 教 諭	5	1	4	20.0%
特別支援学校教諭	3	0	3	0.0%
図 書 館 司 書	53	3	50	5.7%
看 護 師	844	835	9	98.9%
臨 床 検 査 技 師	112	103	9	92.0%
理 学 療 法 士	193	192	1	99.5%
作 業 療 法 士	91	90	1	98.9%
柔 道 整 復 師	10	10	0	100.0%
視 能 訓 練 士	24	24	0	100.0%
歯 科 衛 生 士	768	762	6	99.2%
歯 科 技 工 士	22	22	0	100.0%
調 理 師	24	23	1	95.8%
製 菓 衛 生 師	59	55	4	93.2%
美 容 師	93	93	0	100.0%
自 動 車 整 備 士	203	202	1	99.5%
救 急 救 命 士	28	28	0	100.0%
合 計	2,798	2,531	267	90.5%

その他の専門職の令和3年度の就職・採用活動について  
前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(まとめ)

回答率 20% (57/281 校)

職種別回答数

地方	校数
北海道地方	1 校
東北地方	1 校
関東地方	16 校
中部地方	17 校
近畿地方	9 校
中国地方	4 校
四国地方	2 校
九州・沖縄地方	7 校
合計	57 校

職種	回答数	職種	回答数
小学校教諭	10 件	理学・作業療法士	4 件
中学校教諭	5 件	臨床検査技師	3 件
特別支援学校教諭	1 件	図書館司書	4 件
養護教諭	3 件	調理師	4 件
看護師	13 件	製菓衛生師	5 件
准看護師	1 件	美容師	3 件
歯科衛生士	12 件	自動車整備士	2 件
歯科技工士	2 件	柔道整復師	1 件
		合計	73 件

①学生の就労意識、意欲について

職種	回答
小・中学校教諭	他の業種より意識が高く、積極的な感じがある。
看護師 准看護師	就職や進学意欲・国試に対するモチベーションが高いだけに、病院実習が出来なかったことに不安を感じる学生がいた。
理学・作業療法士	臨床実習が十分に行えていないため、不安を感じている学生がいた。
美容師	働く処遇や環境は悪くなく、手に職をつけ、長く働ける職種として美容師になりたい学生が増えた印象がある。
製菓衛生師	製菓専門職として就労を目指す意識、意欲は高い。最終的に独立を考える学生は企業選びを慎重にしがちである。
調理師	早期から活動する傾向が見られた。
歯科衛生士	関東圏（地方から都会）を希望する学生が減った感じを受けた。
図書館司書	特に正規の求人が少ないため、希望者が少なくなった。

②求人件数・求人内容について

職種	回答
小・中学校教諭	教員の人手不足などから採用枠は増えた。
看護師	関東圏では求人件数が増えたという意見に比べ、その他の地域では減少した。要因として、四年制看護大学の増加や他県からの求人が減ったという意見があった。
理学・作業療法士	県外からの求人が減少した。

調理師	飲食・ホテル・ウエディング業界からの求人が減少した。
製菓衛生師	極端に求人が減ってしまった令和2年度に比べ、求人数は回復してきた。飲食・ホテル・ウエディング業界は減少傾向が続いている。
歯科衛生士	慢性的な歯科衛生士不足により、求人数は前年より増加した。
図書館司書	正規・非正規に関わらず、求人は極めて少ない。

### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

図書館司書は変わらず非正規での採用が多い。歯科衛生士や自動車整備士では、月給が年々上昇傾向にあるとの意見があった。

### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

業種にかかわらず、コロナ禍2年目ということで、「対面」と「オンライン」をうまく活用し、柔軟な就職試験の体制を作ってもらえたという意見が多かった。

### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

- ・繁忙期にインターンシップで働かせるような事例があった。（製菓衛生士）
- ・4次選考まであり、就職試験が長期化した。（調理師）
- ・コロナ禍で見学はできず、選考もオンライン、現場の情報が少ないまま試験を受けた。  
（臨床検査技師）

**その他の専門職の令和3年度の就職・採用活動について**  
前年度(令和2年度)と比較して変化のあったもの(具体的記述内容一覧)

**<小学校教諭>**

**①学生の就労意識、意欲について**

- 他の職種よりも、就労意識や意欲は高い傾向にある。[東京]
- 教員採用試験受験に積極的な学生がやや増えた。[関東]
- 早い時期から積極的に活動していた。[近畿]
- 県内の採用者が増加したため、学生の就労意識・意欲が高まった。[九州]

**②求人件数・求人内容について**

- 昨年度に比べ求人数が1.7倍増。[関東]
- 教員の人手不足を強く感じる [関東]
- 採用公募数はやや増えた。[関東]
- 自治体による採用試験なので、自治体で決まる。[九州]
- 採用者数が増加している。[九州]

**③雇用形態、処遇(含・給与状況)等について**

意見なし

**④雇用者側の対応で改善された(よくなった)と感じた事例について**

意見なし

**⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について**

意見なし

**<中学校教諭>**

**①学生の就労意識、意欲について**

- 元々、本人の意識も高かったが、例年よりも本気度が高い学生が多く、試験対策に計画的に取り組む学生が多くみられた。[九州]
- 教職課程を履修する者が多く、また教員採用試験の受験対策により、教員採用試験を受験する学生が多かった。[九州]

**②求人件数・求人内容について**

- 令和元年度以降、中学校(家庭)の募集人数が増えている状況が続いている。[九州]

③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

意見なし

④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

意見なし

⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

意見なし

<図書館司書>

①学生の就労意識、意欲について

○司書自体の求人数が極めて少ない中で、正規職員の採用を目指し意欲を保ち続けることが非常に難しいと感じる。[北海道]

○司書への就職がむつかしくなっているため、希望者は少なくなっている。[中部]

②求人件数・求人内容について

○司書自体の求人数が極めて少ない。[北海道]

③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

○引き続き非正規職員が多いこと。[北海道]

④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

意見なし

⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

○引き続き非正規職員が多いこと。[北海道]

<看護師>

①学生の就労意識、意欲について

○就職や進学意欲・国試に対するモチベーションも高い。病院実習がないことに不安を持つ学生は多くいた。[東北]

○昨年度より就職活動の取り組みに対する意識が高まった。面接・小論文・病院研究に関して興味を持っている学生が増えた。[大阪]

○意欲は高い。[近畿]

## ②求人件数・求人内容について

- 市内の求人数は大きく変わらないが、試験日程が少なくなった。養成校が増えた影響があるかもしれない。[東北]
- 昨年に比べ求人件数は増加した。[関東]
- 減少傾向(以前は県外の病院が全国から求人を頂いた)で2/3くらいに減少している。[中部]
- 数年来、4年制大学看護学部の増設によって関西地域の新卒者数が著しく増加し、看護師の就職活動は年々難しくなっている。[大阪]
- 例年よりも早く募集締め切りになる病院が多くあった。[中国]

## ③雇用形態、処遇(含・給与状況)等について

意見なし

## ④雇用者側の対応で改善された(よくなった)と感じた事例について

- 病院見学、面接や採用試験でオンラインが活用されていた。[関東]
- コロナ禍の中であったが、前年と比較して対面での対応が増えてきたように感じた。[大阪]
- 昨年度からのコロナ禍でオンラインでの面接希望に柔軟に対応して頂いた。[四国]

## ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

意見なし

## <准看護師>

### ①学生の就労意識、意欲について

- 昨年度より面接・小論文・病院研究に関して興味を持っている学生が増えた。[大阪]

### ②求人件数・求人内容について

意見なし

### ③雇用形態、処遇(含・給与状況)等について

意見なし

### ④雇用者側の対応で改善された(よくなった)と感じた事例について

- コロナ禍の中であったが、前年と比較して対面での対応が増えてきたように感じた。[大阪]

### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

意見なし

### <臨床検査技師>

#### ①学生の就労意識、意欲について

- 臨床実習が十分に行えていないため、就職に対する不安を感じている学生が多い印象があった。[中部]
- 自宅から通勤希望の学生が多い。[四国]

#### ②求人件数・求人内容について

- 昨年より健診・検診センターの求人が若干増えた。[中国]

#### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

意見なし

#### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

意見なし

#### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

- コロナ禍で見学対応が不可、選考もオンラインと現場の情報が少ないままで応募した。[中国]

### <理学療法士>

#### ①学生の就労意識、意欲について

- 臨床実習が十分に行えていないため、就職に対する不安を感じている学生が多い印象があった。[中部]

#### ②求人件数・求人内容について

- 県外が減少した。[中部]

#### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

意見なし

#### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

- メールが増えた。[中部]

#### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

- 内定をもらったが施設の経営が別法人に譲渡され、内定を辞退することになった。[中部]

### <作業療法士>

#### ①学生の就労意識、意欲について

○臨床実習が十分に行えていないため、就職に対する不安を感じている学生が多い印象があった。[中部]

#### ②求人件数・求人内容について

○県外が減少した。[中部]

#### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

意見なし

#### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

○メールが増えた。[中部]

#### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

○内定をもらったが施設の経営が別法人に譲渡され、内定を辞退することになった。[中部]

### <柔道整復師>

#### ①学生の就労意識、意欲について

意見なし

#### ②求人件数・求人内容について

○求人件数は前年ほぼ同様。（21卒：279件→22卒：270件）[東京]

#### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

意見なし

#### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

意見なし

#### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

意見なし

## <視能訓練士>

### ①学生の就労意識、意欲について

- 臨床実習が十分に行えていないため、就職に対する不安を感じている学生が多い印象があった。[中部]

### ②求人件数・求人内容について

- 県外が減少した。[中部]

### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

意見なし

### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

- メールが増えた。[中部]

### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

- 内定をもらったが施設の経営が別法人に譲渡され、内定を辞退することになった。[中部]

## <歯科衛生士>

### ①学生の就労意識、意欲について

- 関東圏を希望する学生が減った。[東北]
- 今年度卒業生は就労意識が高く、例年より就職活動、内定時期が2ヶ月程早かった。[関東]

### ②求人件数・求人内容について

- 求人件数は増加傾向にある。[東京]
- 僅かではあるが増加した。[東京]
- 昨年と比較し、求人件数は増加していた。[関東]
- 求人件数はわずかに増加。[関東]
- 慢性的な歯科衛生士不足により求人増加。[九州]

### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

- 年々、賃金が高くなっている。（特に、月給の賃金）[中部]
- 初任給平均額増加。[九州]

### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

意見なし

## ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

- 活動と内定時期が早かったこともあり、例年の活動時期に採用を考えていた雇用者が困惑していた。[関東]

## <調理師>

### ①学生の就労意識、意欲について

- 新型コロナウイルス感染症に伴う今後の就職状況を鑑み、学生には早期から活動するように指導した。学生は意欲的に取り組んだと思う。[関東]
- 病院や施設でなく健康な人への食の提供希望が多い。[中国]

### ②求人件数・求人内容について

- ホテルやレストランの求人件数については多少減少し、募集が行われない企業もあった。[関東]
- 飲食、ホテル、式場などが大幅に減少した。[中国]

### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

- 新型コロナウイルス感染症の影響から、雇用形態も制限されることがあった。[関東]

### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

- WEB面接等で臨機応変に対応していただいたため、スムーズにできた。[関東]

### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

- 選考のステップについて、長期間で4次面接まで選考が行われたため、選考結果が分かるまでに長い時間を要した事例があった。[関東]

## <製菓衛生師>

### ①学生の就労意識、意欲について

- 資格職であることと、ゆくゆくは独立することを考える学生もいるので最初の企業選びは慎重になる。[関東]
- 就業環境の理解不足による応募職種の変更。[中部]
- 製菓専門職として就労を目指す意識、意欲は高いが、自身の技術を高めることを優先したがゆえに機会を逃した事例もあった。[九州]

### ②求人件数・求人内容について

- 令和2年度は専門職（洋菓子）の求人が極端に少なかったが、令和3年度は従来どおりに回復した。[関東]
- 飲食・ホテル・ウェディング業界の求人数の減少。[中部]

○宿泊業やある程度の規模の製菓関連企業からは求人が寄せられるものの、本来製菓の世界は横のつながりが強く、かつ「人を求める」と言うよりも、如何に自主性と意欲をもって応募してくるかを重視し、採用した人物を育成していこうとする「徒弟制度」的な風潮が依然強いため、個人店などからの求人情報の提供は例年数えるほどしかない。[九州]

**③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について**

○給与形態としてはあまり恵まれた状況ではない。[九州]

**④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について**

意見なし

**⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について**

○個人店に多かったが繁忙期に学生にインターンシップとして働かせること。[関東]

**<美容師>**

**①学生の就労意識、意欲について**

○働く処遇が悪くなく、手に職が就き一生働けることから、美容師になりたい学生が増えた。有名サロンといった憧れだけでなく、長く働けるか、そこで何をがんばりたいか、頑張るための処遇などをしっかりと見て企業や店舗選びをする学生増えた。[大阪]

**②求人件数・求人内容について**

意見なし

**③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について**

意見なし

**④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について**

○大手以外の中小企業のサロン様の働き方改革への意識や業界を高水準でクリーンな業界にしようと努力されている事業主が多い。給料も上がっており他業種より良い。[大阪]

**⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について**

意見なし

## <自動車整備士>

### ①学生の就労意識、意欲について

意見なし

### ②求人件数・求人内容について

意見なし

### ③雇用形態、処遇（含・給与状況）等について

○若干の基本給の上昇があった。[中部]

### ④雇用者側の対応で改善された（よくなった）と感じた事例について

意見なし

### ⑤雇用者側の対応に苦慮した事例について

意見なし

## その他の専門職の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(まとめ)

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

直接的な要因での事例はなかったが、製菓衛生師や図書館司書の求人数が多くないとの意見があった。

### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

専門職は対人業務が主であることから、対面面接を重視する傾向は変わっていない。しかし、「(A) 最終面接まですべて対面」が、令和2年度に対して令和3年度の比率は減少した。つまり、オンラインを活用した採用形態は残っていくことを示唆している。

採用面接の形態	(A) 最終面接まで 全て対面		(B) 最終面接まで 全てオンライン		(C) 最終面接のみ 対面で実施	
	令和3	令和2	令和3	令和2	令和3	令和2
年度	令和3	令和2	令和3	令和2	令和3	令和2
比率	77%	87%	3%	4%	20%	9%

### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

令和3年度も緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出により、実習中止が発生したという回答が多く、いずれも学内実習へ切り替えて対応したという回答だった。実習先で発熱した学生が出た場合に、そのグループ全体に対してPCR検査の要求があり、大学でPCR検査を受けてその結果を報告するというケースがあった。

### ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

- ・病院から条件としてワクチン接種を求められた場合は、学生へワクチン接種を促した。
- ・事情によりワクチン接種ができない学生には実習先の変更を行った。
- ・ワクチン接種していない学生には実習前にPCR検査を受けるよう求められ、大学にてPCR検査を実施した。

### ⑩その他(コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと)

- ・集団面接が実施されないケースがあった。(小学校教諭・特別支援学校教諭)
- ・実習期間が後ろ倒しとなり、就活と国試勉強の時期が重なる学生が増えた。(歯科衛生士)
- ・遠方の会社は実技試験と面接試験をオンラインで実施していた。(歯科技工士)
- ・病院見学はなし、オンライン説明会のみで受験を行うケースがあった。コロナ禍前は秋以降にも試験を行う病院もあったが、コロナ禍以降、早期終了する病院が増えた気がする。小論文の事前提出や適性検査などもオンライン対応が増えた。(看護師)

## その他の専門職の令和3年度の就職・採用活動における 具体的な事例や対応について(具体的記述内容一覧)

### <小学校教諭>

#### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

○新型コロナウイルスを直接の原因として、進路変更をした学生はいなかった。[関東]

#### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・9
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・0
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・0

#### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

○内 容：地方の公立小学校に実習受け入れの依頼をしたが、東京の大学ということで断られたり、難色を示されたりすることがあった。それにより、実習時期が通常よりも遅れてしまった学生もいた。[東京]

対応策：受け入れてくれる都内の公立小学校を探し、免許取得を希望する全学生の実習は実施することができた。

#### ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

○ワクチン接種が義務付けられる実習先もあり、事情があって未接種の学生については実習先を変更することもあった。[九州]

○実習に際して、抗原検査を実施した。[九州]

#### ⑩その他(コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと)

○小学校教諭を目指す学生は、通常小学校でのボランティア活動を行っているが、ボランティアの募集がなく、不安を感じる学生が多くいた。[東京]

○一次試験や二次試験の採用面接において、これまで実施されていた集団面接が実施されなかった。[九州]

### ＜中学校教諭＞

#### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

○各教育委員会が実施した採用試験では、時下の状況に鑑みた採用試験のオンライン化等にばらつきが見受けられた。[中部]

#### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・ 4
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・ 1
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・ 0
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0

#### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

意見なし

#### ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

意見なし

#### ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

意見なし

### ＜養護教諭＞

#### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

#### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・ 3
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・ 0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・ 0
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0

#### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

意見なし

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

○接種必須の事業所は多くはなかった。[近畿]

⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

意見なし

#### <特別支援学校教諭>

⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

a 最終面接まで全て対面・・・1

b 最終面接まで全てオンライン・・・0

c 最終面接のみ対面で実施・・・0

d その他・・・・・・・・・・・・・0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

意見なし

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

意見なし

⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

○現場の教員が不足していることを感じた。[東京]

## <図書館司書>

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

○求人が少ない、もしくはあっても非常勤であること等、司書の就職状況は早期から学生に伝え、方針をよく考えるように指導している。[中部]

### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・4
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・0
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・0

### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

意見なし

### ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

意見なし

### ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

意見なし

## <看護師>

### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

○関東圏から東北地方に変更する学生は数名いたが、そもそも関東圏を志望する学生が例年の半分ぐらいであった。[東北]

### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・8
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・2
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

(半々等)

## ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

- 内 容：実習先によって、発熱している学生がいた際にそのグループの PCR 検査を要求された。[関東]  
対応策：大学で PCR 検査を受け報告、実習先の規定にのっとり、発熱学生は出席停止にして学内実習を行った。
- 内 容：感染警戒レベルが5になった時と本学に陽性者が出た時に、実習を断られた。[中部]  
対応策：学内実習に切り替えた。
- 内 容：病院により実習が中止となった。[大阪]  
対応策：学内実習への切り替えを行った。
- 内 容：緊急事態宣言や蔓延等防止措置が出ている間、病院実習は中止された。[大阪]  
対応策：臨地実習を学内実習に切り替えて実施した。
- 内 容①：領域実習では、実習受け入れができない状況が発生した。(訪問看護ステーション、高齢者施設、一部病院) [中国]  
対応策①：学内実習に振り替えて、シミュレーション演習などで代替えを行った。  
内 容②：インターンシップや病院見学会が中止となった。  
対応策②：オンライン説明会への参加やオンラインでの合同説明会への参加を学生に呼び掛けた。
- 内 容：自県のコロナ感染のレベルが上がったことにより実習の受け入れが難しいと断られた。[四国]  
対応策：学内実習や実習先の変更等の対応をした。

## ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

- ワクチン接種をしていない学生で、実習先の病院より PCR 検査が必要な場合は、実習前に大学で PCR 検査を受け実習に望んだ。[関東]
- 実習病院により、受け入れ条件としてワクチン接種が求められたため、学生の接種促進と実習先を調整した。[大阪]

## ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

- 病院見学もなしでオンライン説明会のみ、あるいはそれもなく試験を受けなければならぬ学生が少なくなかった。[東北]
- 小論文の事前提出、WEB 上の適性検査等のオンラインの対応が増えた。[関東]
- コロナ禍前までは就職試験が秋以降もあり、選択肢が広がったが、コロナ禍では採用試験が早くに終了する病院が増加した。また、実習で県外移動に制限があったため、オンラインでの採用試験を実施している病院に集中して応募する状況があった。[中国]

### <准看護師>

#### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

#### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・ 1
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・・・ 0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・ 0
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0

#### ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

○内 容：病院により実習が中止となった。[大阪]

対応策：学内実習への切り替えを行った。

#### ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

○実習病院により、受け入れ条件としてワクチン接種が求められたため、学生の接種促進と実習先を調整した。[大阪]

#### ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、特異なこと）

意見なし

### <臨床検査技師>

#### ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

#### ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・ 2
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・・・ 0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・ 1
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

○内 容：病院側の判断で実習が中断となった。[四国]

対応策：学内実習や実習先の変更等の対応をした。

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

意見なし

⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

○説明会がオンラインで現地に行かずに応募を決めざるを得ないケースもあった。[中国]

### <理学療法士>

⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・4

b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・0

c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・1

d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

○内 容：実習は「延期」や「中止」があった。[中部]

対応策：学内実習に切り替え、学内でサポートした。

○内 容：病院側の判断で実習が中断となった。[四国]

対応策：学内実習に切り替えて行った。

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

○学校として集団接種を推奨したためワクチン接種の点での影響はなかった。[中部]

○医療系のため、実習に際してワクチン接種を求められる施設があった。[中部]

⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

- 見学をオンライン対応する施設も増え、遠方の施設に実際に行かなくてもよいなどの利点もあった。[中部]

<作業療法士>

⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・ 4
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・ 0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・ 1
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

- 内 容：実習は「延期」や「中止」があった。[中部]  
対応策：学内実習に切り替え、学内でサポートした。
- 内 容：病院側の判断で実習が中断となった。[四国]  
対応策：学内実習に切り替えて行った。

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

- 学校として集団接種を推奨したためワクチン接種の点での影響はなかった。[中部]
- 医療系のため、実習に際してワクチン接種を求められる施設があった。[中部]

⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

- 見学をオンライン対応する施設も増え、遠方の施設に実際に行かなくてもよいなどの利点もあった。[中部]

### <柔道整復師>

⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・0
- b 最終面接まで全てオンライン・・・0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・1
- d その他・・・・・・・・・・0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

意見なし

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

意見なし

⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

意見なし

### <視能訓練士>

⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・4
- b 最終面接まで全てオンライン・・・0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・1
- d その他・・・・・・・・・・0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

○内 容：実習は「延期」や「中止」があった。[中部]

対応策：学内実習に切り替え、学内でサポートした。

○内 容：病院側の判断で実習が中断となった。[中部]

対応策：学内実習に切り替えて行った。

**⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について**

○学校として集団接種を推奨したため、ワクチン接種の点での影響はなかった。[中部]

○医療系のため、実習に際してワクチン接種を求められる施設があった。[中部]

**⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）**

○見学をオンライン対応する施設も増え、遠方の施設に実際に行かなくてもよいなどの利点もあった。[中部]

**<歯科衛生士>**

**⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について**

意見なし

**⑦採用面接の形態について、一番多かったもの**

a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・9

b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・0

c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・2

d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

**⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について**

○内 容：保育園や小学校へ実習に行けなかった。[関東]

対応策：学内の実習で補填した。

**⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について**

意見なし

**⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）**

○コロナ禍のため実習スケジュールが後ろ倒しとなり、就活時期と国試勉強の時期が重なってしまう学生が例年よりも増加した。[東北]

### <歯科技工士>

⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・1
- b 最終面接まで全てオンライン・・・0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・1
- d その他・・・・・・・・・・0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

意見なし

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

意見なし

⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

○昨年度同様に、遠方の会社は実技試験や面接試験をオンラインにて実施していた。[関東]

### <調理師>

⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

○ホテルやレストランにおいては、今年は募集していない職種等があったことから他の企業へ進路変更をした事例があった。[関東]

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・2
- b 最終面接まで全てオンライン・・・0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・0
- d その他・・・・・・・・・・0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

意見なし

- ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について  
意見なし

- ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）  
○ホテルやレストランからの求人件数が減少し、例年よりも厳しい状況での就職活動となった。  
[関東]

### <製菓衛生士>

- ⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

- ホテル・ウエディング業界の求人数の減少により、希望職種を変更。[中部]  
○当年度においては、コロナを直接的な要因とする進路変更はなかった。[九州]

- ⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・3  
b 最終面接まで全てオンライン・・・0  
c 最終面接のみ対面で実施・・・4  
d その他・・・0

- ⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

- 内 容：コロナ感染者増加の時期と重なり、研修は中止となった。[関東]  
対応策：学内では研修をしないこととした。

- ⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

- サービス職（接客）に内定した学生がワクチン接種をしておらず、内定先より接種の推奨があった。[関東]

- ⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）  
意見なし

### <美容師>

⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

○大学への編入。[大阪]

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・ 2
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・ 1
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・ 1
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

意見なし

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

意見なし

⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

意見なし

### <自動車整備士>

⑥新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について

意見なし

⑦採用面接の形態について、一番多かったもの

- a 最終面接まで全て対面・・・・・・・・・・ 2
- b 最終面接まで全てオンライン・・・・・・ 0
- c 最終面接のみ対面で実施・・・・・・・・・・ 0
- d その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0

⑧新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例とその対応策について

意見なし

⑨学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例とその対応について

意見なし

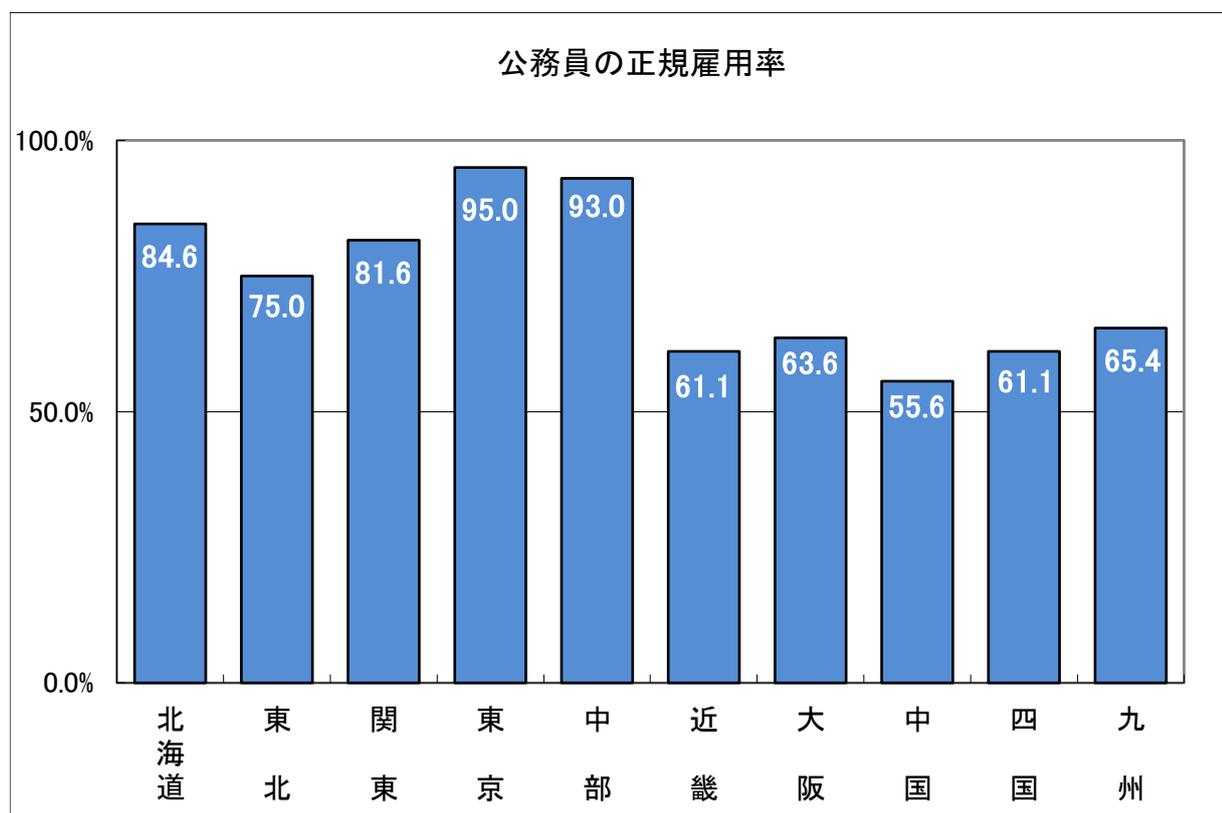
⑩その他（コロナ禍における就職・採用活動において、起こった特異なこと）

意見なし

## 令和3年度公務員の地域別雇用形態の状況

	就職 決定者数	正規 雇用者数	非正規 雇用者数	正規 雇用率
北海道	39	33	6	84.6%
東北	24	18	6	75.0%
関東	38	31	7	81.6%
東京	20	19	1	95.0%
中部	43	40	3	93.0%
近畿	18	11	7	61.1%
大阪	11	7	4	63.6%
中国	9	5	4	55.6%
四国	18	11	7	61.1%
九州	26	17	9	65.4%
計	246	192	54	78.0%

注)本公務員は、一般行政職、学校事務職、自衛官、消防士等に就いた者を指します。



調査票1

令和3年度私立短大卒業生の卒業後の状況調査

日本私立短期大学協会  
就職問題委員会  
(提出締切期日 令和4年5月27日)

短大名	記入者氏名	就職関係部署直通		TEL	FAX		1 職員のみで構成 2 職員・教員で構成 ※該当する番号をお答え下さい。	回答欄
		電話番号(代表)						
短大所在都道府県名								

\*入力上の注意をご一読のうえ、貴学の令和3年度卒業生の分野別就職希望者数・決定者数・就職以外の進路者数・卒業者数をご入力ください。 ※本調査対象は、本科第1部(昼間)学科のみで、第2部(夜間)、第3部(昼間2交替制)、専攻科は対象外です。

分野別学科名	1.人文	2.社会	3.教養	4.工業	5.農業	6.保健	7.家政	8.教育	9.芸術	10.その他
当該設置学科名 (出身学科名)  ※専攻分離している場合でも 学科単位(合算して)で入力。 (入力上の注意)の3・4・5参照										
就職希望者数										

就職決定者数 (a)										
自県内就職者数(内数)										

	雇用形態	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用	正規雇用	非正規雇用
		企業・団体																			
公務員 (行政職)																					
専 門 職	幼稚園教諭	公立																			
		私立・民間																			
	保育士	公立																			
		私立・民間																			
	介護福祉士	公立																			
		私立・民間																			
	栄養士	公立																			
		私立・民間																			
その他の国家資格を有する専門職 ( )																					
( )																					
( )																					
( )																					

↑(入力上の注意)の「6」5)を参照

就職 以外 の 進 路 者 数	進学者	四年制大学への編入学者																		
		短大専攻科への進学者																		
		専修・各種学校等への入学者																		
		一時的な仕事に就いた者																		
その他(上記以外の者)																				
計 (b)																				
卒業者数 a+b																				

注1) 就職決定者数の内訳を入力した際、(a)「就職決定者数」と合致しない場合には、黄色で『不一致』と表示されます。ご確認ください。

注2) 卒業者数は、(a)「就職決定者数」と(b)「就職以外の進路者数+その他」を合計した数になります。計算式により自動的に表記されます。卒業者数を必ず確認してください。

調査票2	学校番号	短期大学名	短大所在 都道府県名	

【1】貴学就職部署における令和3年度の取組みについてお聞かせください。

共通設問	1	コロナ禍での学生に対する就職支援はどのように行いましたか。(1つ選択) a <input type="checkbox"/> 全てオンラインで行った      b <input type="checkbox"/> 対面とオンライン両方で行った      c <input type="checkbox"/> 全て対面で行った
	2	上記でaまたはbを選択した場合、就職支援をオンラインで行う際に配慮したこと、工夫したことなどについて
	3	インターンシップやボランティア活動などを促進するために行った取組みについて
	4	地域創生の観点から、自県内就職率の上昇を目標としている短大において実際に行った取組み、または検討中の取組みについて

【2】以下について、該当する業種（企業・団体、幼稚園教諭・保育士、介護福祉士、栄養士、その他の専門職）についてご回答ください。

企業・団体	1. 下記の該当する各項目について、令和3年度の就職・採用活動において前年度（令和2年度）と比較して変化がありましたら、その具体的内容・事例等をお聞かせください。	
	①	学生の就労意識、意欲について
	②	求人件数・求人内容について
	③	雇用形態、処遇(含・給与状況)等について
	④	雇用者側の対応で改善された(よくなった)と感じた事例について
	⑤	雇用者側の対応に苦慮した事例について
	2. 令和3年度の就職・採用活動において具体的な事例や対応等をお聞かせください。	
	⑥	新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について
	⑦	採用面接の形態について、一番多かったものを選んでください。(1つ選択) a <input type="checkbox"/> 最終面接まで全て対面      b <input type="checkbox"/> 最終面接まで全てオンライン      c <input type="checkbox"/> 最終面接のみ対面で実施      d <input type="checkbox"/> その他 (      )
	⑧	新型コロナウイルスの影響により、インターンシップの参加や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例などありましたら、その具体的内容と対応策をお聞かせください。 具体的内容： 対 応 策： 具体的内容： 対 応 策： 具体的内容： 対 応 策：
⑨	その他、コロナ禍における就職・採用活動において、大きな変化があればお聞かせください。	

幼稚園教諭 ・保育士	1. 下記の該当する各項目について、令和3年度の就職・採用活動において前年度（令和2年度）と比較して変化がありましたら、その具体的内容・事例等をお聞かせください。
	① 学生の就労意識、意欲について
	② 求人数・求人内容について
	③ 雇用形態、処遇(含・給与状況)等について
	④ 雇用者側の対応で改善された(よくなった)と感じた事例について
	⑤ 雇用者側の対応に苦慮した事例について
	2. 令和3年度の就職・採用活動において具体的な事例や対応等をお聞かせください。
	⑥ 新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について
	⑦ 採用面接の形態について、一番多かったものを選んでください。(1つ選択) a <input type="checkbox"/> 最終面接まで全て対面    b <input type="checkbox"/> 最終面接まで全てオンライン    c <input type="checkbox"/> 最終面接のみ対面で実施    d <input type="checkbox"/> その他 (            )
	⑧ 新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例などありましたら、その具体的内容と対応策をお聞かせください。 具体的内容： 対 応 策： 具体的内容： 対 応 策： 具体的内容： 対 応 策：
	⑨ 学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例があればその対応と合わせてお聞かせください。
⑩ その他、コロナ禍における就職・採用活動において、何か特異なことがあればお聞かせください。	
⑪ 以下の施設への就職・採用活動において大きな変化がありましたらお聞かせください。 幼 稚 園： 保 育 所： 認定こども園： その他の施設：	

介護福祉士 (介護職)	1. 下記の該当する各項目について、令和3年度の就職・採用活動において前年度（令和2年度）と比較して変化がありましたら、その具体的内容・事例等をお聞かせください。
	① 学生の就労意識、意欲について
	② 求人件数・求人内容について
	③ 雇用形態、処遇(含・給与状況)等について
	④ 雇用者側の対応で改善された(よくなった)と感じた事例について
	⑤ 雇用者側の対応に苦慮した事例について
	2. 令和3年度の就職・採用活動において具体的な事例や対応等をお聞かせください。
	⑥ 新型コロナウイルスの影響で進路変更や希望の業種・職種を変更した学生の事例とその対応について
	⑦ 採用面接の形態について、一番多かったものを選んでください。(1つ選択) a <input type="checkbox"/> 最終面接まで全て対面    b <input type="checkbox"/> 最終面接まで全てオンライン    c <input type="checkbox"/> 最終面接のみ対面で実施    d <input type="checkbox"/> その他 (       )
	⑧ 新型コロナウイルスの影響により、実習や採用試験を断られた事例、内定を取り消された事例、採用条件を変更された事例などありましたら、その具体的内容と対応策をお聞かせください。 具体的内容： 対 応 策： 具体的内容： 対 応 策： 具体的内容： 対 応 策：
⑨ 学生のワクチン接種の有無が実習や採用試験、就職に影響した事例があればその対応と合わせてお聞かせください。	
⑩ その他、コロナ禍における就職・採用活動において、何か特異なことがあればお聞かせください。	

※以下、栄養士・その他の専門職の調査票は同一。

## <調査票への入力上の注意>

調査票データファイルは、「入力上の注意」「学校番号一覧」「分野別設置学科一覧」「調査票1」「調査票2」の5シートで構成されています。

その中の「学校番号一覧」のシートに掲載の貴学の学校番号を確認し、調査票1に記載されている学校番号の欄に貴学の学校番号を入力してください。調査票2にも反映されます。

各調査票の入力に際しては、下記の内容をご確認ください。

### 【調査票1】について

1. 学校番号を入力すると、貴学の「短期大学名」および「短大所在都道府県名」が表示されます。その他の項目については入力してください。
2. 各項目・各分野における人数は、令和4年5月1日現在の本科 **第1部(昼間部)** の状況をご入力ください。専攻科は対象外です。
3. 分野別学科名については、貴学における設置学科以外の欄には自動で網掛けが表示されますが、当該分野が網掛けになっている場合は、「分野別設置学科一覧」シートをご確認のうえ、当該分野にご入力ください。
4. 当該設置学科名については、卒業生の出身学科名をご入力ください。(学科名称のみで、専攻名は不要。)
5. 各欄に入力する人数は、同一分野で2学科以上を開設している場合、その合計数をご入力ください。  
(例: 食物栄養科と生活科学科を開設の場合は、「家政」欄の「当該設置学科名」欄にそれぞれの名称を入力し、それ以降の欄に合計人数を入力。)  
また、1つの学科に複数の専攻を開設している場合は、当該学科の分野を確認し、すべての専攻の人数を合計してご入力ください。  
(例: 生活学科に食物栄養専攻、介護福祉専攻、幼児教育専攻を開設している場合、「家政」欄に生活学科と入力し、それ以降の欄に3つの専攻の合計人数を入力。)
6. 各分野別の就職決定者数 (a) の内訳として、企業・団体、公務員 (行政職)、専門職の別に、正規雇用/非正規雇用の人数をそれぞれご入力ください。  
注 1) 「公務員(行政職)」欄には、一般行政職、公立学校事務、消防士、自衛官、警察官等の職に就いた者の人数をご入力ください。  
なお、幼稚園教諭、保育士、介護福祉士、栄養士の専門職免許・資格を活かして、公立の機関に就職した場合は、各専門職の公立の欄にご入力ください。  
2) 専門職については、資格を生かして就職した人数をご入力ください。  
専門職の有資格者であっても、資格を生かした職業に就いていない場合は、雇用主の状況に応じて、企業・団体もしくは公務員欄にご入力ください。  
また、例えば、保育士として企業・団体に就職した場合は、専門職・保育士の私立・民間の欄にご入力ください。  
3) 幼保連携型認定こども園に『保育教諭』として就職した場合は、「幼稚園教諭」の欄に含めて公立、私立・民間別にご入力ください。  
4) 国家資格を有する「介護福祉士」ではなく、介護員や支援員などの名目で、介護・福祉に関する専門職として介護施設や福祉施設に就職した場合は、企業・団体の欄に含めてご入力ください。  
5) その他の専門職とは、国家資格を必要とする職業《小学校教諭、中学校教諭、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校教諭、図書館司書、司書補、看護師、准看護師、臨床検査技師、臨床工学技師、理学療法士、診療放射線技師、歯科衛生士、歯科技工士、美容師、調理師、製菓衛生師、自動車整備士》等を示します。( )内に具体的職名および当該人数をご入力ください。  
6) 短期大学では取得できない国家資格・免許を有する者が貴学に入学し、就職する際、すでに取得していた資格を生かして就職した場合には、雇用主の状況に応じて、企業・団体もしくは公務員欄にご入力ください。
7. 自県内就職者数は、就職決定者(a)のうち、貴短期大学が所在する都道府県内において就職した人数をご入力ください。  
なお、就職地が不明の場合は、採用された雇用主の所在地により判断してください。
8. 非正規雇用は、派遣社員・契約社員・臨時採用等で、雇用期間が一年以上(一年未満であっても、継続により1年以上雇用されることが確実な者を含みます。)であり、かつ勤務形態が正社員に準ずるものの人数をご入力ください。
9. 就職以外の進路者数の中の「一時的な仕事に就いた者」とは、主にアルバイト・パートの臨時的な収入を目的とする仕事に就いた者をいいます。  
なお、派遣社員・契約社員などでも、契約内容が不明な場合には、この欄にご入力ください。
10. 「その他」は、どの項目にも該当しない者(就職未決定者、進路未決定者を含む)の人数をご入力ください。
11. 卒業者数は、就職決定者数の合計 (a) と就職以外の進路者数等の合計 (b) を足し合わせた数になります。

### 【調査票2】について

各項目に対し忌憚のないご意見、事例等をご入力ください。

記載されている専門職名以外に専門職を養成している場合には、該当する専門職名をご入力ください。

○調査票の集計に際し、不明な点を確認された場合には、ご入力いただいた方あてにお問合せをさせていただくことがありますので、ご協力くださいますようお願いいたします。(回答票の控え(コピー)を残していただければ幸いです。)

○お手数をおかけいたしますが、本調査票の **1、2** についてご回答いただき、来る5月27日(金)までにEメールに添付してお送りください。

(送付先Eメールアドレス: shuushoku@tandai.or.jp)

分野別設置学科一覧（令和2年度入学生）

①人文関係
英語(学)科
英文(学)科
英米語学科
英語コミュニケーション学科
英語キャリア・コミュニケーション学科
現代コミュニケーション学科
言語コミュニケーション学科
日本語コミュニケーション学科
国際コミュニケーション(学)科
グローバルコミュニケーション学科
国文(学)科
日本語日本文学科
日本語文化学科
文(学)科
表現学科
文化表現学科
表現文化学科
コミュニティ文化学科
人間コミュニティ学科
人間文化学科
総合文化学科
総合教養学科
地域教養学科
心理・人間関係学科
仏教(学)科
禅・人間学科
文化教養学科
現代英語学科
英語英文(学)科
英米文化学科
文化学科
日本文化学科
歴史学科
文化コミュニケーション学科

②社会関係
ビジネス法学科
商(学)科
経済(学)科
経営会計学科
経営実務科
経営情報(学)科
経営福祉学科
経営総合学科
ビジネス実務学科
ビジネス社会学科
ビジネス情報学科
情報ビジネス(学)科
ビジネス教養学科
ビジネスコミュニケーション学科
現代ビジネス(学)科
観光ビジネス学科
総合ビジネス(学)科
総合ビジネス・情報学科
未来キャリア学科
福祉学科
社会福祉(学)科
介護福祉(学)科
医療福祉学科
医療介護福祉科
子ども福祉学科
人間福祉学科
健康スポーツ・コミュニケーション学科
メディア・プロモーション学科
観光学科
国際観光学科
国際ビジネス学科
健康福祉(学)
キャリアデザイン学科
保健福祉学科
児童福祉学科
生活福祉学科
地域創生学科
地域共生学科

③教養関係
教養学科
現代教養学科
国際教養学科

④工業関係
自動車工学科
自動車工業(学)科
情報メディア学科
情報処理工学科
電気電子工学科
ものづくり・サイエンス総合学科
モータースポーツエンジニアリング学科
建築・生活デザイン学科
ものづくり創造工学科
機械工学科
生命・物質化学科

⑤農業関係
農学ビジネス学科
緑地環境学科
園芸科
包装食品工学科

⑥保健関係
ライフケア学科
リハビリテーション学科
医療秘書学科
看護(学)科
口腔保健学科
歯科衛生(学)科
歯科衛生士学科
歯科技工学科
歯科技工士学科
養護保健学科
臨床検査(学)科
救急救命学科
健康生活学科
養護保健学科
医療衛生学科
放射線技術科
医療保育学科

⑦家政関係
家政(学)科
生活(学)科
生活科学(学)科
生活文化(学)科
環境文化学科
生活環境学科
生活コミュニケーション学科
生活デザイン学科
生活プロデュース学科
生活実践科学科
生活創造学科
生活造形学科
生活福祉情報科
生活未来学科
人間健康科
人間生活学科
現代生活学科
総合生活デザイン学科
総合生活学科
総合生活キャリア学科
ライフプランニング総合学科
ライフデザイン学科
コミュニティ生活科
健康福祉学科
美容生活文化学科
栄養(学)科
栄養健康学科
健康栄養学科
食生活学科
食物栄養(学)科
食物(学)科
実践食物学科
ヘルスケア栄養学科
製菓学科
調理製菓学科
服飾学科
服飾芸術科
ファッション学科
ファッション総合学科
フードデザイン学科
生活ナビゲーション学科
生活芸術科
生活福祉(学)科

⑧教育関係
初等教育(学)科
児童教育(学)科
児童福祉学科
幼児教育(学)科
幼児保育学科
幼児教育(・)保育(学)科
幼児・児童教育学科
保育(学)科
保育創造学科
実践保育学科
総合保育学科
子(こ)ども学科
子(こ)ども教育学科
現代子ども学科
子ども健康学科
子ども未来学科
こども育成学科
地域こども学科
地域保育学科
コミュニティ子ども学科
国際こども教育学科
体育(学)科
保健体育学科
健康・スポーツ学科
人間教育学科
現代幼児教育学科
保育・幼児教育
児童総合学科
人間発達学科
医療保育科

⑨芸術関係
美術(学)科
デザイン美術(学)科
アート・デザイン学科
芸術(学)科
メディア・芸術学科
造形学科
造形芸術学科
芸術表現学科
音楽(学)科
音楽総合科
美容ファッションビジネス学科
美容総合学科

⑩その他
文化芸術学科
キャリアデザイン学科
キャリアプランニング科
キャリア開発学科
キャリア開発総合学科
キャリア創造学科
キャリア教養学科
キャリア育成学科
総合キャリア教育学科
総合文化学科
国際文化交流学科
総合人間学科
人間総合学科
生活デザイン総合学科
コミュニティ総合学科
ビジネスキャリア学科
ビジネス・コミュニケーション学科
ビジネスライフ学科
ビジネス総合学科
ライフデザイン学科
ライフデザイン総合学科
子ども福祉未来学科
地域みらい学科
地域総合文化学科
地域生活支援(学)科
総合コミュニケーション学科
キャリア・コミュニケーション学科
秘書科

## 就職問題委員会委員一覧

日本私立短期大学協会  
(令和4年8月現在)

委員長	鈴木 利 定	群馬医療福祉大学短期大学部 理事長・学長
副委員長	柿 崎 雅 美	青森中央短期大学 キャリア支援課 リーダー
委員	小 塚 賢	北星学園大学短期大学部 就職支援課長
〃	長 津 一 博	群馬医療福祉大学短期大学部 就職センター長
〃	橋 本 聡 恵	聖徳大学短期大学部 キャリア支援課長
〃	若 林 晃	千葉経済大学短期大学部 キャリアセンター参事
〃	石 川 昌 宏	共立女子短期大学 学生支援課長
〃	永 岡 弘 美	東京家政大学短期大学部 学生支援センター キャリア支援課長
〃	鈴 木 あ久利	目白大学短期大学部 就職支援部長
〃	若 月 博 延	金城大学短期大学部 就職進学支援部部長補佐・教授
〃	中 島 和 成	愛知みずほ短期大学 キャリアセンター長 兼 キャリア指導室長
〃	有 本 昌 剛	関西外国語大学短期大学部 学長補佐・進路指導部長・教授
〃	山 田 雅 子	武庫川女子大学短期大学部 キャリアセンター次長
〃	増 田 智 也	安田女子短期大学 キャリア支援課長
〃	相 川 賢 士	西九州大学短期大学部 学生支援部 学生支援課長

(順不同・敬称略)

